

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(哺乳類)>

網かけセルはバリエーション後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

資料2-1

H26年度第2回リスト作成会議

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度・実効性・ 実行可能性 | 特定外来 旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | |
|-------------------------------|-----------|-------------|-----------------------------------|--------------|-----------------|---------------------------------|----------|-------|----|----|-------|----|----|------|------|----|-----------|----|-------|----|--------|--------|--|---------------------------------------|---|---|--|---|--|---|----------------------|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | 重要地域 | 人体 | 経済 | 産業 | 利用 | 付着 | | | | | | | | | 混入 | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 特定外来 | ジャワマングース | <i>Herpestes javanicus</i> | IV | ◎ | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、マレーシア、インドネシア | - | 森林、草地、農耕地 | - | - | 日本に定着しているマングースは本種であると考えられていたが、調査の結果、ファイマングースとして別種として扱うことが明らかになった。 | ①特定外来、②W100:日本・IUCN | Veron et al.(2007) | |
| その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | フクロギツネ | <i>Trichosurus vulpecula</i> | I,IV | ○ | - | - | - | ◎ | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | オーストラリア | - | 森林性、人家に入り込むこともある。 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 牛結核や寄生性線虫の伝播。 | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD、④各県:北海道 | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 3 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | カニクイザル | <i>Macaca fascicularis</i> | I,IV | ○ | - | ◎ | ○ | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ◎ | - | - | 東南アジア原産。パラオ、モーリシャス、サモア等の島嶼に侵入。 | - | 森林、マングローブ等 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ニホンザルとの競合・交雑、寄生虫や病原菌の伝播、農業被害。1971年に伊豆諸島地内島に放されて野生化したのが、1995年ごろに消滅。 | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD | 自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011) | |
| 4 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | タイリクモモンガ | <i>Pteromys volans</i> | I | ○ | - | ◎ | ◎ | - | - | ○ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | ロシア、カザフスタン、中国東北部、朝鮮半島 | - | 森林 | かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | エゾモモンガ <i>P. v. oril</i> は本種の亜種。 | ①特定外来、④各県:北海道、京都 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 5 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | トウハイヒロリス | <i>Sciurus carolinensis</i> | I,III | ○ | - | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - | 北米原産。ヨーロッパ、南アフリカ、オーストラリアに侵入。 | - | 森林、公園 | かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | リスボックスウイルスの媒介、樹皮剥ぎ被害。 | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD、④各県:北海道 | Gurnell et al.(2006)、自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 6 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | フィンレイソリス | <i>Callosciurus finlaysonii</i> | I,III | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - | ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー等 | - | 原生林、二次林、植林地や公園など、多様な森林環境 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 静岡県浜松市では、クリハラリスと思われる個体からフィンレイソリスのミトコンドリアDNAゲノムが確認されている。 | ①特定外来 | 蔵本(2009)、Francis, M. C.(2008) | |
| 7 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | カニクイアライグマ | <i>Procyon cancrivorus</i> | I,III,IV | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - | 中南米 | - | 水辺の森林 | かつてアライグマに混入してペットとして輸入されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | アライグマと同様の被害を及ぼす可能性。 | ①特定外来、④各県:滋賀 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 8 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | フェレット | <i>Mustela furo</i> | I | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | ヨーロッパのヨーロッパバクナガイイチを家畜化。北米、ニュージーランドに侵入。 | - | ヨーロッパバクナガイイチは、森林、草原、耕作地 | ペットとして大量に流通し、飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 知見の集積が必要 | ①要注意、③GISD、④各県:北海道、千葉、兵庫、愛媛 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 9 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | シママングース | <i>Mungos mungos</i> | I,IV | ○ | - | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - | アフリカ | - | 森林、草地等 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | | ①特定外来 | Wilson & Mittermeier (eds.)(2009) | |
| 10 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | アキシスジカ(アキシスジカ)属 | <i>Axis spp.</i> | I,IV | ○ | - | ○ | ◎ | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - | インド、スリランカ原産。東ヨーロッパ、北米、南米、ニュージーランド等に侵入 | - | 森林、草原 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ニホンジカとの競合・交雑の可能性が指摘されている。本属には計4種が含まれる。 | ①特定外来、③GISD、④各県:京都(シカ亜科として) | 自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 11 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | ダマシカ属 | <i>Dama spp.</i> | I,IV | ○ | - | ○ | ◎ | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | - | - | ヨーロッパ、西アジア原産。世界各地に侵入。 | - | 森林、草原 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ニホンジカとの競合・交雑の可能性が指摘されている。 | ①特定外来、④各県:京都(シカ亜科として) | 自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 12 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | シフゾウ | <i>Elaphuirs davidianus</i> | I,IV | ○ | - | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | 中国 | - | 沼地、湿地 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 野生の個体群は絶滅した国際的な希少動物で、動物園で飼育されているのみ。現状では野外に逸出する可能性は低い。飼育下ではシカ属との交雑例が報告されている。 | ①特定外来、④各県:京都(シカ亜科として) | 自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①④⑤ | 特定外来 | タイワンザル | <i>Macaca cyclopis</i> | I,III | | | | | | | | | | | | | | | | 台湾 | 伊豆大島、大根島(静岡県)、和歌山 | 平地から亜高山帯までの樹林 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ニホンザルとの交雑。農業被害。 | ①特定外来、②W100:日本・IUCN、④各県:青森、東京、静岡、和歌山 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011) | |
| 14 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①④⑤ | 特定外来 | アカゲザル | <i>Macaca mulatta</i> | I,III | | | | | | | | | | | | | | | | 南アジア~インド | 南房総 | 湿地林~半乾燥地まで様々な森林。房総では常緑広葉樹林と耕作地が混在した丘陵地。 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 房総半島ではニホンザルとの交雑が進んでいる。寄生虫や病原菌の伝播、農業被害。 | ①特定外来、③GISD、④各県:千葉 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011) | |
| 15 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①⑤ | 特定外来 | キタリス | <i>Sciurus vulgaris</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | 旧北区全域 | 狭山丘陵 | 森林 | かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | エゾリス <i>S. v. orientalis</i> は本種の亜種であり、交雑が懸念される。本州以南ではニホンリスとの競合が予想される。ペスト等感染症や、ダニによる回帰熱の媒介。 | ①特定外来、④各県:北海道 | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 16 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①②③④⑤ | | ノヤギ(ヤギの野生化したもの) | <i>Capra hircus</i> | I,II | | | | | | | | | | | | | | | | 西アジア地中海沿岸が原産地とされている。 | 伊豆諸島八丈小島、小笠原父島、尖閣諸島鳥島等の島嶼 | 森林、草原等 | 家畜として飼育されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 摂食が植生の衰退を引き起こし、生態系の変容につながる。 | ④各県:愛媛、佐賀、鹿児島、沖縄 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011) | |
| 17 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①②③⑤ | 特定外来 | ファイマングース | <i>Herpestes auropunctatus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | 中東、南アジア、東南アジア、中国南部 | 沖縄島、奄美大島、鹿児島県本土 | 森林、草原、農地等 | かつてハブ及び野鼠を防除する目的で輸入、放逐された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 奄美大島でアマミクロウサギ、沖縄島でヤンバルクイナ等、多くの絶滅のおそれのある種に影響を与えている。日本に侵入した個体群はかつてはジャワマングース <i>H. javanicus</i> とみなされていた。 | ①特定外来、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:鹿児島、沖縄 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011)、亘(2011) | |
| 18 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ① | 特定外来 | キョン | <i>Muntiacus reevesi</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | 中国南部、台湾 | 千葉、伊豆諸島 | 森林 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 動物園の飼育個体が逸出して定着した。 | ①特定外来、④各県:千葉 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008) | |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実行可能性 | 特定外来 旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|----|------------|---------|------------------------------|--------------|------|-------------------|-------------------------------|--------|----|-------|----|------|----|------|-----------|------|----|------|---|-------------------|--|---|--|---|---|--|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | 分布拡大 | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | | | | | | 気候 | | | | | | | | |
| 19 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④ | ⑤ | 特定外来 | アライグマ | <i>Procyon lotor</i> | I, II | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 北米 | 都市部から森林、湿地、水辺 | かつてペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 知床国立公園入口付近及び支庁洞爺国立公園に侵入。北海道ではニホンザリガニやエゾサンショウウオの食害、サザギ類の消失などの生態系影響を生じている。なお、アライグマ回虫を人が経口摂取すると、中樞神経障害を引き起こすことがあるが、国内の野生化した個体からは検出されていない。 | ①特定外来、②W100:日本、③GISD、④各県:北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、佐賀、鹿児島 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011) | | |
| 20 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①④ | ⑤ | 特定外来 | クリハラリス(タイワンリス) | <i>Callosiurus erythraeus</i> | I, III | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 台湾、中国南部～インドシナ、マレー半島～インド北東部原産。アルゼンチン、ヨーロッパに侵入。 | 神奈川県、静岡県、岐阜、伊豆大島他 | 主に常緑広葉樹林、市街地、造林地 | かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 電線噛害等生活被害。農業被害。寄生虫の伝播の可能性。 | ①特定外来 | 日本生態学会(編)(2002)、浅川(2005)、田村・宮本(2005)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011) | |
| 21 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①④ | ⑤ | 特定外来 | ヌートリア | <i>Myocastor coypus</i> | I, III | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 南米中南部 | 本州中部以西 | 流れの緩やかな河川、湖、沼、沢地。 | かつて、毛皮用に養殖されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 兵庫県加西市のため池にて水生植物群落を破壊。ペコウトンボの減少の原因となった。圃山のため池では ブライの大食捕食、木曾川氾濫水域ではトンガリササノハグイ等のイシガイ科二枚貝類の捕食についての報告がある。農業被害、駐・堤防の崩壊化。 | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD、④各県:兵庫 | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011)、産(2002)、久米(2012) | |
| 22 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④ | ⑤ | | クマネズミ | <i>Rattus rattus</i> | I, II | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | インドシナ半島原産。汎世界的に分布。 | ほぼ日本全国 | 都市、農村、島嶼では森林に侵入することも多い。 | 利用に関する情報は得られていない。 | - | 人獣共通感染症媒介。ツツガムシとケオプスネズミの主要宿主。小笠原諸島や南西諸島では広東住血線虫の主要宿主。希少植物の食害や種子食害による森林の更新阻害なども生じさせる。 | ②W100:IUCN、③GISD、④各県:北海道、千葉、兵庫、鳥取、鹿児島、沖縄 | m | |
| 23 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | | ノネコ(イエネコの野生化したもの) | <i>Felis silvestris catus</i> | I, II | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 中東産のリビアヤマネコを家畜化。汎世界的に分布。 | 日本全国 | 都市、農村、森林 | イエネコはペットとして大量に飼養されている。 | - | 在来ヤマネコのいる対馬、西表島では感染症の伝播の可能性が指摘され、実際にツシマヤマネコへのFTVの感染が確認されている。奄美大島におけるアマミノクロウサギ、沖縄島やんばる地域におけるヤンバルクイナやノグテガラ等国内希少野生動物種を含む希少種の捕食が確認されている。御蔵島ではオオミズナギドリを捕食し、被害を与えていることが確認されている。 | ②W100:IUCN、③GISD、④各県:北海道、千葉、兵庫、鳥取、沖縄 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、山田ほか(2011) | |

重点対策外来種

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|---------|------|---|------|---------------------------------|------------------------------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|---|-------------------------|---|--|--|
| 24 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ① | / | 特定外来 | ハリネズミ属(アムールハリネズミ(マンシュウハリネズミ)など) | <i>Erinaceus spp.</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | ユーラシア東部 | 神奈川県、静岡県 | 草地、林縁、農地、湿地等。森林に生息することもある。 | かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 地上営巣性鳥類への悪影響が指摘されている。知見の集積が必要。 | ①特定、④各県:北海道、京都 | Jackson(2000)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 25 | 定着初期/分布限定? | 重点対策外来種 | ① | / | 旧要注意 | シマリス(チョウセンシマリス) | <i>Tamias sibiricus</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | ロシア、中国、朝鮮半島等原産。ヨーロッパに侵入。 | 新潟、山梨、岐阜等 | 森林、公園 | ペットとして流通し、飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | エゾシマリス <i>T. s. lineatus</i> は本種の亜種。在来種との交雑、競合が懸念。知見の集積が必要。 | ①要注意、③GISD、④各県:北海道、滋賀、兵庫、鳥取、愛媛 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 26 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①④ | / | 特定外来 | シカ属(国内産ニホンジカを除く) | <i>Cervus spp.</i> | I, IV | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | ユーラシア、北米原産。世界各地に侵入。 | 友ヶ島(和歌山) | 森林、草原、湿地等 | 特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 本属の現生種には11種が含まれる。捕食が植生の衰退を引き起こし、生態系の変化につながる。 | ①特定外来、④各県:京都(シカ科として) | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 27 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①④ | / | 特定外来 | マスカラット | <i>Ondatra zibbericus</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 北米原産。ヨーロッパ、アジアに侵入。 | 千葉、東京、埼玉 | 河川、湿地、沼地 | かつて、毛皮用に養殖された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | レンコンの農業被害。海外では営巣による堤防・ダム・鉄道築堤・灌漑施設の破壊。 | ①特定外来、④各県:千葉 | 阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 28 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①③ | / | | カイウサギ(アナウサギ) | <i>Oryctolagus cuniculus</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | イベリア半島、アフリカ北西部 | 渡島大島、松前小島、地内島、大久野島、沖ノ島等の島嶼 | 草原等 | ペットとして大量に流通・飼養されている。一部では毛皮用、食用用としても飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 捕食が植生の衰退を引き起こし、生態系の変化につながる。 | ②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:北海道、千葉、京都、愛媛、熊本、鹿児島、沖縄 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 29 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ① | / | 特定外来 | アメリカミンク(ミンク) | <i>Neovison vison</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 北米原産。中国、ヨーロッパに侵入・定着。 | 北海道、宮城、福島、群馬、長野 | 海岸部、河川、湖沼沿い | 毛皮用に養殖されてきた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | - | ①特定、④各県:北海道 | 自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 30 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①④ | / | | ハクビシン | <i>Paguma larvata</i> | III | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | ヒマラヤ、中国南部、台湾、マレー半島、スマトラ、ボルネオ | 本州～九州に点在。北海道も記録あり。 | 市街地～山地 | かつて、毛皮用に養殖されていたことがある。現在は展示用等で飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 農業被害、人家への侵入が問題になっている。国内で化石が存在しないこと、分布の不連続性に加えて、最近、遺伝子分析から少なくとも日本のハクビシンの一部は台湾を起源とすることが明らかになった。 | ④各県:北海道、青森、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、佐賀 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、増田ほか(2011) |
| 31 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③④ | / | | ドブネズミ | <i>Rattus norvegicus</i> | I, III | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | シベリア南東部、中国北部原産と考えられている。汎世界的に分布。 | 日本全国 | 都市等 | 本種を改良したラットが実験動物やペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 人獣共通感染症を媒介する。ツツガムシの主要宿主。 | ③GISD、④各県:北海道、千葉、兵庫、鳥取、鹿児島 | 阿部(監)(2008)、山田ほか(2011) |
| 32 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①④ | / | | ハツカネズミ | <i>Mus musculus</i> | III | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 原産地は不明。ユーラシア、アフリカ、オセアニア全域に分布。 | 沖縄を除く日本全土 | 家屋、農耕地、草地、河川敷、荒地、砂丘地等 | 実験動物やペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 農業被害。 | ②W100:IUCN、③GISD、④各県:北海道、滋賀、兵庫、京都 | 阿部(監)(2008) |
| 33 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①④ | / | | ノブタ・イノブタ(ノブタ・イノブタの野生化したもの) | <i>Sus scrofa</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 原産のイノシシはユーラシア原産。北米、オーストラリアに侵入。 | 各地 | 森林等 | 全国各地で主に食用に飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 小笠原諸島で、固有陸貝等に影響を与えていた個体群は根絶。対馬では在来のイノシシが絶滅した後、由来不明のイノシシが放され農業被害等が問題となっている。 | ③W100:日本・IUCN、④各県:北海道、滋賀、兵庫、京都 | 日本生態学会(編)(2002)、Nogueira-Filho et al.(2009)、岸本(2010) |
| 34 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | / | | ノイヌ(イヌの野生化したもの) | <i>Canis lupus</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 世界的に分布。 | 日本全国 | 都市、農村、森林 | イヌはペットとして大量に飼養されている。 | - | 奄美大島におけるアマミノクロウサギ、沖縄島やんばる地域におけるヤンバルクイナ等国内希少野生動物種を含む希少種の捕食が確認されている。 | ⑤その他 | 阿部(監)(2008) |

その他の総合対策外来種

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|-------------|---|---|------|------|-------------------------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|---------|------------|--------------------|-------------------------|-----------|------|----------------------|
| 35 | 定着初期/分布限定? | その他の総合対策外来種 | / | / | 旧要注意 | リスザル | <i>Saimiri sciureus</i> | IV | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 南米北部 | 伊豆半島で記録 | 森林、マングロープ等 | ペット、展示用として飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 知見の集積が必要。 | ①要注意 | 自然環境研究センター(編著)(2008) |
|----|------------|-------------|---|---|------|------|-------------------------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|---------|------------|--------------------|-------------------------|-----------|------|----------------------|

【国内由来の外来種】

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実行可能性 | 特定外来 旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-------------------------------|----------|---------|------------------------------|--------------|----|---------------|---------------------------------|--------|----|-------|----|------|----|------|----|------|----|------|---------------------------------------|---------------|------------|-------------------------|------|-----------------------|----------------|-----------------------------|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | 分布拡大 | | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | | | | | | 気候 | | | | | | | | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 国内由来の外来種 | 緊急対策外来種 | ① | ⑤ | | 伊豆諸島などのニホンイタチ | <i>Mustela itatis</i> | I, III | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 本州、四国、九州、周辺島嶼 | 北海道、伊豆諸島、南西諸島 | 農耕地、森林、草地等 | かつてネズミ駆除や毛皮目的で導入されたと多い。 | - | - | ④各県:北海道、鹿児島、沖縄 | 日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008) | |
| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ① | / | | 奥尻島・屋久島のタスキ | <i>Nyctereutes procyonoides</i> | I, III | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | 北海道、本州、四国、九州、佐賀、瀬戸内諸島、香枝、鹿、天草等。アジア東部。 | 奥尻島、屋久島 | 住宅地、農村、森林等 | - | - | 奥尻島で、地表性甲虫類に影響を与えている。 | ④各県:鹿児島 | 堀(2004)、阿部(監)(2008) | |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実行可能性 実効性 | 特定外来 /旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|----|--------------|-------------|-----------------------------------|---------------|-------------------|-------------------------------|--------|-------|----|-------|----|----------|------|----|----------|---------------|----------|-------|----------|---------------------------------|------------------------------|------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|---|--|-------------------------------------|------|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要 地域 | 特に問題と なる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 摂食 | 繁殖 | 気候 | | 人体 | 経済 産業 | 利用 | 付着 混入 | | | | | | | | | | |
| 3 | 国内由来の外 来種 | 重点対策 外来種 | ① | | 北海道・佐渡のテン | <i>Martes melampus</i> | I | / | / | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | - | - | ○ | - | - | 本州、四国、九州、 淡路島、対馬 | 北海道、佐渡 | 森林等 | かつて、毛皮用に飼養されたが、現在の利用 はないと思われる。 | | 北海道ではエゾクロテンとの置き換わりが進行してい る。佐渡では野生下トキの繁殖期における攪乱要因の 一つとして挙げられている。 | ④各県：北海道 | 日本生態学会（編） （2002）、阿部（監） （2008） | | |
| 4 | 国内由来の外 来種 | 重点対策 外来種 | ① | | 対馬以外のチヨウセンイタ チ | <i>Mustela sibirica</i> | I | / | / | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | - | - | ○ | - | - | 対馬 | 関西以西の本 州、四国、九州 | 都市、住宅地、 農耕地、森林 等 | 毛皮目的で導入されたと考えられる。 | | | ②W100：日本、④各 県：滋賀、京都、兵 庫、鳥取、愛媛、熊 本、鹿児島 | 日本生態学会（編） （2002）、阿部（監） （2008） | | |
| 5 | 国内由来の外 来種 | 重点対策 外来種 | ①④ | | 新島などのニホンジカ | <i>Cervus nippon</i> | I, III | / | / | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | ○ | - | - | ベトナム～極東ア ジア。北海道、本 州、四国、九州 | 新島、香岐、粟 島 | 森林等 | | | 1969年に地内島（新島の西1.5km）に観光目的で放した ジカが泳いで新島に渡ったことに由来する。 | ⑤その他 | 阿部（監）（2008） | | |
| 6 | 国内由来の外 来種 | 重点対策 外来種 | ①② | | 徳之島などのニホンイノシ シ | <i>Sus scrofa leucomystax</i> | I, III | / | / | - | ◎ | ○ | ○ | ○ | - | - | ◎ | - | - | 本州、四国、九州、 淡路島。 | 奄美大島、徳之 島、沖永良部 島、沖縄島など | 森林、農耕地 | 家畜、狩猟目的で導入されたと考えられる。 | 逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。 | 奄美大島、徳之島、沖縄島では、亜種リュウキュウイノ シシ <i>S. s. riukiuanus</i> との交雑が疑われる例が見つかっ ている。 対馬では在来のイノシシが絶滅した後、由来不明のイノ シシが放され農業被害等が問題となっている。 | ⑤その他 | 阿部（監）（2008） | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(鳥類)>

網かけセルはバブルコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策無効の要件 被害の深刻度 実効性 実行可能性 | 特定外来 種/旧要注 意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | |
|------------------------|------------|-------------|-----------------------------------|--------------------|----------|-------------------------|---------------------------------------|------------|----|-------|----|----------|----|----------|--------------------|-----------------------|----|---|---|--------|---|--|---|---|--|--|---|---|---|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | 分布拡大 | | 重要 地域 | 特に問題と なる被害 種 | 逸出・拡散 の 付着 源 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 侵入 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 被害 | 繁殖 | | | | 気候 | | | | | | | | | | | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注 | シリアカヒヨドリ | <i>Pycnonotus cafer</i> | I | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | インド、パキスタン、中国南部、ブータン、ミャンマー、タイ北部等原産。オーストラリア、太平洋諸島等に侵入 | 都市、農耕地、森林等 | ペットとして飼養されている可能性がある。 | ペット用の安易な輸入や飼養は控えることが望ましい。また逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 神奈川県での観察事例がある。 | ①要注、②W100:IUCN、③GISD | Christopher Lever(1987)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) | | |
| 2 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注 | 外国産メジロ | <i>Zosterops</i> spp. | I | ○ | ○ | ○ | - | - | ○ | - | - | - | ○ | - | ○ | - | 朝鮮半島、台湾、中国、ベトナム、フィリピン等原産 | 都市、農耕地、森林等 | ペット、鳴き合わせ等の愛玩目的で飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 日本産メジロの別亜種のヒメメジロ <i>Z. japonicus simplex</i> 、チヨウセンメジロ <i>Z. erythropleurus</i> 、ハイバラメジロ <i>Z. palpebrosus</i> 等を含む。輸入されていた個体の多くは、密猟された日本産と入れ替えて販売されていたという。「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」における動物の輸入届出制度により、高病原性インフルエンザの発生国や地域からの輸入が禁止されている。 | ①要注、④各県:京都 | 自然環境研究センター(編者)(2008) | | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①③ | ⑤ | 特定外来 | カナダガン | <i>Branta canadensis</i> | I | | | | | | | | | | | | | 北米原産。ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリアに侵入。 | 茨城、神奈川、山梨、静岡県 | 湖沼、河川等 | 展示目的等で飼養されているが、平成26年8月より特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 在来種のシジュウカラガン(<i>Branta hutchinsii</i>)や他の来ガン類と交雑する可能性が危惧されている。 | ①特定外来、③GISD、④各県:千葉 | Christopher Lever(1987)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) | |
| 4 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④ | ⑤ | 旧要注 | インドクジャク | <i>Pavo cristatus</i> | I, II, III | | | | | | | | | | | | | | インド、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ等原産 | 福島、埼玉、滋賀、三重、愛媛、小豆島、大隅諸島、牛島諸島 | 各地で観賞用に飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 先島諸島では駆除が行われている。 | ①要注、④各県:徳島・愛媛・沖縄 | 自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) | |
| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ① | | 特定外来 | ガビチョウ | <i>Garrulax canorus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | 中国中・西・南部、ラオス北東部、ベトナム北部、台湾原産。ハワイに侵入。 | 本州、四国、九州 | 丘陵地、平野の森林 | かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 分布拡大中。 | ①特定外来、②W100:日本、④各県:熊本 | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) |
| 6 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ① | | 特定外来 | カオグロガビチョウ | <i>Garrulax perspicillatus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | 中国中南部、ベトナム原産 | 岩手、群馬、埼玉、東京、神奈川県 | 森林、農耕地 | かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) |
| 7 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ① | | 特定外来 | カオジロガビチョウ | <i>Garrulax sannio</i> | I | | | | | | | | | | | | | | インド北東部、中国南部、東南アジア等原産 | 北関東～千葉 | 森林、住宅地、公園等 | かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) |
| 8 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ① | | 特定外来 | ソウシチョウ | <i>Leiothrix lutea</i> | I | | | | | | | | | | | | | | ヒマラヤ西部～ミャンマー南部、中国中部～南東部、インドアッサム州～ベトナム北東部原産 | 本州、四国、九州 | 森林(主に竹林、笹藪) | かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 分布拡大中。複数の国立公園内で確認されている(雲仙天草国立公園、富士箱根伊豆国立公園等)。 | ①特定外来、②W100:日本、③GISD、④各県:京都・兵庫・鳥取・徳島・熊本・宮崎・鹿児島 | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | コブハクチョウ | <i>Cygnus olor</i> | I | | | | | | | | | | | | | | ユーラシア原産。北米、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ等に侵入。 | 北海道ウトナイ湖(繁殖地)、茨城霞ヶ浦(越冬地)、鹿児島蘭牟田池、鹿儿島蘭牟田池。その他多くの府県で確認 | 湖沼、河川等 | 愛玩目的で屋外で飼養されることが多い。 | 逸出しないよう、十分な管理が望まれる。 | 知見の集積が必要。オオヒシクイと生息場所を巡る競合及び採食の生態系への影響が指摘されている。飼育個体は翼を切って飛べないようにした上で半ば放し飼いにされていることが多い。鹿児島県蘭牟田池(ラムサール条約登録湿地、泥炭植物群落は国指定天然記念物)では、観光目的で放し飼いにされているが、2014年にこのうち20羽余りが周辺の河川等へ逸出し、生態系への影響が懸念されている。 | ④各県:北海道・青森・千葉・愛知・京都・鳥取 | 川上ほか(2012)、朝日新聞記事(2014) |
| 10 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注 | コリンウスラ | <i>Colinus virginianus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | アメリカ中東部～メキシコ等原産 | 関東～近畿、四国 | 森林、草原、河川敷 | 猟犬の訓練用として放鳥された。 | 猟犬訓練のための放逐・放置は慎むべき。 | 知見の集積が必要。 | ①要注、④各県:京都・徳島 | 自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) |
| 11 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | ワカケホンセイインコ | <i>Psittacula krameri manillensis</i> | I | | | | | | | | | | | | | | インド中・南部、スリランカ原産。ヨーロッパ(イギリス、ドイツ、ベルギー、オランダ等)、アラブ諸国、北米、ハワイ等に侵入。 | 東京、千葉、神奈川県、愛知、京都、広島で繁殖した記録があるが、近年は、東京の西部や大田区、神奈川のの一部でのみ確認されている。 | 都市、森林等 | 愛玩目的として、ツキノワインコの名称で販売飼養されている。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 原産地のインドでは、農作物の害鳥として知られており、トウモロコシの苗やソルガムきび、ゴマ、小麦、大麦、芥子菜、落花生、マンゴー、グアバ、イチジク、ブドウ、モモ、ヒマワリ、ひよこ豆、ザクロ、貯蔵穀物など様々な作物への被害が記録されている(Lever, 1987)。 | ⑤その他 | Christopher Lever(1987)、日高(1997)、川上ほか(2012) |
| 12 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | コウライキジ(大陸産亜種) | <i>Phasianus colchicus karpowi</i> | III | | | | | | | | | | | | | | 中国南東部・朝鮮半島原産。種としてはヨーロッパ、北米、ハワイ、オーストラリア等に侵入。 | 北海道、本州、四国、九州、大隅、奄美・沖縄・先島諸島 | 草原 | 狩猟目的で放鳥された。 | 新たな放鳥は慎むべき。 | 北海道では生息数減少。2013年、石垣市では農作物被害が拡大(新聞記事)。在来キジとの交雑個体らしき個体も確認されている。 | ④各県:北海道・千葉・愛媛・鹿児島・沖縄 | 日本生態学会(編)(2002)、川上ほか(2012) |
| 13 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注 | クロエリセイタカシギ | <i>Himantopus mexicanus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | アメリカ西・南部、中米～ペルー西部、ブラジル北西部、西インド諸島等原産 | 奈良、京都、大阪 | 湿地、干潟、水田 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 奈良県で個人によって飼育増殖された個体が故意に多数放鳥された。大阪ではセイタカシギとの交雑が起きている可能性が指摘されている。 | ①要注、④各県:京都 | 自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) | |
| 14 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | シロガシラ | <i>Pycnonotus sinensis</i> ssp. | III | | | | | | | | | | | | | | 台湾原産。八重山諸島のものには在来亜種。 | 沖縄諸島 | 林縁、農耕地、草原 | ペットとして飼養されている可能性がある。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 亜種不明。定着の由来(自然分布、人為分布)が確定していない。 | ②W100:日本、④各県:沖縄 | 自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012) |
| 15 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 未判定 | ヒゲガビチョウ | <i>Garrulax cineraceus</i> | IV | | | | | | | | | | | | | | 中国南部～ミャンマー～インド原産 | 愛媛、高知 | 森林 | 少量だが、ペットとして飼養されることもあると考えられる。 | 逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。 | 高知県内では、複数の県立公園内(工石山、横倉山等)で確認情報が報告されている。知見の集積が必要。 | ①未判定外来 | 濱田ほか(2006)、川上ほか(2012) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(爬虫類)>

網かけセルはバリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-------------------------------|------------|-------------|---------------------------------|------------|-----------------------------------|--|----------------------------|--------|-------|------|------|-----------|-------|----|----|----|----|----|----|--|----------------------|-----------------------|--|-------------------------|--|--|---|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | 生態系被害 | 分布拡大 | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | | | | | | | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | ワニガメ属全種 | <i>Macrochelys spp.</i> | III, IV | ○ | ◎ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | 北米 | - | 河川、湖、池沼、湿原 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 動物愛護管理法で特定動物(危険な動物)に指定されており、飼養には許可が必要。 | ①要注意、④各県:愛知、滋賀、京都、兵庫、愛媛、佐賀 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編者)(2008)、小林(2009) | |
| 2 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | チズガメ属3種 | <i>Graptemys spp.</i> | IV | ○ | ◎ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | 北米 | - | 河川、池沼、湿地等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ニセチズガメ <i>G. pseudogeographica</i> 、フトマユチズガメ <i>G. ouachitensis</i> (サブーンチズガメ <i>G. o. sabinensis</i> を含む)、ミンシツピズガメ <i>G. kohnii</i> の3種。アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。 | ①要注意 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編者)(2008)、USGS-NAS | |
| 3 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | クーターガメ属 | <i>Pseudemys spp.</i> | IV | ○ | ◎ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | 北米、中米 | - | 河川、湖沼、汽水域 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ほとんどの種がペットとして輸入されている。特にペンシユラクーター <i>P. peninsularis</i> の輸入が多く、安価に販売されている。アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。 | ①要注意 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編者)(2008) | |
| 4 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | ニシキガメ属 | <i>Chrysemys spp.</i> | IV | ○ | ◎ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | 北米 | - | 河川、池沼、湿地 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | アカミミガメ等が規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。 | ⑤その他 | | |
| 5 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | チュウゴクセマールハコガメ | <i>Cuora flavomarginata flavomarginata</i> | IV | ○ | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - | 中国、台湾 | - | 森林とその周辺。河川の周辺、沼沢地、湿原。 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 八重山諸島に亜種ヤエヤマセマールハコガメ <i>C. f. evelynae</i> が分布。沖縄島ではしばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。本亜種の属するインガメ科は属間交雑のおそれもあるため、特に留意が必要。 | ⑤その他 | 日本生態学会(編)(2002)、Ota et al.(2004)、安川(2005) | |
| 6 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | ハナガメ | <i>Mauremys sinensis</i> | IV | ○ | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - | 中国、台湾、ベトナム | - | 河川、池沼等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 遺棄されたと考えられる個体が野外で見つかったことがある。アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。 | ①要注意、④各県:愛知 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編者)(2008) | |
| 7 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | アメリカスッポン属 | <i>Apalone spp.</i> | IV | ○ | ◎ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | 北米、中米 | - | 河川、池沼、湿地 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | フロリダスッポン <i>A. ferox</i> 、スベスッポン <i>A. mutica</i> 、トガスッポン <i>A. spinifera</i> が国内で多数販売されている。 | ①要注意、④各県:北海道 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編者)(2008)、USGS-NAS | |
| 8 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | ヒョウモンタカゲモドキ | <i>Eublepharis macularius</i> | IV | ○ | ◎ | - | - | - | - | - | - | - | - | ◎ | - | 南アジア~西アジア | - | 岩砂漠、低木林等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 爬虫類に病原性を持ち、在来種オビトカゲモドキに致死性のある原虫「クリプトスポリジウム」 <i>Cryptosporidium spp.</i> に感染している場合があり、在来爬虫類への感染が懸念される。 | ①要注意 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Terrell et al.(2003)、黒木(2005)、自然環境研究センター(編者)(2008) | |
| 9 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | ブラウンアノール | <i>Anolis sagrei</i> | I | ○ | ○ | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | 中米、西インド諸島原産。北米、ハワイ、ケイマン諸島、台湾等に侵入。 | - | 森林、農耕地等 | かつてはペット等として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | フロリダの侵入地では在来のグリーンアノールを駆逐している。 | ①特定外来、③GISD | 第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編者)(2008)、Huang et al.(2008a, 2008b)、Kraus(2009)、Latella et al.(2011)、ISSG-GISD | |
| 10 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | 特定外来生物のアノール属(グリーンアノール、ブラウンアノール除く) | <i>Anolis spp.</i> | IV | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | 西インド諸島 | - | 森林、草原等 | かつてはペット等として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | <i>Anolis allogus</i> 、 <i>A. alutaceus</i> 、 <i>A. angusticeps</i> 、ナイトアノール <i>A. equestris</i> 、ガーマンアノール <i>A. garmani</i> 、 <i>A. homolechis</i> の6種。 | ①外来法、特定、③GISD(一部の種) | 第5・6・7回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編者)(2008)、Kraus(2009)、Latella et al.(2011)、ISSG-GISD | |
| 11 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | ミナミオオガシラ | <i>Boiga irregularis</i> | I | ○ | ○ | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | ○ | ◎ | オーストラリア、ソロモン諸島、ニューギニア、インドネシア原産。グアムに侵入。 | - | 森林 | かつてペット等として飼養されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 沖縄島で貨物への混入に由来すると考えられる個体が捕獲されたことがある。弱毒だが咬まれると重症になることもある。 | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD | 第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編者)(2008)、Kraus(2009)、ISSG-GISD、 | |
| 12 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | 特定外来生物のオオガシラ属(ミナミオオガシラを除く) | <i>Boiga spp.</i> | IV | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | 南アジア~東南アジア | - | 森林等 | かつてペット等として飼養されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ミドリオオガシラ <i>B. cyanea</i> 、イヌバオオガシラ <i>B. cynodon</i> 、マングローブヘビ <i>B. dendrophila</i> 、ポウンオオガシラ <i>B. nigriceps</i> の4種。 | ①特定外来 | 第6回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類) | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ① | ⑤ | 旧要注意 | アカミミガメ | <i>Trachemys scripta</i> | I | | | | | | | | | | | | 北米産。ハワイ、インドシナ、インド、ヨーロッパに侵入。 | 小笠原を除くほぼ日本全国 | 多様な水域 | ペットとして飼養されることが多い。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 3亜種(ミシシッピアカミミガメ <i>T. s. elegans</i> 、キハラガメ <i>T. s. scripta</i> 、カンパランドキミミガメ <i>T. s. troosti</i>)から成る。ペットとして安価に大量に販売されている。遺棄や逸出が頻繁に生じていると考えられる。流通等が規制された場合に大量遺棄が生じないよう事前の対策が求められる。とりわけミシシッピアカミミガメは流通量が多く、多数が定着して野外での繁殖も確認されている。 | ①要注意、②W100:日本、IUCN、③GISD、④北海道、青森、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、佐賀、宮崎、熊本、沖縄 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編者)(2008)、有馬ほか(2008a, 2008b, 2009, 2010)、沢田(2012)、Kraus(2009)、安川(2012)、ISSG-GISD | |
| 14 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①④ | ⑤ | 特定外来 | カミツキガメ | <i>Chelydra serpentina</i> | I, III | | | | | | | | | | | | 北米~南米 | 千葉で定着。各県で確認記録がある。 | 池沼、河川 | かつてペットとして大量に流通していた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が多数飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 広範のカミツキガメを指す。4亜種(ホクベイクミツキガメ <i>C. s. serpentina</i> 、フロリダカミツキガメ <i>C. s. osceola</i> 、チュウベイクミツキガメ <i>C. s. rossignoni</i> 、ナンベイクミツキガメ <i>C. s. acutirostris</i>)から成る。ペットとして飼われていたものが遺棄されて定着したと考えられている。阿武隈川で2010年に捕獲されたメスが潜在的に繁殖可能であることが確認された。また、狩野川水系では2010~2011年に産卵産卵後があると考えられる成熟メス・成熟サイズのオス・前年の野化幼体と思われる個体が確認され、定着の可能性が指摘されている。 | ①特定外来、②W100:日本、④各県:北海道、千葉、愛知、京都、兵庫、佐賀、熊本 | 第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、小林(2007)、加藤・衛藤(2012)、辻井(2012) | |
| 15 | 小笠原・南西諸島 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 特定外来 | グリーンアノール | <i>Anolis carolinensis</i> | I, II | | | | | | | | | | | | 北米南東部原産。ミクロネシア、ハワイ等に侵入。 | 小笠原父島、兄島、母島、沖縄島、慶間味島 | 森林、林縁、農耕地等 | かつてペット等として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 小笠原諸島で深刻な生態系被害を引き起こしている。2012年に兄島への侵入が確認され、根絶に向けた取組が進められている。 | ①特定外来、②W100:日本、③GISD、④各県:沖縄 | 第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編者)(2008)、阿部(2009)、Kraus(2009)、Toda et al.(2010)、Shimizu(2013)、大河内(2013)、ISSG-GISD | |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来 /旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|----|----------|---------|---------------------------------|---------------|------|---------|-----------------------------------|--------|----|-------|----|----|------|----|------|-----------|------|-------|----|----|----|--------|---------|--|-------------------------|--|--------------|---|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 経済産業 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | | | | 人体 | 利用 | 付着 | 混入 | | | | | | | | |
| 16 | 小笠原・南西諸島 | 緊急対策外来種 | ①②③④ | ⑤ | 特定外来 | タイワンハブ | <i>Protothrops mucrosquamatus</i> | I, III | / | / | ○ | ◎ | ◎ | - | ○ | ○ | ◎ | - | ○ | - | 台湾 | 沖縄島 | 森林、農耕地等 | 展示用、食用、薬用として導入されたと考えられる。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ヘビを用いたショー及び薬用として、1970年代から1990年代半ばまで沖縄島に大量に輸入されていた。これらの逸出が遺棄に由来すると考えられる。在来ハブとの交雑個体と考えられるヘビが採集されている。 | ①特定外来、④各県：沖縄 | 第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Ota et al. (2004)、自然環境研究センター(編)(2008)、阿部(2009)、寺田(2011) | |
| 17 | 小笠原・南西諸島 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 特定外来 | タイワンスジオ | <i>Elaphe taeniura friesei</i> | I | / | / | - | ○ | ◎ | - | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 台湾 | 沖縄島 | 森林、農耕地等 | 展示用、食用、薬用に導入されたと考えられる。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 先島諸島には同種の別亜種サキシマスジオ <i>E. t. schmackeri</i> が生息する。 | ①特定外来、④各県：沖縄 | 第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Ota et al. (2004)、自然環境研究センター(編)(2008)、阿部(2009)、寺田(2011) | |

重点対策外来種

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----------|---------|----|---|------|----------|----------------------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------------|-----|----|----------------|-------------------------|----------|------------|--|
| 18 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①② | / | 旧要注意 | グリーンイグアナ | <i>Iguana iguana</i> | IV | / | / | - | - | ○ | - | ○ | ○ | - | ○ | ◎ | - | 中南米、西インド諸島 | 石垣島 | 森林 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 知見の集積が必要 | ①要注意、③GISD | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever (2003)、自然環境研究センター(編)(2008)、阿部(2009)、Kraus (2009)、ISSG-GISD |
|----|----------|---------|----|---|------|----------|----------------------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------------|-----|----|----------------|-------------------------|----------|------------|--|

その他の総合対策外来種

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|-------------|---|---|------|-------------|-------------------------------------|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-------------------------|-------------------------------|-----------------|--------------------------------|-------------------------|---|-----------------------|---|
| 19 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | / | / | | クサガメ | <i>Mauremys reevesii</i> | I, IV | / | / | ○ | ◎ | ○ | - | ○ | - | - | - | ◎ | - | 中国、朝鮮半島 | 北海道、本州、四国、九州、沖縄島、久米島、喜界島でも確認。 | 流れの緩やかな河川や低地の湖沼 | ペットとして飼養されることが多い。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 本州・四国・九州のものはかつて自然分布と考えられていたが、現在では18世紀末に導入されたと考えられている。また近年、ペットとして輸入された中国産の個体が各地で遺棄されている可能性もある。ニホンイシガメとの交雑が野外でも確認されており、これらの生息地では特に留意が必要。知見の集積が必要。 | ④各県：北海道、青森、愛知、兵庫 | 正田・鈴木(2010)、Suzuki et al. (2011, in press) |
| 20 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | / | / | | ミナミイシガメ | <i>Mauremys mutica mutica</i> | IV | / | / | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 中国、台湾、ベトナム | 大阪、京都、滋賀 | 池沼や低湿地、小さな水路等 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 八重山諸島に亜種エヤマイシガメ <i>M. m. kami</i> が分布。本亜種の属するイシガメ科は属間交雑のおそれもあるため、特に留意が必要。知見の集積が必要。 | ⑤その他 | 日本生態学会(編)(2002)、Ota et al. (2004)、自然環境研究センター(編)(2008)、小林・長谷川(2005) |
| 21 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | / | / | 旧要注意 | チュウゴクスッポン | <i>Pelodiscus sinensis sinensis</i> | I | / | / | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | ベトナム南部から中国大陸沿岸部、ロシア極東地域 | 沖縄島以南の琉球列島 | 河川の中・下流域や池、湖沼 | 水産資源としての価値が高く、食用や養殖用に生体の流通が多い。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ニホンスッポンの同物異名と見なす考えもある。ただし、日本本土の集団と台湾や香港の集団の間には比較的明確な遺伝的差違があるとされる。知見の集積が必要。 | ①要注意、④各県：北海道、青森、愛知、兵庫 | 第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編)(2008) |
| 22 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | / | / | | スインホーキノボリカガ | <i>Japalura swinhonis</i> | IV | / | / | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | 台湾 | 静岡 | 森林、林縁、農耕地、住宅地 | | | 輸入植物への混入による侵入と推測されている。知見の集積が必要。 | | 加藤ほか(2010, 2013) |

【国内由来の外来種】

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来 /旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地 | 問題となっている地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-------------------------------|----------|---------|---------------------------------|---------------|----|---------------------|---------------------------------------|-------|----|-------|----|----|------|----|------|----|------|-------|----|----|------------------|--------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|--|------|--|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | | | | 利用 | 付着 | 混入 | | | | | | | | | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①② | / | | 琉球列島のニホンスッポン | <i>Pelodiscus sinensis japonicus</i> | IV | / | / | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | 本州、四国、九州 | 大隅諸島、奄美諸島 | 池沼、河川 | 食用、養殖用として持ち込まれたと考えられる。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 知見の集積が必要。 | | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編)(2008) | |
| 2 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ① | / | | 九州のオキナワキノボリカガ | <i>Japalura polygonata polygonata</i> | IV | / | / | - | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | 奄美諸島、沖縄諸島 | 宮崎県日南市、鹿児島市指宿市、屋久島 | | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 知見の集積が必要。九州南部の個体群については生態、防除法等についての研究が行われている。 | | 日本爬虫両棲類学会(2009)、太田他(2013)、Jono et al. (2013) | |
| 3 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①③ | / | | 伊豆諸島のニホントカゲ | <i>Plestiodon japonicus</i> | I | / | / | ○ | ◎ | - | - | ○ | ○ | - | - | - | - | 近畿中・北西部～西日本と周辺島嶼 | 八丈島 | 森林、農耕地、住宅地 | | | 本種の分類が見直され、東日本とロシア沿海州のものは別種ヒガシニホントカゲ <i>P. finitimus</i> とされた。八丈島の外来個体群は狭義のニホントカゲ。オカダトカゲとの交雑が確認されている。 | | 栗山ほか(2009)、Okamoto et al. (2013) | |
| 4 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ②③ | / | | 沖縄諸島及び宮古諸島のヤエヤマイシガメ | <i>Mauremys mutica kami</i> | I | / | / | ○ | - | ◎ | - | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 石垣島、西表島、与那国島 | 沖縄島、阿嘉島、宮古島等 | 河川、池沼、湿地 | ペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 知見の集積が必要。しばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。 | ⑤その他 | Ota (1999)、前之圓・戸田(2007)、小林・長谷川(2005) | |
| 5 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ②③ | / | | 沖縄諸島のヤエヤマセマルハコガメ | <i>Cuora flavomarginata evelynae</i> | I | / | / | ○ | ◎ | - | - | ○ | ○ | - | - | - | - | 石垣島、西表島 | 沖縄島、宮古島、黒島等 | 森林とその周辺、河川の周辺、沼沢地、湿原 | | | 知見の集積が必要。セマルハコガメは国の天然記念物に指定されている。しばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。リュウキュウヤマガメとの雑種と思われる個体も確認されている。 | ⑤その他 | Ota (1999) | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(両生類)>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

Table with columns: No, 定着段階, カテゴリ, 対策優先度の要件※, 被害の深刻度, 実効性・実行可能性, 特定外来種/旧要注意種, 和名, 学名, 選定理由, 評価項目 (定着可能性, 生態系被害, 分布拡大, 重要地域, 特に関心とされる被害, 経済産業, 利用, 付着混入), 原産地・分布, 日本での分布, 生息環境等, 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等. Includes sections for 定着を予防する外来種 (定着予防外来種), 緊急対策外来種, 重点対策外来種, and 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種).

【国内由来の外来種】

Table with columns: No, 定着段階, カテゴリ, 対策優先度の要件※, 被害の深刻度, 実効性・実行可能性, 特定外来種/旧要注意種, 和名, 学名, 選定理由, 評価項目 (定着可能性, 生態系被害, 分布拡大, 重要地域, 特に関心とされる被害, 経済産業, 利用, 付着混入), 分布, 問題となっている地域, 生息環境など, 利用状況, 利用上の留意事項, 備考, 抽出根拠, 文献等. Includes sections for 緊急対策外来種, 重点対策外来種, and 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種).

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(魚類)>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急防除外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来 /旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | | | |
|----------------------------|--------------|-------------|----------------------------------|---------------|------|---------------------|---------------------------------------|-------|----|-------|----|----|------|----|------|----|-----------|----|-------|----|---|---|--------|--------|-------|------|----------|--------------------------|------------------------|--------------------------------------|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要地域 | | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着 | 混入 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 定着を予防する外来種(定着防除外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入防除外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | 侵入防除外来種 | | | 未判定 | ブラウンヘッド | <i>Ameiurus nebulosus</i> | IV | ○ | - | - | - | ◎ | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | アメリカ東部 | - | 河川緩流域の低質が柔らかい場所、湖沼に生息。 | 霞ヶ浦などで定着しているチャネルキャットフィッシュと原産地の分布域が重なるため、同様の環境への放流は厳に慎むべき。 | アメリカでは移入された湖の在来のトゲウオを駆逐した例がある。 | ①未判定外来、③GISD | Wydoski and Whitney (2003), Etnier and Starnes (1993), Boschung and Mayden (2004), GISD data sheet |
| 2 | 未定着 | 侵入防除外来種 | | | 未判定 | フラットヘッドキャットフィッシュ | <i>Pygodictis olivaris</i> | I, IV | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | アメリカ東部、中部 | - | 倒木や枯れ枝が沈んでいる池の斜面が緩やかな場所を好む。 | アメリカでは本種が侵入した水域で、同科の在来ナマズ類やザリガニ類などの減少が見られている。 | ①未判定外来、③GISD | Boschung and Mayden (2004), Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003) | |
| 3 | 未定着 | 侵入防除外来種 | | | | ホワイトパーチ | <i>Morone americana</i> | IV | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | アメリカ北東部の沿岸地域 | - | 中・大規模河川の止水部分や池に生息。主に汽水域に生息するが、淡水域にも生息している。 | 肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アメリカの各地で本種が在来種の卵を捕食することによる影響が報告されている。塩分耐性が強く、海を通じて水系を超えた移動が可能。 | ③GISD | Werner (2004), GISD data sheet | |
| 4 | 未定着 | 侵入防除外来種 | | | 未判定 | ラッフ | <i>Gymnocephalus cernuus</i> | I | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | イギリスからロシア、中国までのユーラシア大陸 | - | 低地から高地までの河川、富栄養湖、大河川の河口や汽水湖に多い。 | イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来種の減少などの悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生きる。 | ①未判定外来、③GISD | Kotteat and Freyhof (2007), Lever (1996), GIDS data sheet | |
| 5 | 未定着 | 侵入防除外来種 | | | | ラウンドゴビー | <i>Neogobius melanostomus</i> | I | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | アソフ海、黒海、カスピ海流域 | - | 大河川の汽水域や湖沼、湾などの底質が砂や岩である浅瀬を好む。 | アメリカの五大湖などで、産卵環境や餌の競合、卵の食害などによって、在来種の減少を引き起こしている。 | ③GISD | Kotteat and Freyhof (2007), GIDS data sheet | | |
| その他の定着防除外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | | ガー科 | <i>Atractosteus, Lepisosteus</i> の全種 | I, IV | ○ | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | 中央アメリカから北米、カナダ | - | 河川(汽水-淡水域)、湖沼 | 一般的な観賞魚として多く流通している。一部の種は比較的安価に稚魚が販売されている。 | ガー科は大型になるため、飼いきれなくなる可能性がある。野外への放流は厳に慎むべき。 | 国内で遺棄された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、将来、繁殖に成功した場合、急速に増加するおそれがある。 | ④各県: 滋賀、佐賀、⑤その他 | Etnier and Starnes (1993), Goldstein et al. (2000), Boschung and Mayden (2004), 自然環境研究センター(編著) (2008) |
| 7 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | | レッドホースミノー | <i>Cyprinella lutrensis</i> | I | ○ | ◎ | ◎ | - | ○ | - | ◎ | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | アメリカ中央南部から中央北部 | - | 河川中流域の底が砂泥や岩の池や水路に生息。 | 観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に流通している。 | 温帯性であるため、特に、本州中部以南では野外への放流は厳に慎むべき。 | 海外では近縁種と雑種を作ることや競合することによって、希少種を含む在来種の減少を引き起こしている。ただし、日本に同属種はいない。 | ③GISD | Goldstein et al. (2000), Etnier and Starnes (1993), Boschung and Mayden (2004), GISD data sheet, USGS NAS |
| 8 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着防除外来種 | | | | オリノコセイルフィンキャットフィッシュ | <i>Pterygoplichthys multiradiatus</i> | I | ○ | ○ | ◎ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | - | オリノコ川流域 | - | 河川、湖沼の泥底で水草が生える水域に生息する。 | セイルフィンプレコなどの名前で複数種が流通している可能性があり、本種がこれに含まれる可能性がある。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。 | インドやブルトリコでは本種が在来種の減少を引き起こした例が知られている。 | ③GISD | FishBase, GISD data sheet |
| 9 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 旧要注意 | ヨーロッパナマズ | <i>Silurus glanis</i> | I | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | - | ◎ | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | 中央・東ヨーロッパ | - | 大きな湖や河川に生息し、汽水域に入ることもある。 | 観賞魚として比較的安価に大量に流通している。 | 非常に大型になるため、飼いきれなくなる危険がある。野外への放流は厳に慎むべき。 | ヨーロッパの侵入地では在来種の減少を引き起こしたとされている。在来の同属種との交雑も懸念されている。在来の同属種と交雑のおそれがあるため、これらの生息域では特に侵入に留意が必要。 | ①要注意、④各県: 滋賀 | 自然環境研究センター(編著) (2008), Kotteat and Freyhof (2007) |
| 10 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 特定外来 | ノーザンバイク | <i>Esox lucius</i> | I | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | アメリカ北部、カナダ、ヨーロッパ、アジア北部 | - | 河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。冷水性。 | 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | アメリカのデビス湖では捕食や競争により在来魚類に影響を与えた事例がある。長寿命であり、最長24年生きた例がある。 | ①特定外来、③GISD、④各県: 佐賀 | 自然環境研究センター(編著) (2008), Etnier and Starnes (1993), Kotteat and Freyhof (2007) |
| 11 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 特定外来 | マスキーパーチ | <i>Esox masquinongy</i> | I | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | アメリカ北東部とカナダ南東部 | - | 河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。冷水性。 | 観賞魚として飼養されていた。特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。 | ウイスコンシン州の湖では同所的に生息するオオクチバスを駆逐するなどの被害が確認されている。長寿命であり、最長30年生きた例がある。 | ①特定外来、④各県: 佐賀 | 自然環境研究センター(編著) (2008), Boschung and Mayden(2004), Kotteat and Freyhof (2007) | |
| 12 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 未判定 | バイク科 | <i>Esocidae spp.</i> | I | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | アメリカ大陸とユーラシア大陸の北部 | - | 河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。 | かつては観賞魚として流通していた種もある。現在は輸入等が規制されている。 | | マスキーパーチやノーザンバイクと同じ科に属し、生態が似ているためにこれらの種と同様の影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。 | ①未判定外来、④各県: 佐賀 | 自然環境研究センター(編著) (2008), Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003) |
| 13 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 未判定 | ガンブシア・ホルブローキ | <i>Gambusia holbrooki</i> | I, IV | ○ | - | ◎ | - | ◎ | ○ | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | アメリカ東部の沿岸地域 | - | 主に水田地帯などの流れの無い用水路に生息するが、河川本流や湖沼にも生息。 | 観賞魚としてごく稀に流通している。輸入等は規制されている。 | カダヤシと生態がほぼ同じであり、野外に放流するとカダヤシ同様に広まる危険があるため、注意を要する。野外への放流は厳に慎むべき。 | オーストラリアでは希少種を含む在来魚の卵や仔稚魚の捕食、攻撃が確認されており、これらの減少につながっている。卵胎生。 | ①未判定外来、③GISD | 自然環境研究センター(編著) (2008), Francis eds. (2012), Kotteat and Freyhof (2007) |
| 14 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 旧要注意 | ナイルパーチ | <i>Lates niloticus</i> | I | ○ | - | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | - | - | - | 西アフリカからナイル川流域 | - | 湖、河川緩流域、水路などに生息し、湖では沿岸部に分布する。 | 一般的な観賞魚として、広く普及しており、価格も安価で比較的普通に流通している。 | 非常に大型になるため遺棄の危険性が高く、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。 | 肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アフリカの湖で在来のシクリッド200種以上が絶滅した事例がある。 | ①要注意、②W100: IUCN、③GISD | 自然環境研究センター(編著) (2008), Goldstein et al. (2000), Lever (1996) |
| 15 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 特定外来 | ストライプトバス | <i>Morone saxatilis</i> | I | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | アメリカ大西洋岸とカナダのセントローレンス川流域 | - | 内湾や河口域に生息し、産卵のために河川を遡上する。 | 本種そのものの利用はほぼ無いが、本種と同じく特定外来生物であるホワイバスとの雑種がストライパーとして国内の管理釣り場で利用されている。雑種も特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。 | 雑種同士では繁殖出来ないが、長寿命であるため捕食や競合による影響を長期間与える可能性があり、雑種も野外への放流は厳に慎むべき。 | 肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のデビス湖では駆除対象となっている。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著) (2008), Boschung and Mayden(2004), Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003) |
| 16 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 特定外来 | ホワイバス | <i>Morone chrysops</i> | I | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | アメリカ東部とカナダのセントローレンス川流域 | - | 河川緩流域や湖沼に生息し、産卵のために河川を遡上する。 | 本種そのものの利用は無いが、本種と同じく特定外来生物であるホワイバスとの雑種がストライパーとして国内の管理釣り場で利用されている。雑種も特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。 | 雑種同士では繁殖出来ないが、長寿命であるため捕食や競合による影響を長期間与える可能性があり、雑種も野外への放流は厳に慎むべき。 | 肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のカウエア湖とその下流では駆除対象となっている。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著) (2008), Boschung and Mayden(2004), Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003) |
| 17 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 特定外来 | ケツギョ | <i>Siniperca chuatsi</i> | I | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | アムール川水系、中国 | - | 河川緩流域や湖沼に生息。 | 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | 中国では養殖池に紛れ込んだ場合に他種を捕食する害魚とされている。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著) (2008), 土井・青山 (2004), Doi et al. (2004) |
| 18 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 特定外来 | コウライケツギョ | <i>Siniperca scherzeri</i> | I | ○ | - | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | 中国、朝鮮半島、ベトナム | - | 河川や湖沼に生息し、ケツギョよりも流れのある場所を好む。 | 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著) (2008), 土井・青山 (2004), Doi et al. (2004) |
| 19 | 未定着 | その他の定着防除外来種 | | | 特定外来 | ヨーロッパアンバーチ | <i>Perca fluviatilis</i> | I | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | ヨーロッパとアジア北部 | - | 河川緩流域、湖沼などに生息し、木の根が張り出した水草が豊富な場所を好む。 | | オーストラリアで競合によって在来の希少種を絶滅させた事例がある。スペインのダムでも外来種を含む魚類を減少させた例がある。最長10年生きた例がある。 | ①特定外来、③GISD | Kotteat and Freyhof (2007), Lever (1997), GIDS data sheet | |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来 /旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | | |
|--------------------------------|------------|-------------|---------------------|-----------|---------------|-------------------------|------------------------------------|-------|-------|----|-------|----|------|----|-----------|-------|----|------|----|------|----|----|--------|----------------------|--|--|--|--|---|---|--|--|---|---|
| | | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | 分布拡大 | | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 観合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | | | 気候 | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着 | | | | | | | | | 混入 | | | |
| 20 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | 特定外来 | バイクーパーチ | <i>Sander lucioperca</i> | I | ○ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | - | ○ | - | - | ○ | - | - | ヨーロッパ中央部から西アジア | - | 河川緩流域や湖沼に生息し、深みのある静穏な水域を好む。汽水域にも生息。 | | | | トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例がある。デンマークやスペインなどのヨーロッパ諸国で在来のカワカマス科魚類などの減少を引き起こしていると考えられる。最長16年生きる。 | ①特定外来 | Kotteat and Freyhof (2007)、Lever (1998)、Invasive Species Compendium HP | | |
| 21 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | スポッテッドティラピア | <i>Tilapia mariae</i> | I, IV | ○ | - | ◎ | - | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | - | ○ | - | - | アフリカ大陸西部のギニア湾周辺諸国 | - | 沿岸域の沼や河川下流域に生息。 | 国内ではほとんど流通していない。 | | | | 餌や産卵基質を巡る競争により在来種に悪影響を及ぼしている。巢で親魚が卵と仔魚を保護する。 | ③GISD | FishBase、GISD data sheet | |
| 総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④⑤ | ⑤ | 特定外来 | チャネルキャットフィッシュ (アメリカナマス) | <i>Ictalurus punctatus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | アメリカ、カナダ南部、メキシコ | 福島、霞ヶ浦、北浦、利根川水系(茨城、栃木、埼玉、千葉、東京)、琵琶湖(滋賀)、愛知、岐阜、鳥取 | 河川下流、湖沼などの流れが緩やかな場所に生息。 | 現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているものもある。茨城県霞ヶ浦や岐阜県下小島ダムで繁殖されている。地域の名物として利用されている。この他、展示用の利用も少数ある。 | 繁殖地から自然水域に逸出させていない。 | | | | 霞ヶ浦ではイサザアミやハゼ類などの水産利用種を捕食し、これらの漁獲高を減少させている。ヒレにある鋭い棘で漁業者がけがをする被害がある。 | ①特定外来、④各県・熊本 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、石川ほか(編)(2013) |
| 23 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④⑤ | ④ | 特定外来 | ブルーギル | <i>Lepomis macrochirus</i> | I, II | | | | | | | | | | | | | | | | カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部 | 全国 | 主に流れの緩やかな河川下流域や湖沼に生息。 | 現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が主に展示用として多く利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | 捕食や競争により国内各地で在来種を駆逐し、優占種となっている。卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長10年以上。 | | | | ①特定外来、②W100:日本、④各県:北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、佐賀、熊本 | 川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Woodford et al. (2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008) |
| 24 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④⑤ | ⑤ | 特定外来 | コクチバス | <i>Micropterus dolomieu</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | カナダ南部、アメリカ中東部 | 青森から和歌山までの山梨を除く19都道県 | 主に湖沼に生息するが、流れのある河川にも見られる。オオクチバスよりも流水域に適応できる。 | かつては管理釣り場で利用されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、一部の管理釣り場などでは釣魚になっており、一部の湖でスポーツフィッシングに利用されている。この他、許可を受けた個体が展示用に利用されている。 | 生息水域から逸出させないよう注意が必要。 | 南アフリカでは在来種を捕食し、在来種の多くが見られなくなった例がある。ハワイでも在来種はもとより、オオクチバスやブルーギルを含む魚類を駆逐した。国内でも分布を拡大しており、オオクチバスより低温や流れに強い。より上流域での捕食や競合の被害が懸念されている。卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長15年。 | | | | ①特定外来、②W100:日本、④各県:青森、千葉、滋賀、京都、佐賀 | Lever (1996)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Woodford et al. (2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008) |
| 25 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④⑤ | ④ | 特定外来 | オオクチバス | <i>Micropterus salmoides</i> | I, II | | | | | | | | | | | | | | | | カナダ南部、アメリカ中東部、メキシコ北部 | 北海道を除く全国 | 主に湖沼や河川下流域など、止水域や流れの緩やかな場所に生息。 | 特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているものもある。一部の管理釣り場や湖でスポーツフィッシングに利用されている。山中湖などでは漁業種が免許され、放流も行われている。この他、展示用の利用もある。 | 生息水域から逸出させないよう注意が必要。 | 国内各地で捕食や競合により在来種を駆逐するなど、在来魚類群集に様々な影響を及ぼしている。卵や仔魚は親魚によって保護される。寿命は最長10年以上。 | | | | ①特定外来、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:青森、千葉、滋賀、鳥取、佐賀、熊本 | Lever (1996)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008) |
| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 26 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③④⑤ | | 旧要注意 | タイリクバラタナゴ | <i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i> | I, II | | | | | | | | | | | | | | | | 中国、朝鮮半島、台湾 | 北海道、本州、四国、九州 | 河川下流域、湖沼、水路 | 一般的な観賞魚として大量に流通している。また、釣魚でもある。 | 産卵母貝となるイシガイ科二枚貝のタナゴの繁殖期の移植を控える等配慮が必要。 | ニッポンバラタナゴとの交雑が進行しているため、これらの生息範囲では本種の侵入に特に留意が必要。 | | | | ①要注意、②W100:日本、④各県:青森、千葉、鳥取、愛媛、佐賀、熊本 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Kawamura et al. (2001) |
| 27 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③④⑤ | | 特定外来 | カダヤシ | <i>Gambusia affinis</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | アメリカ南東部 | 福島以南の本州、四国、沖縄、小笠原 | 主に水田地帯などの流れの無い用水路に生息するが、河川本流や湖沼にも生息。 | 観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が主に展示用として利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | メダカの生息地に本種が侵入した場合、メダカが減少し、カダヤシに置き換わってしまうケースがある。卵胎生。 | | | | ①特定外来、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:滋賀、京都、佐賀、熊本 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds. (2012) |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 28 | 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | オオタナゴ | <i>Achelognathus macropterus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | 中国、朝鮮半島、アムール川 | 霞ヶ浦、北浦、利根川水系の千葉、埼玉、栃木(渡良瀬湖)に分布拡大中。 | 湖、水路の沿岸から沖合まで | 観賞魚として比較的多く流通している。また、釣魚でもある。 | 淡水真珠養殖用のヒレケチョウガイへの卵、仔魚の混入の可能性がある。産卵母貝となるイシガイ科二枚貝のタナゴの繁殖期の移植を控える等配慮が必要。 | 茨城県霞ヶ浦、北浦に移入したタナゴ類と交雑の恐れがあるため、これらの生息域では特に侵入に留意が必要。知見の集積が必要 | | | | ①要注意、④各県:滋賀 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、萩原(2011)、諸澤・藤岡(2007)、侵入生物DB、http://www.gef.or.jp/activity/ecosystem/tanago/oontanago2007.pdf |
| 29 | 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ソウギョ | <i>Otenopharhyngodon idellus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | 中国、アムール川 | 東北から九州(自然繁殖は利根川・江戸川水系のみ) | 河川下流域、湖沼 | 除草目的や釣魚として河川や湖沼、公園、などに放流されている。また、観賞魚としてアルビノ個体などが比較的普通に流通している。釣魚でもある。 | 本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。 | Otenopharhyngodon idellaとしてGISD。利根川・江戸川水系、霞ヶ浦・北浦に定着。繁殖は利根川等大規模河川に限られる | | | | ①要注意、②W100:日本、③GISD、④各県:滋賀、愛媛、熊本 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、萩原(2011)、諸澤・藤岡(2007)、侵入生物DB |
| 30 | 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | アオウオ | <i>Mylopharyngodon piceus</i> | I, IV | | | | | | | | | | | | | | | | 中国、アムール川 | 自然繁殖は利根川・江戸川水系のみ、榛名湖、岡山 | 河川下流域、湖沼 | 観賞魚としてごく少量が流通している。釣魚でもある。 | 本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。 | 本種の繁殖には利根川のような大河川が必要。海外ではスクミリンゴガイなどの外来種の貝類の除去に利用されている例もある。知見の集積が必要 | | | | ①要注意 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001) |
| 31 | 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | | コクレン | <i>Aristichthys nobilis</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | 中国、アムール川 | 自然繁殖は利根川・江戸川水系のみ、淀川 | 河川下流域、湖沼 | 観賞魚として少量が流通している。釣魚でもある。 | 本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。 | Hypophthalmichthys nobilisとしてGISD。繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。プランクトン食のため、水域での生息密度が高まると、プランクトンが激減し、食物連鎖を通して大きな影響を与える。アメリカでは深刻化した事例がある。 | | | | ③GISD、⑤その他 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds (2012) |
| 32 | 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | | ハウレン | <i>Hypophthalmichthys molitrix</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | | 中国、アムール川 | 自然繁殖は利根川・江戸川水系の淀川水系のみ、北海道と沖縄を除く国内各地 | 河川下流域、湖沼、水路 | 観賞魚として少量が流通している。釣魚でもある。 | 本種は大型になるため、飼いきれなくなる可能性もある。野外への放流は厳に慎むべき。 | 繁殖は利根川等大規模河川に限られる。海外では、生物多様性に影響を及ぼした事例がある。プランクトン食のため、水域での生息密度が高まると、プランクトンが激減し、食物連鎖を通して大きな影響を与える。アメリカでは深刻化した事例がある。 | | | | ③GISD、⑤その他 | 瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds (2013) |
| 33 | 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | | ベヘレイ | <i>Odontesthes bonariensis</i> | I, IV | | | | | | | | | | | | | | | | アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル南部 | 丹沢湖、霞ヶ浦、北浦 | 湖に生息。適水温は10-28℃だが、冬期に5℃程度になる場所でも生息できる。 | 管理釣り場などで放流されることがある。養殖もされている。丹沢湖で野生化しているものは地域の名物として食用に利用されている。 | 野外への放流は厳に慎むべき。 | 知見の集積が必要。霞ヶ浦・北浦では沖合生態系の優占種となるほど増殖しており、生態系に影響を及ぼしていると言われている。ワカサギやシラウオ等への漁業被害も懸念される。 | | | | ⑤その他 | 瀬能・松沢(2008)、川那部・水野・細谷(監修・編)(2001)、春日(2001)、侵入生物DB |
| 34 | 定着初期/限定分布 | その他の総合対策外来種 | | | | コウライギギ | <i>Pseudorasbora parva</i> | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 東アジア(アムール川から韓国、中国南部) | 霞ヶ浦 | 原産地では湖沼や河川に生息する。 | 知見の集積が必要。生態系に大きな被害を及ぼすとして特定外来生物に指定されているチャネルキャットフィッシュと形態、食性等が似ているため、今後の動向に注意する必要がある。 | | | | ⑤その他 | 荒山ほか(2012) | | |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来 /旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|-----------------------------|------------|-------------|---------------------------------|---------------|-------------|----------------------------------|------|-------|----|-------|----|----|------|----|------|-----------|------|--------------------------|--------------------------------------|---|---|---|---|--|--|--|------|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 経済産業 | 利用 | | | | | | | | | 付着混入 |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | | | | | | | | | | | | | |
| 51 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | / | / | コンウヰクトシクリッド | <i>Cichlasoma nigrofasciatum</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ | 沖縄 | 主に流れのある河川の浅瀬や小川に生息し、特に岩礁の亀裂が多い場所や植物の根などが多い場所を好む。 | 少量ではあるが観賞魚として流通している。 | 特に、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。 | 沖縄では本種の多く生息する水域もあり、競合や卵・仔魚の捕食などによる在来種への影響が心配されている。知見の集積が必要。 繁殖力がかかり強く、生息水域も拡大傾向にある。 | ⑤その他 | 瀬能・松沢(2008)、Page and Burr (1991)、Allen et al. (2002) | |
| 52 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | / | / | ブルーティラピア | <i>Oreochromis aureus</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | セネガルからサウジアラビアにかけてのアフリカ中部 | 沖縄島? | 河川、湖沼に生息。水温耐性が高く、10℃以下から40℃まで生きられる。 | 観賞魚として一般的ではないと思われる。 | 特に、南西諸島、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。 | 餌や生育環境の競合によって在来種の減少を引き起していると考え、アフリカや北米各地で侵入後に本種が優占種となった例がある。マウスブルーダー。沖縄島には本種と思われる表現形質を有する個体が確認されている。定着は、国内の亜熱帯地域のほかは、温泉水や温排水などのごく一部に限られる。 | ③GISD | Kotteat and Freyhof (2007)、FishBase、GISD data sheet | | |
| 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 53 | 定着初期/限定分布 | 産業管理外来種 | / | / | レイクトラウト | <i>Salvelinus namaycush</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | カナダ、アメリカ北東部 | 中禅寺湖 | 水温20℃以下の湖沼に多い。マス類の中でももっとも低温を好み、適水温は4-10℃。 | 古くから栃木県中禅寺湖で養殖・放流がされてきており、地域の名物として利用されている。 | 特に北方や高地の湖沼において、分布が拡大しないよう注意が必要。 | アメリカの湖では捕食や競争により在来のサケ科魚類を駆逐する事例がある。栃木県中禅寺湖のみで定着。20年以上前から確認。20-25年の長寿命。現在の侵入水域が中禅寺湖に限定されているが、大型の魚食魚であり、遊漁の対象として意図的放流された場合、在来生態系に悪影響を与える危険性がある。 | ③GISD、⑤その他 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川部部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Ruzycski et al. (2003)、侵入生物DB | | |
| 54 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | / | 旧要注意 | ニジマス | <i>Oncorhynchus mykiss</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | アメリカの太平洋岸、カムチャッカ半島 | 北海道、東京都、長野、和歌山、中国地方 | 平地から高地の河川や湖沼に生息。降海型もいる。冷水性。 | 古くから大量に養殖・放流がされてきている水産上の重要魚種。多くの都道府県で漁業種として免許されている。また、管理釣り場での利用も多い。 | 北海道では広い範囲で定着しており、いったん定着すると在来種との競合が生じるため、これ以上の分布拡大をしないよう注意が必要。 | 北海道では多くの河川で定着しているが、本州以南では釣獲や増水による繁殖失敗でほとんど定着できていないとの見解がある。本種とヤマメの雑種は発生段階で死亡するため、遺伝的攪乱の可能性は低い。ただし、正常な繁殖が阻害される可能性はある。 漁業種が認められている地域もあるので、防除を行う際は確認する必要がある。 | ①要注意、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:北海道、青森、熊本 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川部部・水野・細谷(監修・編)(2001)、侵入生物DB | | |
| 55 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | / | 旧要注意 | ブラウントラウト | <i>Salmo trutta</i> | I | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | ヨーロッパからアララ海までのアジア | 北海道、秋田県、栃木県、山梨県、長野県、神奈川県、富山県など | 平地から高地の河川や湖沼の中低層に生息。降海型もいる。冷水性。 | 古くから大量に養殖・放流がされてきているが、遺伝的攪乱の危険性は低いことが報告されている。北海道では他種を駆逐して優占種になっている水域もある。希少種であるニホンザリガニの捕食も確認されている。北海道では内水面漁業調整規則により移植が禁止されている。 | 北海道では広い範囲で定着しており、いったん定着すると在来種との競合が生じるため、これ以上の分布拡大をしないよう注意が必要。 北海道では内水面漁業調整規則により移植が禁止されている。 | ①要注意、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:北海道、滋賀 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、瀬能・松沢(2008)、川部部・水野・細谷(監修・編)(2001)、Francis eds (2012)、中田ほか(2006)、侵入生物DB、鷹見ほか(2002) | | | |

【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来 /旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|------------------------|----------|-------------|---------------------------------|---------------|---------------------|---|-------|-------|----|-------|----|----|------|----|------|----|------|----|----|------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------------|--|-------------------|---|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | | | | | | | | | 付着混入 |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | | | | | | | | | | | | | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | / | / | 琵琶湖・淀川以外のハス | <i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i> | I | - | - | - | ○ | ◎ | - | ○ | ○ | - | - | - | ○ | 琵琶湖淀川水系、福井県三方湖 | 関東、北陸地方、濃尾平野、中国地方、九州 | ダム湖など大きな遊水池、湖沼、湖沼と結合した河川、大型河川 | 琵琶湖では少量が漁獲されているが、一般にはあまり出回らない。 | | | ④各県:愛媛 | 井原ほか(2011)、川部部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、野内ほか(2008) |
| 2 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | / | / | 東北地方などのモツゴ | <i>Pseudorasbora parva</i> | I, II | - | - | ◎ | - | - | - | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | 関東地方以西の本州、四国、九州 | 北海道、東北地方、関東地方、長野県、静岡県 | 湖、池沼、それに続く細流、河川下流域、泥底の淀み | 観賞魚の飼用などとして比較的普通に流通している。 | 野外に放流しないよう注意が必要。 | シナイモツゴ生息地に侵入後、シナイモツゴを駆逐して優占種となっている。雑種は不稔であり、遺伝子攪乱はないものの、繁殖に関する競合により正常な繁殖が阻害されることで影響を及ぼしている。 | ④各県:北海道、青森 | 川部部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、西田(2001) |
| 3 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | / | / | 九州北西部及び東海・北陸地方以東のギギ | <i>Tachysurus nudiceps</i> | IV | = | = | ○ | = | ○ | = | ○ | ○ | ○ | = | ○ | ○ | 近畿地方以西の本州、四国、九州北東部 | 秋田県、新潟県、福井県、山梨県、豊知県、岐阜県、三重県、熊本県 | 河川中流域や湖沼に生息 | 観賞用として少量が流通している。 | 野外に放流しないよう注意が必要。 | 侵入年代は不明。絶滅危惧種で国の天然記念物である東海地方固有のネコギギの生息する河川で分布を広げ、また九州西部ではアリアケギギ生息地への影響が懸念されている。 | ⑤その他 | 川部部ほか(編)(2002)、松沢・瀬能(2008)、Mizoiiri et al.(1997)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013)、徳原・原(2002)、渡辺・森 |
| 4 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | / | / | 近畿地方以東のオヤニラミ | <i>Coreoperca kawamebari</i> | IV | = | = | ○ | = | ○ | = | ○ | ○ | = | = | ○ | = | 保津川・由良川以西の本州、四国北東部、九州北部、国外では朝鮮半島南部 | 東京都、神奈川県、愛知県、滋賀県 | 水の澄んだ河川の緩流部、水路に生息 | 観賞魚として既に流通している。 | 野外に放流しないよう注意が必要。 | 侵入年代は不明。滋賀県と愛知県では各県で放流を抑制しており、岐阜県美濃加茂市では自治体が研究者と協力して駆除を行っている。東海地方や東海部の導入地は絶滅危惧種の生息地にもなっており、影響が懸念されている。 | ④各県:愛知、滋賀、愛媛、⑤その他 | 岐阜新聞(2013年11月24日付)、松沢・瀬能(2008)、日本魚類学会自然保護委員会編(2013) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(昆虫類)>

網かけセルはパブリックコメント後に変更があった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示す。一行全体が網かけのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性 実行可能性 | 特定外来種/旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-------------------------------|--------------|-------------|------------------------------------|------------|-------------------|----------------------------------|------------------------------------|------------|----|-------|----|------|----|------|----|------|-----------|-------|------|---|--------------------------------------|------------------------|--|--|---|----------------------------------|---|------------------------------------|----|------|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | | 分布拡大 | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食摂食 | 繁殖 | 気候 | 人体 | | | | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 特定外来 | ヒアリ(アカヒアリ) | <i>Solenopsis invicta</i> | I, III | ○ | ○ | ◎ | - | ◎ | - | - | - | ◎ | ◎ | - | ○ | 南米 | - | 亜熱帯～暖温帯の草地など比較的開けた環境 | | | | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD、④各県:兵庫 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、東ほか(2008) | | | | |
| 2 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 特定外来 | コカミアリ | <i>Wasmannia auropunctata</i> | I, III | ○ | ○ | ◎ | - | ◎ | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | 中南米原産。ガラパゴス、ニューカレドニア等の島嶼に侵入。 | - | 森林、瘦地、農耕地等 | 現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受け飼養された実績がある。 | 逸出には十分な注意を払うべき。 | | | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD | Jourdan(1997)、自然環境研究センター(編著)(2008) | | | |
| 3 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 旧要注意 | アフリカミツバチとアフリカミツバチ | <i>Apis mellifera scutellata</i> | III | ○ | ○ | - | - | - | - | - | - | ◎ | ◎ | ○ | - | アフリカ東部～南部原産。オーストラリア、北米中南部～中南米、西インド諸島等に侵入。 | - | 森林、農耕地、住宅地等 | 南米等では養蜂に用いられる。日本では、家畜伝染病予防法により輸入が規制されている。 | 安易な導入を計画すべきではない。 | アフリカミツバチは、亜種アフリカミツバチとヨーロッパ産亜種との交雑で生じたもの。 | ①要注意 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | | | |
| 4 | 小笠原・南西諸島/未定着 | 侵入予防外来種 | | 特定外来 | クモテナゴコガネ属 | <i>Euchirus</i> spp. | I | ○ | - | ◎ | - | - | - | ○ | ○ | - | - | ○ | - | インドネシア、フィリピン | - | 森林 | 1990年代後半から販売業者・愛好者により販売、飼養がなされていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。 | 一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。 | | | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | | |
| 5 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 特定外来 | ヒメテナゴコガネ属 | <i>Propomacrus</i> spp. | I | ○ | - | ◎ | - | - | - | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 中国、西アジア | - | 森林 | 1990年代後半から販売業者・愛好者により販売、飼養がなされていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。 | 一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。 | | | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | | |
| その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | 外国産クワガタムシ | Lucanidae Gen spp. | I | ○ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | ○ | - | - | ◎ | - | 全動物地理区に約1200種が分布。 | - | 森林に生息する種が多い。 | 大量に輸入され、流通している。種によっては安価に入手可能で、幅広い層にペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。野外での外国産のオオクワガタ属と日本産の同属種ヒラタクワガタとの雑種個体の確認例があり、遺伝的攪乱をもたらすおそれが指摘されている。 | ①要注意、④各県:北海道、青森、千葉、愛知、兵庫、愛媛、鹿児島 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、藤田(2010) | | | | |
| 7 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | 外国産カブトムシ | Dynastinae Gen. spp. | I | ○ | ◎ | ○ | - | - | - | ○ | ○ | - | - | ◎ | - | 全生物地理区に約1000種が分布 | - | 森林に生息する種が多い。 | 大量に輸入され、流通している。種によっては安価に入手可能で、幅広い層にペットとして飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。アトラスオオカブト <i>Chalcosoma atlas</i> が最も安価で大量に流通している。 | ④各県:千葉、京都、鹿児島、沖縄 | 荒谷(2003, 2005) | | | | |
| 8 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | テナゴコガネ属 | <i>Cheirotonus</i> spp. | I | ○ | - | ◎ | ◎ | - | - | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 東南アジア | - | 大木のある成熟した森林 | 1990年代後半から販売業者・愛好者により販売、飼養がなされていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、飼養許可の実績がある。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。ヤンバルテナゴコガネ(国内希少野生動物種)と近縁の種では交雑による遺伝的攪乱が懸念されている。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、柄澤ほか(2012)、林(2013) | | | | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①④ | ⑤ | 特定外来 | アルゼンチンアリ | <i>Linepithema humile</i> | I, III | | | | | | | | | | | | 南米 | 東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、山口、徳島 | 日本では港湾や住宅地等、人工的な環境に多い。 | | | | ①特定外来、②W100:日本・IUCN、③GISD | 環境省(2013)、田付(編)(2014) | | | | |
| 10 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①②④ | ⑤ | 特定外来 | アカカミアリ | <i>Salenopsis geminata</i> | I, III | | | | | | | | | | | | 北米南部～中南米 | 火山列島硫黄島 | 裸地、草地等開放的な空間 | | | | ①特定外来、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:沖縄 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | | | |
| 11 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①④ | ⑤ | | ツマアカスズメバチ | <i>Vespa velutina</i> | I, III | | | | | | | | | | | | 南アジア～東南アジア～中国南部原産。韓国、フランス、スペインに侵入。 | 対馬 | 森林、農耕地、住宅地 | | | | | Villemant et al.(2011)、Choi et al.(2012)、境・高橋(2014) | | | | |
| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ① | | 旧要注意 | ホソオチョウ(ホソオアゲハ) | <i>Sericinus montela</i> | I | | | | | | | | | | | | 中国、朝鮮半島、ロシア南東部 | 関東、静岡、岐阜、近畿、岡山、山口 | 河川敷、農耕地等 | | | | ①要注意、④各県:愛知、京都、兵庫、熊本 | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008) | | | | |
| 13 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ① | | 旧要注意 | アカボシゴマダラ大陸亜種(名義タイプ亜種) | <i>Hestina assimilis assimilis</i> | I | | | | | | | | | | | | 中国、朝鮮半島、ベトナム | 関東、伊豆大島、静岡、山梨でも記録されている。 | 都市、里山等 | | | | ①要注意、④各県:北海道、愛知、兵庫 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、柄澤他(2012)、林(2013) | | | | |
| 14 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②④ | | | カンショオサゾウムシ | <i>Rhabdoscelus obscurus</i> | I, II, III | | | | | | | | | | | | ニューギニア原産と考えられている。オーストラリア、太平洋諸島等に侵入。 | 小笠原・大東諸島 | 森林、農耕地等 | | | | ②W100:日本、④各県:沖縄 | 刃部ほか(2008, 2009) | | | | |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | シロテンハナムグリ台湾亜種(サカイシロテンハナムグリ) | <i>Protaetia orientalis sakaii</i> | I | | | | | | | | | | | | 台湾 | 奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島、大東諸島 | 森林、林縁。幼虫は腐植土中。 | | | | ①要注意 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | | | |
| 16 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | フェモラータオオモブトハムシ | <i>Sagra femorata</i> | IV | | | | | | | | | | | | 南アジア～東南アジア～中国南部 | 三重 | 草地、河川敷 | 植物防疫法違反で導入された個体が、インターネット等で流通、飼養されていた。 | 2008年頃三重に定着、分布拡大が目目される。輸入について植物防疫法上の規制あり。知見の集積が必要。 | | | | 秋田ほか(2011) | | | |
| 17 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | クビアカツヤカミキリ(クロジャコウカミキリ) | <i>Aromia bungii</i> | IV | | | | | | | | | | | | 中国、朝鮮半島、台湾、ベトナム北部 | 埼玉、愛知 | 公園や市街地の街路樹 | | | | | 愛知県(2013) | | | | |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | |
|------------------------------------|-----------|-------------|---------------------------------|------------|------|--------------|----------------------------|-------|----|-------|----|------|----|------|-----------|------|----|------|----|--------|------------------------------|---------|------------|--|--|--|---|---|----------------------|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | 分布拡大 | | 重要地域 | 特に関心となる被害 | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競争 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | | | | | | 気候 | | | | | | | | | | |
| 18 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ナンヨウチビアシナガバチ | <i>Ropalidia marginata</i> | IV | / | / | - | - | ○ | - | - | ○ | - | - | - | ○ | 東南アジア、マリアナ諸島 | 火山列島硫黄島 | 森林～林縁等 | | | | 硫黄島では全域の優占種になっている。知見の集積が必要。 | ①要注意 | 自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 19 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | チャイロネツタイズバチ | <i>Delta pyriforme</i> | IV | / | / | - | - | ○ | - | - | ○ | - | - | - | ○ | 東南アジア、南太平洋諸島 | 小笠原諸島 | 森林～住宅地 | | | | 小笠原に侵入した個体群の亜種が特定されておらず、侵入元は不明。知見の集積が必要。 | ①要注意 | 自然環境研究センター(編著)(2008) |
| 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | 定着初期/分布限定 | 産業管理外来種 | | | 特定外来 | セイヨウオオマルハナバチ | <i>Bombus terrestris</i> | I | / | / | ◎ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | - | ヨーロッパ原産。北米、オーストラリア、イスラエルに侵入。 | 北海道 | 林縁、草地、農耕地等 | ハウス内の作物の受粉用の農業資材として、特定外来生物の飼養等許可を受けた農家・事業者のみが利用している。 | 飼養等許可の内容を遵守し認可の際の条件である、ハウスへのネット風張など管理を厳格におこなう。 | 北海道でのみ継続的な繁殖が確認されている。本州以北でも野外で確認されるが定着は確認されていない。 | ①特定外来、②W100:日本・IUCN、④各県:北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、熊本 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、Dohzono et al.(2008)、Kanbe et al.(2008)、Yokoyama & Inoue(2010) | |

【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-----------------------------|----------|-------------|---------------------------------|------------|-----------------------|--|------|-------|----|-------|----|------|----|------|----|------|----|------|----|-----------------------|------------|--------|-------------------|-------------------------|--|------------|--------------------------------|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | 分布拡大 | | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競争 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | | | | | | 気候 | | | | | | | | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | | | 北海道・沖縄のカブトムシ本土亜種 | <i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i> | I | / | / | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | - | - | ○ | - | 本州、四国、九州、屋久島他、朝鮮半島、中国 | 北海道・沖縄島 | 森林 | ペットとして販売・飼育されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 飼育下では沖縄亜種との交雑が確認され、野外での交雑による固有遺伝子への影響が懸念されている。北海道では知見の集積が必要。 | ④各県:北海道、沖縄 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、北海道ブルーリスト |
| 2 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | | | 伊豆諸島などのリュウキュウツツヤハナムグリ | <i>Protaetia pryeri</i> | IV | / | / | ○ | - | - | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | | 東京、伊豆諸島 | 森林 | | | 知見の集積が必要 | ⑤その他 | 自然環境研究センター(編著)(2008) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(陸生節足動物)>

網かけセルはパブリックコメント後に変更があった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 | | 特定外来種/旧要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-------------------------------|------------|-------------|----------|-----------|------------|-------------|-------------------------------------|------|-------|----|----|----|-------|----|----|------|------|------|-----------|------|--------------------------|-----------------------------------|-----------------|---|---|--|---|--|-----------------------------------|----------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | 定着可能性 | | | | 生態系被害 | | | | 分布拡大 | | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 捕食摂食 | 繁殖 | 気候 | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | | 特定外来種 | アトラス属 | <i>Atrax</i> spp. | III | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | オーストラリア | - | 主に森林 | | | 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | |
| 2 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | | 特定外来種 | ハドロニユケ属 | <i>Hadronyche</i> spp. | III | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | オーストラリア | - | 主に森林 | | | 壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | |
| 3 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | | 特定外来種 | イトグモ属3種 | <i>Lososceles</i> spp. | III | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | 北米~南米 | - | 住宅地等 | | | <i>Lososceles reclusa</i> , <i>L. laeta</i> , <i>L. gaucho</i> の3種。壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | | |
| 4 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | | 特定外来種 | ジュウサンボシゴケグモ | <i>Latrodectus tredecimguttatus</i> | III | ○ | - | - | - | - | - | - | - | ◎ | - | - | - | ヨーロッパ | - | 住宅地等 | | | | | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | 特定外来種 | キョウトウサンリ科 | <i>Buthidae</i> Gen. spp. | III | ○ | ◎ | - | - | - | - | - | - | ◎ | - | ○ | - | 世界の熱帯・亜熱帯域に約950種が分布 | - | 乾燥地、森林等様々な環境に生息 | | ペットとして飼養されていた。現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。 | | 本科に属するマダガスカル <i>Isometrus maculatus</i> が先島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の外来種の両方の可能性があり詳細は不明。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008) | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ④ | ⑤ | 特定外来種 | クロゴケグモ | <i>Latrodectus mactans</i> | III | | | | | | | | | ◎ | - | - | - | 北米 | 山口 | 都市部、住宅地等 | | | 米軍岩国基地とその周囲で発見される。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP | | |
| 7 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ④ | ⑤ | 特定外来種 | ハイイロゴケグモ | <i>Latrodectus geometricus</i> | III | | | | | | | | | ◎ | - | - | - | 原産地は不明。熱帯~亜熱帯に広く分布。 | 愛知、九州、沖縄に定着。他にも確認記録多い。 | 都市部、住宅地等 | | 現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。 | | 強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていない。セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いとされている。 | ①特定外来、④各県:兵庫・宮崎・沖縄 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP | |
| 8 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ④ | ⑤ | 特定外来種 | セアカゴケグモ | <i>Latrodectus hasseltii</i> | III | | | | | | | | | ◎ | - | ○ | - | オーストラリア原産と考えられている。北米等に侵入 | 中部地方以南の主に太平洋側の地域。関東・東北の記録が増加している。 | 都市部、住宅地等 | | 現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。 | 逸出には十分な注意を払うべき。 | 強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内では死亡例はない。 | ①特定外来、④各県:京都・兵庫・徳島 | 自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP | |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ヤンバルトサカヤステ | <i>Chamberlinius hualienensis</i> | IV | | | | | | | | | | | | ○ | - | ○ | 台湾 | 神奈川県、埼玉県、静岡県、徳島、高知、鹿児島、八丈島、屋久島、沖縄島、奄美大島、徳之島 | 住宅地、農地、里地・里山の環境 | | | 大量発生し不快害虫となる他、農業被害や毒を持つことの影響が大きい。知見の集積が必要。 | ④各県:沖縄 | 藤山(2009)、石田・藤山(2010) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <動物(その他無脊椎動物)>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度・実効性・実 行可能性 | 特定外来種/旧 要注意 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-------------------------------|------------|-------------|-----------------------------------|----------------|-------------------|---------------------------------|----------|-------|-------|------|------|-----------|-------|------|----|----|----|----|----|------|-----------|---|--|--|--|---|--|---|-----|
| | | | | | | | | 定着可能性 | 生態系被害 | 分布拡大 | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | 生物導入 | 競合 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | 気候 | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | | | | | | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 旧要注意 | ムネオプシス・レイディ | <i>Mnemiopsis leidyi</i> | I | ◎ | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | ○ | - | - | ○ | - | 北米・南米の大西洋沿岸産。黒海、カスピ海、地中海等に侵入。 | 内湾から河口域にかけての海域 | 動物プランクトンや小魚の捕食 | ①要注意、③GISD | Ivanov et al. (2000)、自然環境研究センター(編者)(2008)、ISSG-GISD | | | |
| 2 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 特定外来 | カワホトギスガイ | <i>Dreissena polymorpha</i> | I,III | ○ | ○ | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | - | ○ | 黒海、カスピ海及び周辺河川原産。ヨーロッパ北米に侵入。 | 湖沼、河川 | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響 | ①特定外来、③GISD | 自然環境研究センター(編者)(2008) | | | |
| 3 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 特定外来 | クワガガイ | <i>Dreissena bugensis</i> | I,III | ○ | ○ | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | - | ○ | 黒海沿岸産。カスピ海、ヨーロッパ、北米等に侵入。 | 淡水、汽水の岩、人工構造物、泥中 | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編者)(2008) | | | |
| 4 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | | ディケログマルス・ヴィロース | <i>Dikerogammarus vilosus</i> | I | ○ | - | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | 東ヨーロッパ、黒海～カスピ海地方原産。西ヨーロッパに侵入。 | 湖沼、河川、汽水域 | 幅広い水域に侵入し、他のヨコエビをはじめとする多様な水生生物を捕食。栄養段階を大きく変換させる。 | ⑤その他 | Dick & Platvoet (2000), Dick et al. (2002), Noordhuis et al. (2009) | | | |
| 5 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | 旧要注意 | ヨーロッパミドリガニ | <i>Carcinus maenas</i> | I | ○ | ○ | ○ | - | ◎ | - | ○ | - | - | ○ | - | ◎ | - | ◎ | ヨーロッパ・アフリカ北部の大西洋沿岸原産。北米大西洋岸、南アフリカ、オーストラリアに侵入。 | 内湾の岩礁、乾石、干潟、塩性湿地 | バラト水への幼生の混入だけでなく、船舶のシーチェストに混入していた事例も知られている。侵入地では、被食者である在来巻貝の殻を厚くするなどの表現型変異を短期間で引き起こし、二枚貝群集の組成を大きく変化させたことなどが知られる。 | ①要注意、②W100:IUCN、③GISD | Cohen, A.N., Carlton, J.T., Fountain, M. C. (1995)、Trussell, G.C. (2000)、Grosholz, E.D. (2005)、自然環境研究センター(編者)(2008) | | | |
| その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | アスタクス属 | <i>Astacus spp.</i> | I | ○ | - | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | 中央アジア～ヨーロッパ | 湖沼、河川等 | ペットとして飼養されていた。現在は輸入・飼養は規制されている。 | Astacus astacus, A. leptodactylus, A. pachypusの3種が含まれる。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編者)(2008) | | |
| 7 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | ミスリークレイフィッシュ | <i>Procambarus fallax</i> | IV | ○ | ○ | - | - | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | 北米南部 | 河川等 | ペットとして飼養されている。流通量は多い。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 単為生殖をおこなう。ザリガニカビ病を媒介する可能性がある。 | ⑤その他 | IUCN-red list | |
| 8 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | ラスティクレイフィッシュ | <i>Orconectes rusticus</i> | I | ○ | - | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | 北米東部原産。北米各地、カナダ、フランスに侵入。 | 湖沼、河川等 | ペットとして飼養されていた。現在は輸入・飼養は規制されている。 | 様々な水生生物を捕食し、摂食量が多い。 | ①特定外来、③GISD | 自然環境研究センター(編者)(2008)、ISSG-GISD | | |
| 9 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | ケラクス属 | <i>Cherax spp.</i> | I | ○ | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | オーストラリア、ニュージーランド | 河川等 | ペットとして飼養されていた。現在は輸入・飼養は規制されている。 | 本属は45種を含む。マロン <i>C. tenuimanus</i> 、レッドクロー <i>C. quadricarinatus</i> 、ヤビー <i>C. destructor</i> 等が国内で流通していた。マロンは南アフリカに侵入。 | ①特定外来 | 自然環境研究センター(編者)(2008) | | |
| 10 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | 特定外来 | 外国産モクスガニ属 | <i>Eriocheir spp.</i> | I | ○ | ◎ | ◎ | ○ | - | - | ○ | - | - | - | - | ◎ | - | - | 中国 | 生体は河川、幼生は海域で浮遊生活。 | 「上海蟹」として食用にされるが、特定外来生物に指定されているため、許可を受けた業者のみが取り扱っている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | 侵入地では、漁業による土手の破壊や川底の浸食によって生息場所の物理的構造を大きく変え、漁網内の漁獲物への食害等の漁業被害を発生させていることが知られる。 | ①特定外来、②W100:IUCN、③GISD | Dittel, A.I., Epifanio, C.E. (2009)、小林哲(2012) | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①②③ ⑤ | 特定外来 | ウチダザリガニ(タンカイザリガニ) | <i>Pacifastacus leniusculus</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | 北米原産、ヨーロッパに侵入。 | 北海道、福島、千葉、長野、滋賀 | 湖沼、河川等 | 特定外来生物に指定されるが、許可を受けて利用されているものもある。阿寒湖と塘路湖では漁業権が設定され食用に漁獲されている。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | ザリガニカビ病を媒介する可能性がある。 | ①特定外来、②W100:日本、③GISD、④各県:北海道、青森、京都 | |
| 12 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①③ ⑤ | 旧要注意 | アメリカザリガニ | <i>Procambarus clarkii</i> | I | | | | | | | | | | | | | | | 米国南部原産。メキシコ、ドミニカ、ヨーロッパ等に侵入。 | 全国各地 | 湿地、水田とその周辺等 | ペットとして多数飼育されている。かつては食用ウシガエルの餌として輸入された。 | 逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。 | | ①要注意、②W100:日本、③GISD、④各県:北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、鹿児島、沖縄 | |
| 13 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①④ ⑤ | 特定外来 | カワヒバリガイ属 | <i>Limnoperna spp.</i> | I,III | | | | | | | | | | | | | | | 東アジア～東南アジア | 利根川水系、大塩湖(群馬県)、天竜川、宇連川、矢作川(愛知県)、木曾川水系、琵琶湖・淀川水系 | 淡水域の岩の表、水路等 | | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | ①特定外来、②W100:日本、③GISD、④各県:北海道、千葉、滋賀、京都、兵庫 | 自然環境研究センター(編者)(2008) | |
| 14 | 小笠原・南西諸島 | 緊急対策外来種 | ①②③ ⑤ | 特定外来 | ニューギニアヤリガタリクウズムシ | <i>Platydemus manokwari</i> | I,II | | | | | | | | | | | | | | | ニューギニア原産。オーストラリア、太平洋島嶼、モルジブ等に侵入。 | 琉球列島、小笠原島 | 森林、草原 | | 小笠原父島の固有陸貝類に壊滅的な捕食の影響を与えている。広東住血線虫の中間宿主となる。 | ①特定外来、④各県:沖縄 | 自然環境研究センター(編者)(2008)、Sugiura et al. (2006)、Iwai et al. (2010) | |
| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③④ | 旧要注意 | アフリカマイマイ | <i>Achatina fulica</i> | I,II,III | | | | | | | | | | | | | | | 東アフリカ原産。マダガスカル、モーリシャス、コモロ、インド、東南アジア、中国南部、台湾、ハワイ、バスマツ等に侵入。 | 小笠原諸島、沖縄島、奄美諸島、宮古島、八重山諸島 | 畑地に隣接した草むらや林縁の藪等、小笠原では原生的な森林にも侵入。 | 食用とするが、国内での生産の情報は未確認。 | 輸入について植物防疫法上の規制あり。国内移動について植物防疫法上の規制あり。広東住血線虫の中間宿主となる広東住血線虫の中間宿主となる。小笠原で国内希少野生動物植物種であるタイヨウフウトウカズラを食害する。 | ①要注意、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:鹿児島、沖縄 | 自然環境研究センター(編者)(2008) | |
| 16 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ④ | | ヨーロッパザラボヤ | <i>Ascidella aspersa</i> | III | | | | | | | | | | | | | | | 北大西洋ヨーロッパ沿岸、ノルウェー～地中海 | 北海道南部～東北地方 | 水深50m程度までの沿岸海域 | | 北海道噴火湾でホタテガイ養殖に基大な経済的被害を与えた。 | ③GISD、④各県:北海道 | 金森他(2012) | |
| 17 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ④ | 旧要注意 | スクミンゴガイ | <i>Pomacea canaliculata</i> | III | | | | | | | | | | | | | | | 南米原産。中国、韓国、東南アジア、ハワイ等に侵入。 | 関東以南 | 水田、水路等 | かつては食用とされていたこともあるが、現在は利用についての情報は得られなかった。 | 広東住血線虫の中間宿主となる。 | ①要注意、②W100:日本・IUCN、③GISD、④各県:北海道、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、熊本、鹿児島 | 自然環境研究センター(編者)(2008) | |
| 18 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ④ | | ラブラタリゴガイ | <i>Pomacea insularum</i> | III | | | | | | | | | | | | | | | 南米原産 | 静岡、広島、八重山諸島 | 水田、水路等 | | 輸入について植物防疫法上の規制あり。広東住血線虫の中間宿主となる。 | ③GISD | Matsukura et al. (2008) | |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件等 被害の深刻度・実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意種 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | |
|--------------------|----------------|-------------|-------------------------------|-------------|------------|-----------------------------------|----------------------------------|--------|----|-------|----|------|----|-----------|-------|----|------|------|----|--------|--------|--|--|---------------------------------------|---|---------------------------------------|--|---|---|--|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | 分布拡大 | | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競争 | 交雑 | 捕食 | 繁殖 | | | 気候 | 重要地域 | 経済産業 | 利用 | | | | | | | | | 付着 | | |
| 19 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①② | 特定外来種 | ヤマヒタチオビ | <i>Euglandina rosea</i> | I, II | / | / | - | - | ◎ | - | ○ | ◎ | - | - | - | ◎ | - | ○ | 北米フロリダ、中南米原産。熱帯・亜熱帯の世界各地に侵入。 小笠原父島 | 温暖な地域の森林・草原 | | | | | 現在、小笠原父島ではニューギニアヤリガタリクズムシの侵入により激減し、ほとんど見られないが注意が必要。 広東住血吸虫の中間宿主となる可能性。 | ①特定外来種、②W100:日本、IUCN、③GISD | 自然環境研究センター(編者) (2008) |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | マツノサイゼンチュウ | <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> | I, III | / | / | = | = | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | = | ◎ | = | ◎ | - | ◎ | 北米原産。東アジア、ポルトガルに拡がっている。 北海道を除く金沢県 | アカマツ、クロマツ、リュウキュウマツなどのマツ林 | | | | マツノマダラカキリに選ばれて、マツ類の樹体内に侵入することによりマツ類を枯死させる(松枯れ・楡くい虫被害)。輸入について植物防疫法上の規制あり。また、森林病害虫等防除法に基づき防除を実施。 | ③GISD、⑤その他 | 日本生態学会(編)(2002)、環境庁(1977) | |
| 21 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | ホンビノスガイ | <i>Mercenaria mercenaria</i> | IV | / | / | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | - | - | 北米東海岸 | 東京湾 | 内湾の砂泥底 | 食用として流通している。千葉県市川市塩浜地先と船橋市地先では漁業権が設定され食用に漁獲されている。 | 遺棄、放逐を厳に慎むべき。近年食用の利用も増加しているが、導入は慎むべき。 | 知見の集積が必要 | ④各県:北海道、千葉、愛知、京都、⑤その他 | 種彦・木幡 (2005) | |
| 22 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | シナハマグリ | <i>Meretrix petechialis</i> | I, III | / | / | - | ◎ | - | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ | 朝鮮半島、中国、ベトナム | 不明 | 内湾干潟の砂泥底 | 食用として流通している。 | 畜養池からの逸出には十分な注意を払い、遺棄、放逐を厳に慎むべき。 | 環境省レッドリストで絶滅危惧II類とされた。在来種かつ食用二枚貝であるハマグリとの交雑個体が瀬戸内海で確認されており、ハマグリ個体群へのさらなる遺伝子浸透と希少個体群の衰退が懸念される。 | ①要注意、②W100:日本、④各県:千葉、京都、愛媛 | Yamakawa, A.Y. & Imai, H. (2012)、日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008) | |
| 23 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | カラムシロ | <i>Nassarius sinarus</i> | I, III | / | / | ◎ | - | ◎ | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | ○ | 中国沿岸 | 瀬戸内海、有明海 | 干潟 | | | | 輸入漁業資源に混入して侵入したと考えられている。 | ①要注意 | 自然環境研究センター(編者) (2008) |
| 24 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | マダラコウラナメクジ | <i>Limax maximus</i> | IV | / | / | ○ | - | ○ | - | ○ | - | - | - | ○ | - | ○ | ヨーロッパ原産。南北アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア等に侵入。 | 北海道、本州の一部に侵入。定着も確認されている。 | 都市部、住宅地、農耕地、河川敷等 | | | | 海外では他種のナメクジに対して高い攻撃性を持つことや、園芸植物や農作物への被害の報告がある。知見の集積が必要。 輸入について植物防疫法上の規制あり。 | ⑤その他 | Rollo (1983)、Baker & McGhie (1984) |
| 25 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ムラサキガイ | <i>Mytilus galloprovincialis</i> | I, III | / | / | ◎ | ◎ | - | - | ○ | - | - | ◎ | ○ | ○ | ○ | 地中海沿岸原産。韓国、オーストラリア、北米、アフリカ等に侵入。 | ほぼ全国の沿岸域 | 潮間帯の岩・人工構造物に付着 | 食用とされ、一部で流通がある。岩手県において漁業権に基づき養殖の実態がある。 | 遺棄、放逐を厳に慎むべき。近年食用の利用も増加しているが、導入は慎むべき。 | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。大発生年にはカキ養殖に基盤な被害を与える。北海道では在来種キタムラサキガイとの交雑個体がほぼ全域で確認されている。 | ①要注意、②W100:日本・IUCN、④各県:北海道、千葉、京都、兵庫、鳥取、徳島、愛媛 | Brannock, P.M., Wethey, D.S. & Hibish, T.J. (2009) | |
| 26 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ミドリイガイ | <i>Perna viridis</i> | I, III | / | / | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | ○ | ○ | ○ | インド洋～西太平洋の熱帯域。カリブ海、メキシコ湾、オーストラリア沿岸に侵入。 | 山形、関東以南 | 潮間帯の岩、人工構造物 | 食用とするが、国内での生産はないと思われる。 | | | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | ①要注意、③GISD、④各県:千葉、京都、兵庫、徳島 | 自然環境研究センター(編者) (2008) |
| 27 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | コウロエンカワヒバリガイ | <i>Xenostrobus securis</i> | I, III | / | / | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | ○ | オーストラリア、ニュージーランド沿岸原産。アドリア湾に侵入。 | 関東、中部以西 | 内湾、河口等の潮間帯 | | | | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | ①要注意、②W100:日本、③GISD、④各県:北海道、千葉、京都、兵庫、鳥取、徳島 | 自然環境研究センター(編者) (2008) |
| 28 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | イガイダマシ | <i>Mytilopsis salei</i> | I, III | / | / | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | ○ | メキシコ湾、カリブ海原産。インド、ベトナム、台湾、香港、アフリカ等に侵入。 | 千葉、東京、静岡、愛知、富山、大阪、和歌山、福岡 | 河川の下流部等の汽水域 | | | | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。 | ①要注意、④各県:北海道、千葉、京都 | 自然環境研究センター(編者) (2008) |
| 29 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | タイワンシジミ | <i>Corbicula fluminea</i> | I | / | / | ◎ | ◎ | - | - | ○ | - | - | ○ | ○ | ○ | ○ | 中国、朝鮮半島、ロシア原産。北米、南米、ヨーロッパ、オーストラリアに侵入。 | 本州～九州 | 湖沼、水路等の淡水域 | 食用として流通している。 | | | カナツケシジミ <i>insularis</i> とされるものを含む。在来のマシジミと交雑し、外見上区別ができない状態になっている。食味は在来のヤマトシジミに比べて劣るとされる。 | ①要注意、③GISD、④各県:千葉、京都、兵庫、徳島、愛媛 | 自然環境研究センター(編者) (2008) |
| 30 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | シマメノウフネガイ | <i>Crepidula onyx</i> | IV | / | / | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | ○ | ○ | ○ | 太平洋東岸 | 北海道、仙台湾、福島、関東～東海-紀伊半島、瀬戸内海、大分、九州北部、有明海沿岸 | 潮間帯-水深30mの海域。大型貝類(サザエ・アワビなど)の貝殻や岩に付着。 | | | | 水産利用種のサザエやアワビに付着し、商品価値の低下等を引き起こし、取り除きのためのコスト増大でも問題視されている。生態系影響については知見の集積が必要。 | ④各県:北海道、千葉、京都、兵庫、愛媛、⑤その他 | 日本生態学会(編)(2002)、山崎(2009) |
| 31 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | コモチカワツボ | <i>Potamopyrgus antipodarum</i> | IV | / | / | ○ | - | - | ◎ | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | ニュージーランド原産。 | 北海道、本州、四国、九州 | 主に砂礫質の小河川等の淡水、汽水域からも報告があり、環境適応性は幅広い。 | ホタルの餌として拡散されている事例がある。 フナ等の移植による非意図的な侵入に留意すべき。 | | | ホタルの餌としての放逐を厳に慎むとともに、カワフナ等の移植による非意図的な侵入に留意すべき。 | ④各県:北海道、青森、滋賀、京都、兵庫、⑤その他 | 浦部(2007)、増田他(2010) |
| 32 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ハブタエモノアラガイ | <i>Lymnaea columella</i> | IV | / | / | ○ | - | - | ○ | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | 北米原産。ヨーロッパ、アジア、オーストラリア等に侵入。 | 本州、四国 | 池沼、水路等の止水か半止水的な環境の淡水。 | | | | 在来種との置き換わり事例が確認されている。肝臓等の吸虫類の中間宿主になりうる。知見の集積が必要。 | ④各県:北海道、千葉、滋賀、京都、鳥取、⑤その他 | 高倉 (2008) |
| 33 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | オオクビキレガイ | <i>Rumina decollata</i> | IV | / | / | = | = | ○ | ○ | ◎ | = | = | ○ | = | ○ | ○ | 地中海沿岸地域原産。北米、南米、東アジアに侵入。 | 本州(関東以西)、九州 | 市街地、農耕地の乾燥した環境でも生息可能。 | | | 農作物・園芸植物への影響が懸念されている。また、海外では他の陸産貝類を捕食することが知られている。自家繁殖で繁殖可能。知見の集積が必要。 輸入について植物防疫法上の規制あり。 | ④各県:京都、兵庫、熊本、⑤その他 | 松原・武田(2009)、梅谷(編)(2012)、Fisher et al.(1980) | |
| 34 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | カニヤドリカンザシ | <i>Ficopomatus enigmaticus</i> | I, III | / | / | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | ○ | インド洋～オセアニア原産とされる。北米、ヨーロッパ等に侵入。 | 本州各地、九州、石垣島 | 河口、港湾等 | | | | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。浜名湖で大発生してカキ養殖に被害を与えた。 | ①要注意 | 自然環境研究センター(編者) (2008) |
| 35 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | カサネカンザシ | <i>Hydroides elegans</i> | III | / | / | ○ | - | - | - | ○ | - | - | ◎ | - | ○ | ○ | オーストラリア原産という説があるが詳細不明。北米、アゾレス諸島、ギリシャ沿岸、ペルシャ湾岸、西太平洋に侵入。 | 本州、四国、九州、福崎、奄美 | 内湾 | | | | 付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。瀬戸内海のカキ養殖に大きな被害を与えた。 | ①要注意、②W100:日本 | 日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008) |
| 36 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | タテジマフジツボ | <i>Amphibalanus amphitrite</i> | III | / | / | ◎ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | 世界的に分布し、ハワイ原産とする説があるが不明。 | 全国の各地の沿岸域 | 内湾の岩礁、港湾 | | | | 在来種フジツボを被覆して内湾の潮間帯の帯状分布を大きく改変する。船舶、発電所、工場等の取水施設や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。 | ①要注意、④各県:千葉、愛知、京都、愛媛 | Mori, K. & Tanaka, M. (1989)、森敬介(2006)、自然環境研究センター(編者)(2008)、山口(2009) |
| 37 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | アメリカフジツボ | <i>Amphibalanus eburneus</i> | IV | / | / | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | 北～中米の大西洋沿岸原産。世界中の温暖な沿岸域に侵入。 | 本州以南の沿岸 | 内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着 | | | | 船舶や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。知見の集積が必要。 | ④各県:千葉、愛知、京都、兵庫 | 山口寿之(1989) |
| 38 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ヨーロッパフジツボ | <i>Amphibalanus improvisus</i> | IV | / | / | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | 北～南米の大西洋沿岸原産。東アジア、ヨーロッパ、北米西部沿岸に侵入。 | 本州以南の沿岸 | 内湾の潮間帯、浅海の貝類に付着 | | | | 船舶や養殖カキに付着し汚損被害を引き起こす。知見の集積が必要。 | ④各県:千葉、愛知、京都、兵庫 | 山口寿之(1989) |
| 39 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | キタアメリカフジツボ | <i>Balanus glandula</i> | IV | / | / | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | 北米の太平洋沿岸原産。南米 | 北海道、東北沿岸 | 潮間帯の上部～下部 | | | | 潮間帯の中部で濃密に生息することから、そこに付着する在来種の固着生物を駆逐するおそれがある。知見の集積が必要。 | ④各県:北海道 | 加戸 (2007) |
| 40 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | フロリダマミズヨコエビ | <i>Oragnyx floridanus</i> | IV | / | / | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ◎ | ◎ | 北米 | 北海道、本州、四国、九州 | 小河川から大川の中流下流域から止水まで幅広い止水環境に生息。 | | | | 侵入後20年程度で日本各地に分布を拡大した。ペットショップで販売されているホテイアオイから検出されている。本種の侵入地で他種のヨコエビが見られなくなる地域が報告されている。知見の集積が必要。 | ④各県:千葉、滋賀、京都 | 金田他(2007)、倉西他(2009)、東城(2009) |
| 41 | 分布拡大期 ～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | チチュウカイミドリガニ | <i>Carcinus aestuarii</i> | IV | / | / | - | - | ○ | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ○ | 地中海、カナリア諸島原産。南アフリカに侵入。 | 東京湾、大阪湾、伊勢湾、浜名湖、洞海湾 | 河口～内湾の岩礁、潟、塩性湿地。繁殖期は沖合いへ移動。 | | | | 知見の集積が必要。形態形質から国内定着個体群に同属種のヨーロッパミドリガニ <i>C. maenus</i> との種の存在する可能性も指摘されている。 | ①要注意、②W100:日本、④各県:千葉、愛知、京都、兵庫、徳島 | 自然環境研究センター(編者) (2008)、土井他(2009) |

| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 生息環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | |
|----|------|------|----------------------------------|----------|----|----|------|-------|----|-------|----|----------|------|----|------|-----------------|------|--------|--------|-------|------|----------|----|------|-----|-------|----|------|
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要地域 | 特に問題となる被害 人体 | 経済産業 | | | | | | | | | 逸出・拡散 | 利用 | 付着混入 |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競争 | 交雑 | 捕食 摂食 | 繁殖 | 気候 | | | | | | | | | | | | | | |

【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)

| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------------------|---------|----------------------------------|----------|------------------|-------------------------|--------|-------|----|-------|----|----------|------|----|------|----|------|----|------------|-----------------------|------------|----------|----|------|--|---------|--------------------|
| No | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ 被害の深刻度 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注 | 和名 | 学名 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | 分布 | 問題となっている地域 | 生息環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | |
| | | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大 | | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | | | | | | | | | 利用 | 付着混入 |
| | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競争 | 交雑 | 捕食 摂食 | 繁殖 | 気候 | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①④ | | 自然分布域外のサキグロタマツメタ | <i>Euspira fortunei</i> | I, III | / | / | - | - | ◎ | - | ○ | - | - | ◎ | - | ◎ | 東アジア。国内では三河湾、瀬戸内海、有明海 | 東北～九州の太平洋岸 | 干潟や泥底の浅海 | | | 外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に甚大な影響を与えている。 | ④各県:鹿児島 | 大越健嗣・大越和加(編)(2011) |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | | | |
|----------------------------|--------------|-------------|-----------|-----------|--------|------------------------|-------------------------------|--------------|------|-------|----|-----|----|-------|----|-----|----|---------|----|------|-----|------|-----------|--------|--------|----|--|--|-------------|--------------------------------------|--|--|---|--|--|---|--------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | | 定着可能性 | | | | 生態系被害 | | | | 分布拡大・拡散 | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | | | | | | | | | 逸出・拡散 | | | | |
| | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | 経済産業 | 利用 | | | | | | | | | | | | | 付着混入 | | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 未定着 | 侵入予防外来種 | | | イネ | ビーチグラス | <i>Ammophila arenaria</i> | 海岸砂丘 | IV | ◎ | ○ | (◎) | × | ◎ | ◎ | (◎) | ○ | (○) | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | ヨーロッパ海岸地域、北米東部に分布 | | 1.2m、多年草 | 砂丘の砂留めに栽植される。 | 日本でも販売される可能性がある。海外では、砂丘の砂留めに栽植される。一部の地域では、家屋の屋根、籠、椅子の座布団などに利用される。 | 海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、海水で分布拡大すること等から、特に日本の海岸等の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。 | | ◎海外:ISSG | 有用 | |
| その他の定着予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | カバノキ | ヨーロッパハンノキ(オウシュウクロハンノキ) | <i>Alnus glutinosa</i> | 湿地 | IV | ◎ | ◎ | (◎) | - | ○ | ○ | (◎) | ○ | (◎) | - | - | - | ○ | - | - | - | - | ○ | ヨーロッパ、コーカサス、シベリア西部原産 | | 20m、落葉高木 | 湖沼、自然林、植林地、河川敷、市街地、荒地、湿地に生育。日当たりの良い、湿った土壌を好むが、乾燥にも耐える。窒素固定を行う。 | 青森県、岩手県で植栽。海外では、浸食防止、土壌改良、観賞用に植栽 | 海外で侵略的な外来種とされていることから、特に生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | ◎海外:ISSG | 便宜、有用、園芸書典、JF | |
| 3 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | クワ | フランスゴムノキ | <i>Ficus rubiginosa</i> | | IV | ○ | ◎ | (◎) | - | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | オーストラリア原産、ヨーロッパや北アメリカに導入。 | | 30m、常緑高木 | 自然林、植林地、川岸、低木林、市街地。環境への適応の幅は広い。 | 日本で観賞用に販売されている。海外では、日陰樹等として広く植えられる。 | 海外で侵略的な外来種とされており、動物により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 種特異的な受粉者がいないと種子をつけない。同じイチジク属のガジュマルは、小笠原で問題になっている。 | | ◎海外:ISSG | JF |
| 4 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | ベンケイソウ | クラッスラ・ヘルムシー | <i>Tillaea helmsii</i> | 湿地 | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ◎ | (○) | - | - | (◎) | ○ | - | - | - | - | - | オーストラリア、ニュージーランド | | 0.2m、水草 | 湿地や水辺を好んで生える。水槽内での栽培の難易度は普通。 | 日本でもアクアリウムで利用。 | 海外で侵略的な外来種とされており、水により断片が散布されること等から、自然水域に持ち込まない。 | アズマツメクサと同じ仲間。ISSGでは <i>Crassula helmsii</i> 。和名(通称名)は本学名による。 <i>Tillaea</i> アズマツメクサ属の数が日本で採集されている。 | | ◎海外:ISSG | 水草 I、勝山委員 |
| 5 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | カエデ | ノルウェーカエデ(ヨーロッパカエデ) | <i>Acer platanoides</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | - | ◎ | ◎ | (◎) | ◎ | (◎) | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | ヨーロッパからカフカス地域に広く分布。北米の自然林に侵入し、侵略的となっている。 | | 落葉高木 | 海岸、自然林、植林地、攪乱地、市街地に生育。湿潤な温帯地域に生育。生長が早く、様々な土壌環境に適応する。耐陰性や耐干性があり、病害への耐性があり、海岸にも生育する。 | 庭園樹、街路樹、公園樹に利用。葉が周年暗紅色の園芸品種も育成。日本でも流通しており、近年庭木等として用いられている。 | 海外で侵略的な外来種とされており、風により種子が散布され、狭く張った根茎が在来種の生育を阻害し、葉から土壌微生物に影響を及ぼし、在来種の生育を阻害する毒素を放出する。北アメリカでは下層植生の衰退が報告されている。冷温な地域において、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 日本にはカエデ属の種類が多いことから、定着する可能性が高いと考えられる。日本での栽培成績からは、少なくとも暖地では非常に弱い。雌雄同株。 | | ◎海外:ISSG | 有用、JF、日本造園学会 |
| 6 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | カエデ | アメリカハナノキ(ベニカエデ) | <i>Acer rubrum</i> | ハナノキの生育地の周辺 | I | ○ | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | ○ | ○ | ○ | - | - | - | ◎ | - | - | - | - | - | 米国北部、カナダ原産 | | 落葉高木 | 沼沢地や川岸に生える。 | 庭木、公園樹、並木として利用される。 | 絶滅危惧種のハナノキの遺伝的攪乱を引き起こすことから、ハナノキの生育場所の周辺には持ち込まないか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。 | 絶滅危惧Ⅱ類(VU)のハナノキの遺伝的攪乱を引き起こしている。 | ◎その他:勝山委員 | 樹木、日本生態学会第60回大会(2013)講演要旨 | |
| 7 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | | グミ | ホソグミ(ロシアンオリーブ) | <i>Elaeagnus angustifolia</i> | 湿地や河原 | IV | ○ | ◎ | (◎) | - | ◎ | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | - | - | (◎) | ○ | - | - | - | - | - | ヨーロッパ南部から西アジアに分布。合衆国で河川を中心に急速に増加。 | | 低木 | 農耕地、氾濫原、川岸、水路、湿地に生育。実生には耐陰性があり、貧栄養な環境を含み、様々な土壌、水分条件に生育する。他の低木や木本の競争に耐え、萌芽生長により広がる。 | 日本でも、観葉植物として、販売されている。海外では、果実は食用にされ、栽培されることもある。中国西部では薬用にする。 | 海外で侵略的な外来種とされており、窒素固定能力があるとともに、水や鳥、小型哺乳類により種子が散布される。自然水域や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 日本にはグミ属の在来種が数多くあることから、定着する可能性が高いと考えられる。 | | ◎海外:ISSG | 有用、Ylist |
| 8 | 未定着 | その他の定着予防外来種 | | (旧要注意) | ギョリュウ | タマリクス属雑種(ギョリュウ) | <i>Tamarix x hybrid</i> | 湿地や河原 | IV | ○ | ◎ | (◎) | × | ○ | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | - | - | ○ | ○ | ○ | - | - | - | - | | | 落葉低木 | 農業地域、沿岸地帯、荒地、河口、湖岸、河川、攪乱地、市街地、水路、湿地 | 日本では、通称名ギョリュウで種名不明なものも流通している。 | 海外で侵略的な外来種とされており、水辺の生物や水利用への影響が大きいことから、自然の河川等や生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | <i>T. ramosissima</i> (Worst100で要注意外来生物)と <i>T. chinensis</i> ギョリュウを両親または片親とするすべての雑種。 | ◎要注意、◎W100:(IUCN)、◎海外:(ISSG)、◎その他:藤井委員 | JF、J. F. Gaskin and B. A. Schaal. 2002. Hybrid Tamarix widespread in U.S. invasion and undetected in native Asian range. PNAS 99:11256-11259. | |
| 9 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | 旧要注意 | ヤルマ | ヤツデグワ | <i>Cecropia peltata</i> | | IV | ◎ | ○ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | - | - | - | 熱帯アメリカ原産 | | 20m、常緑高木 | 森林の低地に多いが、攪乱地、溶岩層、森林のギャップ、植林地などに生育。 | 沖縄等の暖地や温室などで観賞用に栽培される。果実は甘くて海外では食用にされる。薬用になる。 | 海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 旧分類のイラクサ科。種子は果実の鳥に運ばれる。 | ◎要注意、◎W100:(IUCN)、◎海外:(ISSG) | ブラジル、外来生物、藤井委員 | | |
| 10 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | ヤルマ | ケクロビア・シュレベリアナ | <i>Cecropia schreberiana</i> | | IV | ◎ | ○ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | - | - | - | コスタリカ、ジャマイカ等が原産。ポリネシア等に導入。 | | 20m、高木 | 日当たりの良い肥沃地を好む。自然林、植林地、草地、川岸、攪乱地に生育。 | 日本では温室での栽培例がある。 | 海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が運ばれて森林に侵入すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 旧分類のイラクサ科。種子は果実の鳥やコウモリに運ばれる。 | ◎海外:ISSG | 藤井委員 | | |
| 11 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | トベラ | シマトベラ(トウソヨゴ) | <i>Pittosporum undulatum</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | - | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | - | - | - | オーストラリア東部原産、台湾にも野生化。 | 小笠原で野生化する。 | 12m、低木 | 関東の無加温温室で越冬。自然林、草地、河川敷、攪乱地、低木林に生育。 | 日本でも栽培されている。海外では、防風のために植えられ、ゴルフクラブや薪炭に利用され、観賞用としても利用、ミツバチの蜜源にもなる。 | 海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 有毒物質のサポニンを含み、他の植物の生育を阻害する。 | ◎海外:ISSG | 園芸書典 | | |
| 12 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | フトモモ | タチバナアデク(ピタンガ) | <i>Eugenia uniflora</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ○ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | - | - | - | ブラジルを中心に熱帯アメリカに分布。アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、北アメリカにも導入。 | | 常緑の低木または小高木 | 自然林、植林、草原、低木林。海外では、果樹として栽培されたものが野生化。 | 日本でも流通している。果樹として熱帯各地で栽培される。海外では薬用にされる。 | 海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | ◎海外:ISSG | 有用、Ylist、JF | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|-------------|-----------|-----------|-------------|---------|-------------------------------------|---------------------------------------|--------------|------|-------|----|-----|----|----|------|-----------|-------|---------|----|----|--------|--------|----|-------|------|----------|----|------|-----|----|---|-------------|--|--|--|--|--|--------------------------|--|-----------------------------|-----------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意種 | | | | | | 生態系被害 | | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 定着可能性 | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | | | 改変 | 分布拡大・拡散 | 気候 | 持続 | | | | | | | | | | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | |
| 13 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | フトモモ | ムラサキフトモモ (ヨウミョウアデク、メンゲラック、ムレザキフトモモ) | <i>Syzygium cumini</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | - | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | インドから東南アジア、マレーシア、オーストラリア北部に広がる。 | 30m、木本 | 自然林に生育。熱帯および亜熱帯気候の広い環境条件下で生育。洪水や干ばつにも耐える。 | 各地で紫色の果実を食用するために栽培される。インドネシアでは薬用。種なしの品種もある。日本でも流通している。 | 海外で侵略的な外来種とされていることから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | | ⑩海外:ISSG | 有用、Ylist、JF | | |
| 14 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | ノボタン | アメリカカサノボタン | <i>Clidemia hirta</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | (◎) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 熱帯アメリカ原産 | 2m、低木 | 自然林、草原、水辺、攪乱地、低木林 | 海外では観賞用等に栽培される。日本では植物園の温室で栽培される。温室の鉢物による。 | 海外で侵略的な外来種とされ、鳥、人、車などによって分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 軟弱そうに見えるが、丈夫で、年中花が咲き実がつく。増殖は実生で行い、発芽もよい、挿し木もできる。南西諸島や小笠原では、大きな脅威になる可能性がある。 | | | ①要注意、②W100:IUCN、③村中・C、⑩海外:ISSG、⑪その他:藤井委員 | 園芸事典、藤井委員 | |
| 15 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | ウコギ | シェフレラ・アクチノフィラ(ブラッサイア) | <i>Schefflera actinophylla</i> | | IV | ○ | ◎ | (◎) | - | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | オーストラリア、ニューギニア原産、ハワイなど太平洋諸島で侵略的 | 30m、高木 | 自然林、攪乱地、市街地 | 観賞用に栽培される。日本でも流通している。 | 海外で侵略的な外来種とされ、鳥により種子が運ばれて分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | | ⑩海外:ISSG | JF、IPSW | | |
| 16 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | ヤブコウジ | コウトウタチバナ (セイロンマンリョウ) | <i>Ardisia elliptica</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | - | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | アジア～オセアニアに分布。 | 常緑低木 | 熱帯の混雑海岸地域の海岸や湿潤な森林等に生育。 | 観賞用に利用される。日本でも流通している。 | 海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、鳥により種子が運ばれて分布拡大することなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | | ①要注意、②W100:IUCN、⑩海外:ISSG | Ylist、JF、外来生物 | | |
| 17 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | ガガイモ | オオバナアサガオ | <i>Cryptostegia grandiflora</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | マダガスカル原産とされるが原産地とははっきりしない。北アメリカ、南アメリカに分布。オーストラリアで侵略的。 | 常緑のつる性木本 | 農耕地、自然林、植林、氾濫原、河岸、攪乱地、低木林、水路、湿地、海岸 | 観賞用としてフェンスに這わせたり、生垣として用いる。日本でも栽培される。沖縄の石垣島では支柱を立てて庭木として利用。刈りこめば低木状になる。茎からは良質の繊維がとれる。乳液からはゴムが採取され、第二次大戦のときにはゴム原料植物として栽培された。 | 海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 強健種で比較的栽培は簡単。潮風に強いので海岸地の植栽に適する。多湿地を嫌い、排水の良い砂質土壌を好む。繁殖は実生(取り置き)、取木、散布による分布拡大・拡散もないので、掲載には当たらないと考える(日本造園学会)。 | | | ⑩海外:ISSG | 有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、日本造園学会 | |
| 18 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | ノウゼンカズラ | トラノツメ(ネコノツメ) | <i>Macfadyena unguis-cati</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | メキシコ、ガテマラ、ブラジル、アルゼンチン原産。オーストラリア、合衆国南東部、アフリカ南部で侵略的。 | 常緑つる性、多年草 | 自然林、植林、草原、攪乱地、市街地。若い時は耐陰性がある。 | 海外では観賞用に栽培されるほか、薬用にも利用される。苗木入手容易。近年トラノツメという名で市場に出ている。近年広く栽培されている。 | 海外で侵略的な外来種とされ、風や水により種子が散布されることなどから、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | | ⑩海外:ISSG | 有用、熱帯花木、園芸事典、IPSW、JF | | |
| 19 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | キツネノマゴ | ベンガルヤハズカズラ(ウリハローレルカズラ) | <i>Thunbergia grandiflora</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | (◎) | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | インド～東南アジア原産。オーストラリアやハワイで特に問題になっている。オーストラリアでは特に最も問題のある外来植物の一つとなっている。 | 10m、木質のつる植物 | 自然林、植林地、攪乱地、川岸、海岸に生育。日本では、関東東南部、横浜などで近年、閑静な住宅地でも蔓延する。 | 観賞用に栽培される。苗木入手容易。斜面、フェンスや網目格子を簡単に覆ってしまふ。海外では、薬用にされる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、水により茎や根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 寒さで傷みやすが、回復も早い。小笠原では近縁種の <i>T. laurifolia</i> が野生化している。海外では牧草地にも侵入している。 | | | ⑩海外:ISSG | 有用、熱帯花木、園芸事典、JF、IPSW、Ylist | |
| 20 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | リュウゼツラン | アツパチトセラ(サンズベリア) | <i>Sansevieria trifasciata</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | 熱帯西アフリカ原産。ハワイで野生化。オーストラリアでは環境雑草。台湾で侵略的な外来種。 | 1.0m、多肉の多年草 | 海外では栽培された場所から逃げ出している。越冬には12～15℃必要だが、乾燥に強いので、水を控えれば0℃近い低温にも耐える。 | 観葉植物として栽培され、多くの園芸品種がある。株分けで繁殖する。アフリカでは葉から繊維を採取。 | 海外で侵略的な外来種とされ、近縁種が小笠原で繁殖していること、鳥や動物による分布拡大があること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 近縁種の <i>S. n. notata</i> が小笠原の父島、母島、弟島、姉島、姪島などに野生化。耐陰性がある。 | | | ⑩海外:ISSG | 有用、園芸事典、JF、Ylist、PIER、GCW | |
| 21 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | イネ | ダイサンチュク(タイサンチュク) | <i>Bambusa vulgaris</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | - | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | 東南アジアから太平洋諸島まで広く分布。 | 15m | 自然林、植林地、川岸、攪乱地、水路に生育する。温気のある低地を好むが、気候や土壌条件への耐性は広い。土手、道端など開けた場所に生育する。 | 日本の暖地では露地でどうにか越冬できるが、遅く出た節は先が枯れる。 | 庭園観賞、製紙・建築用、防風用に栽培される。若いだけのこは食用にされる。建築など各種の用途に用いられる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、除去する際に根茎の断片が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 近縁種の <i>B. multiplex</i> インドシナ原産説と九州、琉球野生種がある。 | | | ⑩海外:ISSG | 有用、園芸事典、Ylist、JF、木本II |
| 22 | 小笠原・南西諸島/未定着 | その他の定着予防外来種 | | | | ヤシ | シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ) | <i>Archontophoenix cunninghamiana</i> | | IV | ◎ | ◎ | (◎) | × | - | ◎ | (◎) | ○ | (◎) | ○ | - | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | - | ○ | オーストラリア島北部原産。ブラジル、ニュージーランド等で侵略的。 | 20m | 海岸、自然林、河岸、攪乱地、市街地に生育。ある程度の耐寒性と耐陰性がある。 | 優美な姿を観賞するために栽培される。カリフォルニアや地中海沿岸の温暖な地域では野外で栽培できる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、耐陰性があり、水や鳥により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | | ⑩海外:ISSG | 有用、園芸事典、JF | | |

総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)

| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-----------|---------|----------|-------|------|--------------------------------|---|--------------|-----------|-------|----|----|----|----|----|---------|----|----|------|-----------|-------|--------|--------|----|-------|------|----------|----|------|-----|---|---------------------------|---------------|---|---|---|---|--|--|-----------|---------------------------|
| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件 | 特定外来種 | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 定着可能性 | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 分布拡大・拡散 | 気候 | 持続 | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | | | | | | | | | |
| 23 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①②③④⑤ | 特定外来種 | アカバナ | オオバナミズキンバイなどを含むルドウイギア・グランドフィロラ | <i>Ludwigia grandiflora</i> (L. grandiflora ssp. grandiflora) | 湖沼 | I、II、IV、V | ◎ | ◎ | - | ◎ | ◎ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | ◎ | 南米及び北米南部原産。ヨーロッパや北米北部で帰化。 | 陸上～水中 | 沼沢、湿地、ため池、湖沼、水路、河川に生育する。コンクリートの崖岸でも生育できる。 | 本種の可能性のある類似種が、観賞用水草として日本でも流通している。水質浄化やビオトープ用の植物として利用されたと考えられる。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | ヨーロッパやアメリカで侵略的な外来種とされ、琵琶湖湖沼では急速に分布を拡大している。河川や湖沼への水草の導入は、基本的に抑えておくべきでない。 | ナガエツルノゲイトウと同様あるいはそれ以上に除草困難である。近縁の絶滅危惧種の <i>Miskenia</i> の遺伝的攪乱を引き起こすことも危惧される。 | | | ⑪その他:藤井委員 | 水草研究誌 89号、藤井委員、GCW、水草I、角野 |
| 24 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①③⑤ | 特定外来種 | セリ | ブラジルチドメグサ | <i>Hydrocotyle ranunculoides</i> | 池沼 | IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | - | ◎ | ◎ | 南アメリカ原産。 | 長さ1m以上、水生の多年草 | 川岸や水湿地を好む | 本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | | | | ①特定外来、③村中・B、⑤対策:H20<4、H23<4⑥専門家:水生19、⑦各県:兵庫・佐賀、⑧河川:0.0.1 | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|-----------|--------|------------|------------------------------------|-----------------------|---------|-------|----|----|----|----|---------|----|----|----|----|------|-----------|-------|----|---|---|--------------------------|---|---|--|---|---|---|-----|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 生態系被害 | | | | | 分布拡大・拡散 | | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永續 | 人体 | | | 経済産業 | 利用 | 付着 | | | | | | | | | |
| 25 | 定着初期/分布限定 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 特定外来 | イネ | スバルティナ属 | <i>Spartina</i> spp. | 干潟 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ、ヨーロッパ、北アフリカで15~16種類が知られる。 | スバルティナ・アルテルニフロラ(ヒガタアシ) <i>S. alterniflora</i> が愛知県と熊本県で分布拡大中。 | 汽水性の多年草 | 海岸近くの河口域、塩沼地、干潟に生育。 | 海外では塩沼地の回復や、土壌の浸食防止に利用される。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | 海外で侵略的な外来種とされており、植物体の断片により分布を拡大し、干潟の生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。日本でも希少種が生育する貴重な生態系である干潟への影響が危惧されている。河川や干潟等の自然水域には、持ち込まない。 | 北アメリカ原産の <i>S. alterniflora</i> が導入されたイギリスで <i>S. maritima</i> と交雑して不稔雑種の <i>S. × townsendii</i> が形成し、それが倍殖化して <i>S. anglica</i> が生まれた。スバルティナ・アングリカは特定で IUCN フォースト100。ISSGには <i>S. anglica</i> 、 <i>S. alterniflora</i> 、 <i>S. densiflora</i> が掲載。 | ①特定外来、②W100、(IUCN)、⑤対策:H23:1、⑥専門家:塩沼10⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG、⑪その他:藤井委員 | Neira, Carlos, Levin, L A and Grosholz, E D. 2005. Benthic macrofaunal communities of three sites in San Francisco Bay invaded by hybrid <i>Spartina</i> . with comparison to uninvaded habitats. Marine ecology progress Series 292:111-126. | |
| 26 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①③ | ⑤ | 特定外来(一部) | アカウキクサ | 外来アゾラ類 | <i>Azolla</i> spp. | アカウキクサやオオアカウキクサの生育地周辺 | I、IV | | | | | | | | | | | | | | | 世界各地に分布。 | 3cm、浮遊植物 | 湖沼、水田、溝、水路など日当たりのよい浅い水域。 | 合鴨農法の中で、アイガモの飼料として各地に配布されたが、アゾラ・クリスタータは交雑の可能性はなく、外来生物法の規制の対象ではないが、絶滅危惧種のアカウキクサやオオアカウキクサ等との競合の可能性があるので、こうした種類の生育地へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | H20の対策と兵庫は特定外来生物のアゾラ・クリスタータ(アメリカオオアカウキクサ) <i>Azolla cristata</i> 。愛知県はアゾラ・クリスタータとオオアカウキクサ大和型(ニシノオオアカウキクサ)との人工雑種アイオオアカウキクサ <i>Azolla cristata × filiculoides</i> 。千葉県にはこれら2種。ISSGは <i>A. pinnata</i> 。 | ①特定外来、⑤対策:H20:4、H23:4、⑥専門家:水生34、⑦各県:千葉・兵庫・愛知・愛媛、⑩海外:ISSG | 雑管、角野(2013)、写真図鑑、角野 | | | |
| 27 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③④ | ⑤ | 特定外来 | ヒユ | ナガエツルノゲイトウ | <i>Alternanthera philoxeroides</i> | 池沼や湿地 | II、IV、V | | | | | | | | | | | | | | | 南アメリカ原産。 | 1989年渡来。関東~沖縄の一部に分布。 | 長さ1m以上、多年草 | 水辺の湿った土地 | 本種は特定外来生物に指定され、利用は規制されている。 | — | ①特定外来、③村中:B、⑤対策:H20:4、H23:6、⑥専門家:水生28⑦各県:千葉・兵庫、⑧河川:1.1.5、⑩海外:ISSG | 便覧、写真図鑑、帰化植物 | | |
| 28 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①③④ | ⑤ | 特定外来 | ウリ | アレチウリ | <i>Sicyos angulatus</i> | 河原の固有種の生育地 | IV、V | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産。 | 1952年に静岡に渡来。近年は飼料に混入し、北海道~九州に帰化。 | 数m、つる性の一年草 | 林縁、荒地、道端、原野、樹園地、造林地等に生育する。河川敷飼料畑に大群落。日当たりの良い肥沃な環境を好む。 | 本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。規制以前にも、利用に関する情報はなかった。 | 果実に刺がある。 | ①特定外来、②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20:51、H23:33、⑥専門家:草原47、⑦各県:青森・栃木・埼玉・千葉・京都・兵庫・愛知・広島、⑧河川:44.78.84 | 便覧、写真図鑑、外来生物 | | |
| 29 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①③ | ⑤ | 特定外来 | アリトウグサ | オオワサモ | <i>Myriophyllum aquaticum</i> | 池沼や湿地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 南アメリカ原産。 | 大正年間に渡来。北海道~九州、琉球で帰化。 | 種子は作らない | 湖沼や河川でみられる。 | 観賞用の水草として導入されたが、特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | — | ①特定外来、②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20:11、H23:15、⑥専門家:水生35、⑦各県:栃木・埼玉・千葉・京都・愛知・兵庫・広島・佐賀・宮崎、⑧河川:23.29.46、⑩海外:ISSG | 雑管、便覧、写真図鑑 | | |
| 30 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①③ | ⑤ | 特定外来 | ゴマノハグサ | オオカワヂシャ | <i>Veronica anagallis-aquatica</i> | カワヂシャが生育する河原や湿地 | I、IV | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ~アジア北部原産。南アメリカ、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ。 | 渡来年代不明、本州、四国、九州で帰化。 | 1m、多年草 | 湿地、河原、水田。 | 本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | 絶滅危惧種のカワヂシャとの交雑が確認されている。 | ①特定外来、③村中:A、⑤対策:H20:4、H23:6⑥専門家:交雑24、⑦各県:栃木・愛知・京都・兵庫・広島・佐賀、⑧河川:6.17.36 | 便覧、写真図鑑、外来生物 | | |
| 31 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①③ | ⑤ | 特定外来 | キク | オオキンケイギク | <i>Coreopsis lanceolata</i> | 河原の固有種の生育地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 明治中期に渡来。北海道~九州、琉球、小笠原で逸出、帰化。 | 0.7m、多年草 | 河川敷、道路沿い、海岸などに大群落を作る。 | 園芸植物として渡来。ワイルドフラワー緑化等に使用されていた。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | 愛知県でも、カワラサイコやカラハハコを圧迫している。 | ①特定外来、②W100:日本③村中:C、⑤対策:H20:22、H23:27、⑥専門家:河原42・草原40、⑦各県:千葉・兵庫・愛知・鳥取・広島・佐賀、⑧河川:19.58.86 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物 | | |
| 32 | 分布拡大期~まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 特定外来 | キク | ミスヒマワリ | <i>Gymnocoronis spilanthoides</i> | 池沼 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 中央~南アメリカ原産 | 1995年渡来、関東~四国、九州で帰化。 | 1.0m、多年草 | 河川や水路の水中や水際で繁茂する。 | 観賞用に利用された。本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | 治水や水利用の障害になっている。 | ①特定外来、③村中:B、⑤対策:H20:8、H23:5、⑥専門家:水生26、⑦各県:栃木・埼玉・千葉・愛知・兵庫・佐賀、⑧河川:0.0.2、⑩海外:ISSG | 便覧、写真図鑑 | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更があった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|-----------|------|-------------------------|---------------------------------|-------------------|--------|-------|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|------|-----------|----|-------|-----------------|--|-------------|--|---|--|----------|--|--|-----|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 定着可能性 | | | | | 生態系被害 | | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | |
| 33 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 特定外来 | キク | オオハongoソウ | <i>Rudbeckia laciniata</i> | 湿原や林床 | II, IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 園芸植物として明治中期に渡来。北海道～九州、琉球で帰化。 | 3m、多年草 | 路傍、荒地、河原、湿原など、肥沃で湿った環境に生育する。国立公園の湿原や森林といった自然度の高い環境に繁殖し、問題となっている。 | 本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | | | ①特定外来、③村中・B、⑤対策:H20:18、H23:2、⑥専門家:草原40・高山20、⑦各県:北海道・青森・栃木・千葉・愛知・兵庫・鳥取・広島、⑧河川:18.32.35 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物 | |
| 34 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①④ | ⑤ | 特定外来 | キク | ナルトサワギク | <i>Senecio madagascariensis</i> | | IV, V | | | | | | | | | | | | | | | アフリカ(マダガスカル)原産 | 1976年渡来。本州、四国、九州で帰化。 | 0.7m、一年草 | 海辺の埋め立て地や空き地などに生える。 | 本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | | | ①特定外来、⑤対策:H20<4、H23:1、⑥専門家:草原18、⑦各県:千葉・愛知・兵庫、⑧河川:0.0.5 | 便覧、帰化植物、写真図鑑、農研機構: http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease/foodpoisoning/fireweed.html | |
| 35 | 分布拡大期～まん延期 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 特定外来 | サトイモ | ボタンウキクサ | <i>Pistia stratiotes</i> | 暖地の池沼や湿地 | II, IV | | | | | | | | | | | | | | | 南アメリカ原産 | 昭和初期に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原 | 0.3m、浮遊性の水草 | 池沼、河川、水田、水路など日当たりの良いところに生育する。 | 本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。 | | | ①特定外来、②W100:日本、③村中・A、⑤対策:H20:6、H23:7、⑥専門家:水生36⑦各県:千葉・愛知・京都・兵庫・広島・滋賀・佐賀・宮崎、⑧河川:2.12.24、⑩海外:ISSG | 外来生物、便覧 | |
| 36 | 小笠原・南西諸島 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 旧要注意 | キク | ツルヒヨドリ(ツルギク、ミカニア・ミクランサ) | <i>Mikania micrantha</i> | | II, IV | | | | | | | | | | | | | | | 熱帯アメリカ原産、熱帯～亜熱帯 | 1984年に沖縄県うるま市の天願川河口付近で発見。本島中部一帯で繁殖し、西表島にも侵入した。周年にわたって開花する。 | 多年草、つる植物 | 畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。イネ、牧草、ゴム、チャなどのプランテーションで問題になる。日陰でも日当たりのよい所と同様に生育がよい。 | インドでは第二次大戦後に、飛行機の離着陸場のカモフラージュに利用され、侵入した。日本での栽培は未確認。 | | | ①要注意、②W100:1UCN、⑩海外:ISSG、⑪その他:横田委員 | 世雑 I、藤井委員、横田委員、写真図鑑 | |
| 37 | 小笠原・南西諸島 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | 旧要注意 | キク | アメリカハマグルマ(ミツバハマグルマ) | <i>Sphagnetocola trilobata</i> | 隆起珊瑚礁など海岸砂地や岩場、林縁 | II, IV | | | | | | | | | | | | | | | フロリダ南部～熱帯アメリカ原産 | 沖縄には1970年代初めに渡来した。香川、宮崎、琉球、小笠原に帰化。 | 長さ5m、多年草 | 農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育。日向を好むが耐陰性もある。日本では、南西諸島の隆起珊瑚礁で繁殖。畑地の雑草となっている。 | 法面等の被覆用やつり鉢に利用される。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島等で繁殖している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | | ①要注意、IUCN③村中・C、⑥専門家:砂浜5、⑦各県:小笠原・奄美、⑩海外:ISSG、⑪その他:藤井委員 | 便覧、写真図鑑、園芸事典、JF、外来生物 | |

重点対策外来種

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----------|---------|-----|--|--|--------|--|---|------|-----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|--|---|---|---|--|--|--------------------|
| 38 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | ハマミズナ | バウヤギク(エデュリス、莫邪菊) | <i>Carpobrotus edulis</i> | 海岸砂浜 | II, IV | | | | | | | | | | | | | | | 南アフリカのケープ地方が原産。ヨーロッパ、オーストラリア、合衆国西部等で侵略的となっている。 | 愛知県の渥美半島先端部の砂浜に一時かなり広がった。 | 1m、多肉の多年草 | 海岸や攪乱地にマット状に生育する。水はけの良い土壌と、日当たりが良い環境を好む。 | 浸食防止、観賞用、被覆植物として利用され食用や薬用にもされる。日本でも、流通、市販されている。 | 海外で侵略的な外来種とされており、海浜の生態系への影響が大きく、動物により種子が散布されることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ハギクソウやハマツボへの影響が懸念。カルボブロットス属は丈夫で生長が速い。鉢植えではなかなか着花しないが、春に地植えすると夏頃に咲く。土壌のpHや養分条件を変える。 | ⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG | JF、園芸事典、IPSW | |
| 39 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | モウセンゴケ | ナガエモウセンゴケ(ナガエノモウセンゴケ、ドロセラ・インターメディア)等の外来モウセンゴケ類 | <i>Drosera intermedia, Drosera spp.</i> | 湿地 | I, II, IV | | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ、ヨーロッパ原産 | 岡山県等で問題になっている。 | 15cm、多年草 | ミズゴケ類が育つような湿地に生育。 | 観賞用に利用されている。 | 在来種の遺伝的な攪乱を引き起こし、貴重な生態系である湿地への影響も大きい。日本と同じ気候帯に分布しているため、露地栽培でよく育つ。モウセンゴケ属は多数の種子を散布し、栄養繁殖も盛ん。 | 重要湿地への移植が問題。在来種のモウセンゴケ <i>D. rotundifolia</i> との自然交雑が確認されている。本種の除去作業は、湿地生態系への影響も大きい。日本と同じ気候帯に分布しているため、露地栽培でよく育つ。モウセンゴケ属は多数の種子を散布し、栄養繁殖も盛ん。 | ⑤対策:H20<4、H23:3、⑥専門家:湿地21、⑦各県:千葉、⑩海外:岡山・愛媛 | 便覧、写真図鑑、園芸事典 |
| 40 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ① | | | マメ | ナガバアカシア | <i>Acacia longifolia</i> | | IV | | | | | | | | | | | | | | | | オーストラリア、タスマニア原産。ニュージーランド、南アフリカ、スペイン、ポルトガル、ブラジルで、侵略的。 | 本州(山口)で逸出。南房総で越冬。 | 8m、常緑小高木 | 温帯性。暖地では野外で越冬。窒素を固定。海岸部の山火事が起き易い場所に生育し、河川敷、低木林、草原、森林にもみられる。年間降水量550mm以上は必要。潮風に耐える。 | 観賞用や砂丘の安定化のために植栽される。いくつかの変種がある。苗木入手やや難。 | 海外で侵略的な外来種とされており、生態系を改変するおそれがあり、動物や水により種子が散布されること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 本種には、いくつかの変種がある。 | ⑩海外:ISSG | 便覧、有用、園芸事典、JF、熱帯花木 |
| 41 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ① | | | マメ | メラノキシロンアカシア(ブラックウッドアカシア) | <i>Acacia melanoxylon</i> | | IV | | | | | | | | | | | | | | | | オーストラリア原産。アフリカ、アジア、ヨーロッパ、南アフリカ、スペイン、アメリカ、アメリカ合衆国内に分布。 | 岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。斜面下部では、同時に植栽されたクスギやコナラなどを被隠してほぼ純林を形成している。 | 35m、常緑高木 | 農耕地、沿岸地帯、河口、自然林、植林地、草原、河原、攪乱地、低木林、市街地、湿地。常緑のアカシアの中では比較的低温に耐える。関東以西の沿岸部などの気温が低下しにくい場所では越冬できる。寒さにかなり耐える。東京でも越冬。 | 岡山県の王子ヶ岳では、山林火災の跡地に治山植栽された。暖地では、マツクイムシの被害跡地などの植栽に有望とされる。原産地では建築材として利用。 | 海外で侵略的な外来種とされており、動物や水により種子が散布され、日本で既に侵略的になりつつあること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ⑩海外:ISSG | 園芸事典、熱帯花木、岡山理科大学生物地球学部生物地球学部植物生態研究室(波田研) http://had0.big.ous.ac.jp/plants/dic/angiosperm/ae/dicotyledoneae/choripetales/leguminosae/melanoxylon/melanoxylon.htm | |
| 42 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | マメ | シュッコルピナス(ルピナス、タウハウチワマメ、ノボリフジ) | <i>Lupinus polyphyllus</i> | 自然草原 | II, IV | | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ、カナダ原産。ヨーロッパ、南オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。 | 渡来年代不明、北海道で逸出帰化。 | 1.5m、多年草 | 草原、林縁、森林、農耕地、攪乱地、荒地。 | 園芸植物として栽培。花色別の園芸品種がある。飼料や緑肥にもされる。 | 海外で侵略的な外来種とされており、日本では草原への影響が問題とされていること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原28、⑩海外:ISSG | 便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、IPSW | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | 特定外来/旧要注意 | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|-------------------------------------|----------------------------------|--------------|-------|-------|----|-------|----|----|---------|----|----|------|-----------|-------|--------|--|--|--|---|--|--|---|---|---|---------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | | | | | | | | | | | | | 永続 | 人体 |
| 43 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | アカバナ | アメリカミズキノシタ(ルドウィジア・レベンス) | <i>Ludwigia repens</i> | 池沼や湿地 | II、IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ◎ | - | 北アメリカ〜メキシコ〜西インド諸島原産。 | 1970年頃渡来。神奈川、京都府(深泥池)で帰化。 | 多年草、水草 | 湖沼や水路等の水辺に生育。 | アクアリウム用の観賞植物として栽培。 | ヨーロッパやアメリカでは侵略的な外来種とされており、日本では湿地への影響が危惧されていることから、自然環境には、持ち込まない。 | ①要注意、③村中:B、⑤対策:H20<4、H23:1、⑥専門家:水生12、⑧河川:0.0.1 | 便覧、写真図鑑、GCW | |
| 44 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ① | | | ナス | ダイオウナスビ | <i>Solanum mauritianum</i> | 二次林 | IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | ○ | (○) | - | - | アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ等 | 静岡県南伊豆町で、分布を拡大中 | 10m、小高木 | 農耕地、沿岸、自然林、植林地、河岸、撈乱地、市街地に生育。国内では、谷沿いのモウソウチク林に生育。二次林内であるが、樹林内に広がり、種子繁殖している。 | 農業試験場で栽培されていた可能性がある。 | 全草が有毒だが、特に果実が人間にとって有毒。 | ⑩海外:ISSG、⑪その他:勝山委員 | 大西・勝山(2011)J. Jpn. Bot. 86:253-255. 勝山委員 | |
| 45 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | ゴマノハグサ | ハビコリハコベ(グロッシスティグマ) | <i>Glossostigma elatinooides</i> | 池沼や湿地 | II、IV | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | オーストラリアの北部、ニュージーランド、アフリカの一部に分布 | 2008年に愛知県豊川用水で確認。 | 1cm、水生の多年草 | 水生の絶滅危惧種への影響が危惧される。 | 観賞用に用いられる。 | シラタマホシクサのような希少種が生育する貴重な生態系である湿地への影響が危惧されていることから、自然環境には持ち込まない。 | ⑦各県:愛知 | 写真図鑑 | | |
| 46 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | タヌキモ | オオバナイトタヌキモ(ウトリクラリア・ギツバ) | <i>Utricularia gibba</i> | 湿地 | II、IV | ◎ | ○ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | ◎ | 東南アジア、オーストラリア、アフリカ、アメリカ大陸に分布 | 1930年代にアメリカから観賞魚に随伴して侵入、食虫植物マニアによる栽培から逸出、水草類の随伴種としても侵入、兵庫県で帰化。 | 浮遊性の一年草 | 愛知県では希少種のミカワタヌキモの生育地への持ち込みが危惧されている。 | 観賞用に市販、流通している。 | 海外で侵略的な外来種とされており、希少種のミカワタヌキモとの競合・駆逐等が危惧されていることから、自然環境には持ち込まない。 | ⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG | 便覧、写真図鑑、JF | | |
| 47 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | タヌキモ | エフクレタヌキモ | <i>Utricularia inflata</i> | 湿地 | II、IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ◎ | - | 北アメリカ東部原産 | 1990年に静岡県磐田市で野生化したものは、その後消失した。それ以前から兵庫県、大阪府でも野生化が確認。 | 多年生の水草 | 池や湿地に生育する。 | 観賞用に利用されている。タヌキモ属は、種名が不明なものも含めて、近縁種が多数栽培されている。 | 希少種のタヌキモ類や、貴重な生態系である湿地への影響が大きいことから、自然環境には持ち込まない。 | ⑥専門家:湿地8、⑪その他:環境省、角野委員 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、環境省、角野委員、角野 | | |
| 48 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①③ | | | オモダカ | ヒロハオモダカ(ジャイアントサジタリア) | <i>Sagittaria platyphylla</i> | 河川や湿地 | IV | (◎) | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (◎) | ○ | ◎ | 北アメリカ原産、太平洋諸島やヨーロッパに分布。 | 1998年大阪府枚方市で初めて採集。 | 1.5m、抽水性の多年草 | 河川、水路、湖沼、湿地に生育。 | 海外では観賞用に栽培される。日本でも近縁種のナガバオモダカS. gramineaとして、またはジャイアントサジタリアの名前で利用されている可能性がある。 | 海外で侵略的な外来種とされており、近縁種のナガバオモダカは既に日本で侵略的となっている。種子が水で散布されることから、自然水域には持ち込まない。 | 日本では当初はナガバオモダカS. gramineaと考えられていた。別学名S. graminea var. platyphylla水路の水の流れを悪くし、洪水の危険性を増加させる。 | ⑩海外:ISSG | 志賀隆、大阪市立自然史博物館定川水系調査グループ植物班、水草研究家誌、Vol.93、pp.13-22(2010)、水草II | |
| 49 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①③ | | | トチカガミ | クロモドキ(ラゴシフオン・マヨール) | <i>Lagarosiphon major</i> | 湖沼や河川 | IV | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | - | 南アフリカ原産。ヨーロッパに定着。ニュージーランドやマスカリン諸島で侵略的。 | 近年、岡山県で野生化が確認。 | 沈水性の多年草 | 湖沼、河川、水路、湿地。 | 観賞用に販売、利用される。海外では飼料としての利用も検討されている。 | 海外で侵略的な外来種とされており、生態系や水利用に悪影響を及ぼしている。植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域には持ち込まない。 | Elodea crispataと呼ばれ、アナカリスと同属とされている。弱アルカリ性、強光を好むので、(水槽内での育成は)むしろ難しい点がある。茎から分枝した新葉を摘み取り育てると、適応性があり、うまく育つ。 | ⑤対策:H23:1、⑩海外:ISSG | 水草III、片山久・狩山俊悟(2012)しぜんしくらき80号、IPSW、角野 | |
| 50 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | トチカガミ | アマソントチカガミ(アマソフログビット、リムノビウム・ラエビガータム) | <i>Limnobium laevigatum</i> | 温暖地の池沼や湿地 | II、IV | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | 熱帯アメリカ(アルゼンチン)原産 | 1973年以前に渡来、大阪、琉球で逸出。 | 多年性の浮葉植物 | 繁殖は種子と繁殖茎で行う。 | 観賞用に販売、利用される。 | 種子や植物体の断片により分布が拡大すること等から、自然水域には持ち込まない。 | 和歌山新宮市の国指定天然記念物「浮島の森」で駆除が行われた。 | ⑤対策:H23:2 | 便覧、水草III | |
| 51 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | リュウゼツラン | アツバキミガヨラン | <i>Yucca gloriosa</i> | 海岸砂浜 | II、IV | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | - | ○ | - | 北アメリカの海岸地域原産。オーストラリアやヨーロッパ等で帰化。ニュージーランドでは環境雑草とされる。 | 園芸植物として1961年以前に渡来。千葉県、静岡県で逸出。愛知県ではハギクソウなどの希少種の群落近くに侵入している。三重県では天然記念物の和具大島で繁殖し、駆除の対象となっている。 | 2.5m、低木 | 海岸の砂浜に侵入し、大きな株となるため、在来の海岸植物の生育を妨げている。寒さには強いので、中部以南であれば戸外で越冬する。日本には花粉を運ぶ昆虫が少ないので、自然環境下では結実しないと言われている。株や地下茎が海流によって流され、分布が広がると考えられている。 | 日本では本属の中で、庭園樹や岩石園に最も多く植栽されている。 | 愛知の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある外来種として指定されている。かつてはユリ科に含められていた。葉先に鋭い刺がある。地際の小株を分けて増やす。 | ⑤対策:H20<4、⑥専門家:砂浜5、⑦各県:千葉・愛知 | 便覧、観賞、有用、園芸書典、GCW、半田(日本緑化工学会31(4)450) | | |
| 52 | 定着初期/分布限定 | 重点対策外来種 | ①③ | | | カヤツリグサ | アサハタヤガミスゲ | <i>Carex longii</i> | 湿地 | IV | ◎ | - | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | - | ○ | 北アメリカ原産。 | 1968年に神奈川県横須賀市の米軍基地内、2003年に藤沢市で採集。静岡市の麻機遊水地で定着し、急増中。 | 0.6m、多年草 | 砂質の湿地、湿草地、休耕田やその周辺の溝等、排水の悪い土地に生育。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | - | ⑪その他:勝山委員 | 勝山(2013) | | |
| 53 | 分布拡大期〜まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | (旧要注意) | サボテン | ウチワサボテン属 | <i>Opuntia</i> spp. | 海岸砂浜や河原 | II、IV | ◎ | × | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | - | ○ | - | ○ | - | アメリカ大陸の広範囲に250種。 | 長野県にヒラウチワ(単刺同属) vulgaris、沖縄県北大東島にセンニンサボテンO. stricta、香川県などに種小名不明のものが帰化。 | 数mの木になるものもある | 種類によっては耐寒性があり、暖地では野外で生育する。在来の海岸植物を圧迫。愛知県では沿岸域における移入種として、ウチワサボテン属が条例の規制の対象となっている。 | 海外では産業的に重要な種が多く、果実、若い莖節を食用の目的で栽培されるほか、家畜の飼料として、庭の植え込みに利用する。日本でも、単刺同属O. vulgarisや赤烏帽子O. rufidaのように漢字の園芸名がつけられて栽培されるものが多数ある。 | 海外で侵略的な外来種とされており、鳥により種子が散布される。日本では、剪定した枝や不要になった株が野外に投棄されて逸出したと考えられる。海岸植物や人への悪影響が懸念されることから、生物多様性の保全上重要な、特に海浜や河川環境に侵入することのないよう、植物体や果実を放置しない等の適切な管理が必要である。 | サボテン科の中で最大の属。種類が多く同定困難。センニンサボテンが要注意でIUCNワースト100、ISSGはO. cochenillifera、O. ficus-indica、O. monacantha。 | ①要注意、②W100:(IUCN)、⑤対策:H20<4、⑦各県:愛知、⑩海外:ISSG | 観賞、便覧、園芸書典、JF |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更があった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | 特定外来/旧要注意 | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | | |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|-----------|------|---------------------|---|--------------------|---------|-------|-------|---------|----|----|------|-----------|-------|----|----|---|------|--------|--------|----------------------------------|--|---|--|---|---|--|---|---|---|--|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | | | 定着可能性 | 生態系被害 | 分布拡大・拡散 | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | | |
| 54 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | 旧要注意 | スイレン | ハゴロモモ(フサジュンサイ、カモンバ) | <i>Cabomba caroliniana</i> | ため池、湖沼 | IV | | | | ◎ | × | — | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | — | ○ | ○ | — | 北アメリカ東南部原産。 | 1929年に導入、1950年に野生化が確認。本州、四国、九州。 | 20m、沈水生の多年草 | 湖沼、ため池、河川、水路などに生育。水質がやや汚濁した環境にも生育する。 | 観賞用水草として利用。 | 海外で侵略的な外来種とされており、断片の水散布により分布が拡大し、水生の希少種への影響も危惧されることから、自然水域には持ち込まない。 | 愛知県では、ガガバやヒンなど、在来水草を圧迫している。ハゴロモモ(ジュンサイ)科 CABOMBACEAEに分類されるようになった。 | ①要注意、③村中：C、④FAO:8、⑥専門家：水生26、⑦各県：愛知・愛媛、⑧4.9.12、⑩海外：ISSG | 便覧、写真図鑑、帰化植物、外来生物、Ylist | |
| 55 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | 旧要注意 | スイレン | 園芸スイレン | <i>Nymphaea cv.</i> | ため池、湖沼 | IV | | | | ◎ | ○ | — | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | — | (◎) | ◎ | — | 約40種類が熱帯から温帯にかけて広く分布する。 | 明治時代末期から園芸植物として渡来した。北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布。各地で生育しているが、外来種との認識がうすく、逸出と植栽の境界が明確でない。 | 浮葉性の多年草 | 湖沼、水路、人里近くのため池などに多い。 | 観賞用に交配された多数の園芸品種が観賞用に池や温帯で利用される。熱帯性と耐寒性に大きく分けられる。日本のヒジツガと交配した品種も多い。種子や根茎はデンプンを多く含む。食用とされることもある。根茎は薬用にも利用される。 | 海外で様々な種類が侵略的な外来種とされており、日本でもしばしば旺盛に繁殖して水面を覆い、絶滅危惧種を含む水生生物へ大きな影響を及ぼすため、駆除が行われている。自然水域には、持ち込まない。 | 愛知県は在来種のヒジツガを除くスイレン属。名古屋市では耐寒性の外来スイレンの駆除が行われている。神奈川県相模原市の池でも駆除。海外では、ニオイヒジツガ <i>N. odorata</i> が侵略的とされている (ISSG)。ヨーロッパで <i>N. alba</i> が、スリナムで <i>N. Amazonum</i> が、ローデシアで <i>N. caerulea</i> が、パキスタンで <i>N. lotus</i> が、インドで <i>N. starata</i> が重要な雑草とされる。その他にも様々な種類が雑草化している。 | ⑤対策：H20<4、⑥専門家：水生31、⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG | 有用、便覧、園芸事典、GAWW、GCW、JF、http://www.bdn.agoya.jp/introduction/activities/water_lily.html/角野 | |
| 56 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③④ | | 旧要注意 | アブラナ | オランダガラシ(クレソン) | <i>Nasturtium officinale</i> | 池沼や溪流 | IV、V | | | | ◎ | × | — | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | — | ◎ | — | ヨーロッパ、中央アジア原産、南北アメリカ、オセアニアにみられる。 | 1870年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。 | 0.6m、抽水性の多年草 | 水田、河川、溝、水路、流れのゆるい沼、湖畔から山間の渓流の水辺から水中に群生する。白当たりの良いところを好む。低水温で生育しやすい。 | 食用に広く利用される。薬用にも利用される。種子を薬用にする。 | 河川で分布を拡大するとともに、湧水のあるような清冽な水域にも生育する。生態系に悪影響を及ぼす希少種等と競合し、駆逐するおそれがある。農業被害も生じることから、こうした影響を及ぼす水域には持ち込まない。 | 農業用排水路の水流通を妨げる雑草等としても駆除される。世界的に温帯地域の水路で問題になる雑草である。産部から容易にひげ根を発生して繁殖する。種子の発芽力は4～5年持続する。群馬県では絶滅危惧種のカワフツシヤと生育場所が重なることが確認された。 | ①要注意、③村中：B、④FAO:9、⑤対策：H23:1、⑥専門家：水生37、⑦各県：北海道・埼玉・愛知・愛媛・宮崎、⑧河川：40.75.86 | 世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、園芸辞典 | | |
| 57 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | マメ | モリンマアシア | <i>Acacia mearmsii</i> | 蛇紋岩地や草原 | II、IV | | | | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | — | ◎ | ○ | — | オーストラリア南東部タスマニア原産、ヨーロッパ等に分布。アフリカ南部で侵略的。 | 本州(愛知、大阪、兵庫、広島、山口)、四国(愛媛県)で逸出。北海道、本州、四国、九州、琉球で栽培、逸出。 | 20m、常緑高木 | 草原、水辺、攪乱地、市街地、水路に生育する。乾燥した温帯地域から湿潤な熱帯地域まで生育する。愛知県名古屋市の笠山では、蛇紋岩地に侵入し草地植生が消滅。大阪でも越冬するがやや弱い。 | 観賞用に栽培される。日本の暖地で緑化樹、肥料樹、樹皮に含まれるタンニン等の採取のために導入。 | 海外で侵略的な外来種とされており、鳥やげっ歯類により種子が散布され、窒素固定により環境を改変し、アレロパシー作用もある。国内でも貴重な生態系の消失が報告されていることから、こうした環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 従来、園芸的に <i>A. mollissima</i> という名前で栽培されてきたものは、本種であることが多い。 | ①要注意、②W100:IUCN、⑦各県：愛知、⑩海外：ISSG | 便覧、有用、園芸事典、熱帯花木、IPSW、JF | |
| 58 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②④ | | 旧要注意 | マメ | イタチハギ(クロバナエンジュ) | <i>Amorpha fruticosa</i> | 河川敷、海岸、亜高山帯、リンゴ園周辺 | II、IV、V | | | | ◎ | × | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | — | ◎ | ◎ | — | 北アメリカ原産。 | 1912年に渡来。1940年代以降に本格的に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球に分布。 | 4m、落葉低木 | 荒地、路傍、崩壊地、土手、河原、海岸、自然度の高い亜高山帯にも定着生育。 | 庭園樹、砂防用、生垣用に導入。蜜・花粉にも多いことから、蜂が好んで訪花する。また、養蜂業においては蜜源として利用されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地や河川敷の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。河川により種子が拡散される場所には、持ち込まない。 | H24に改正された養蜂振興法第六条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを導入してはならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護、増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。 | ①要注意、②W100:日本、③村中：B、④FAO:7、⑥専門家：河原19、⑦各県：青森・埼玉・京都・兵庫・広島・愛知・愛媛・佐賀、⑧河川：37.78.93、⑨三省：国都・国道 | 便覧、写真図鑑、農林水産省・林野庁、外来生物 | |
| 59 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | 旧要注意 | ニガキ | ニワウルシ(シンジュ) | <i>Ailanthus altissima</i> | 河川敷、二次林 | IV | | | | ◎ | × | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | — | ○ | ○ | — | 中国の北～中部原産、ヨーロッパ、南北アメリカ、オーストラリア。 | 1880年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。 | 10～25m、落葉高木 | 路面隙間、舗道の割れ目、河川敷、荒地、土手、丘陵の林縁、耕作放棄地。日当たりの良いところを好む。 | 庭木、公園樹、街路樹として栽培。群馬県では、第二次世界大戦前までエリサンという輸入蚕の飼料として利用されていた。高温、乾燥、寒気、公害に強く、寒冷地や煙害の強い工場地帯での利用が多い。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で密林を形成して、分布を拡大するとともに、雑木林への侵入も危惧されている。自然環境には、持ち込まない。 | 根萌芽により密林の個体群を形成し、水流阻害、洪水誘発を起こす危険性がある。雌雄異株、生長が速い。種子は風や水により散布される。横に伸びる根から出芽する根萌芽で増殖する。ウルシ科ではないので、触れてもかぶれることはない。 | ③村中：C、⑥専門家：雑木13、⑦各県：埼玉・広島・群馬県、⑧河川：37.68.70、⑩海外：ISSG | 便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸事典、農部 | |
| 60 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | アカバナ | コマツヨイグサ | <i>Oenothera laciniata</i> | 海岸砂浜 | II、IV | | | | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | — | — | — | — | 北アメリカ東部原産、温帯～亜熱帯 | 1910年に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原で帰化。 | 0.5m、1～多年草 | 道端、荒地、市街地、畑地、樹園地、海岸や河原などの砂地。鳥取砂丘で問題になっている。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | — | ①要注意、③村中：B、⑥専門家：砂浜31、⑦各県：愛知、⑧河川：52.84.89、⑩その他：藤井委員 | 便覧、帰化植物、外来生物 | | | |
| 61 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | 旧要注意 | セリ | ウチワゼニクサ(タテバチドメグサ) | <i>Hydrocotyle verticillata var. triradiata</i> | 池沼や湿地 | IV | | | | ◎ | — | — | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | — | — | ○ | — | 北アメリカ原産。南北アメリカ、オーストラリア、アフリカに帰化。 | 1960年頃に渡来。千葉、神奈川県、兵庫県、琉球などで帰化。 | 水生の多年草 | やや湿った土地や水中に群生する。 | 観賞用に栽培される。ピオトープに導入されている可能性がある。 | 日本では湿地への影響が懸念されており、水散布により分布が拡大する可能性が高いことから、自然水域には、持ち込まない。 | 1件はウチワゼニクサとなっていた。USDAでは <i>H. prolifera</i> の別学名とされている。 | ⑤対策：H23:2、⑦各県：愛知 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、USDA | |
| 62 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①② | | 旧要注意 | モクセイ | トウネズミモチ | <i>Ligustrum lucidum</i> | 暖地の河川敷、二次林、湿地 | II、IV | | | | ◎ | — | — | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | — | — | ◎ | — | 中国中南部原産。オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ、アメリカ合衆国などで、侵略的となっている。 | 明治初年に渡来。関東～九州で逸出。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出。 | 10m、常緑高木 | 農耕地、沿岸地域、自然林、河川、攪乱地、湿地に生育。乾燥した場所から湿った場所に生える。日本では、近畿地方では河川敷に樹林が形成されるなど、河川で急速に分布を拡大。里山二次林などに侵入。 | 大気汚染に強く、耐潮性、耐陰性があり、移植が容易で生長が早いので、街路樹や公園樹としてよく植栽される。花が少なくなった梅雨前後に咲くことから、養蜂業においては初夏の有力な蜜源として利用されている。また、生産される蜂蜜も高品質である。干した果実が漢方薬で利用される。中国ではろうそくの原料となるイボタロウムシ培養樹として広く利用される。 | 海外で侵略的な外来種とされている。日本でも大量に熟す果実が鳥により散布されて河川等に広く逸出し、雑木林や極相林への侵入も危惧されている。防除対策が実施されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。 | 愛知の条例では、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種として指定されている。H24に改正された養蜂振興法第六条では、「蜜源植物を植栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを導入してはならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護、増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。 | ①要注意、③村中：C、⑤対策：H20<4、H23:1、⑥専門家：雑木34、極相21、⑦各県：愛知・兵庫・愛媛、⑧河川：5.30.46、⑩海外：ISSG | 便覧、写真図鑑、農林水産省、JF、有用、園芸事典、橋本ら(2003、2005) | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|---------|---------------------------------|---|---------------|-------|------------|-------|-------|------|--|---------|--|--|--|------|--------|--------|----|---|---|--------------|---|--|---|---|--|---|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | | 特定外来種/旧要注意 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 定着可能性 | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | | 重要地域 | | | | | | | | | | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | |
| 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 63 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | キョウチクトウ | ツルニチニチソウ | <i>Vinca major</i> | 二次林林床、草原、海岸砂浜 | IV | | | | | | | | | | | | | | 南ヨーロッパ原産、アフリカ南部、南アメリカ、大西洋諸島に分布、オーストラリア、ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。 | 明治時代に渡来、北海道、本州九州、四国、琉球。 | 長さ2m、つる性の多年草 | 観賞用に栽培されたものがしばしば逸出し、人家付近から杉林の林床まで、様々な場所に生育。積雪地帯での生育も旺盛で、半日蔭でも良く育つ。 | 園芸植物として渡来。様々な園芸品種が観賞用に利用される。全国的なバーブラントとしての利用度も高い。 | 花が綺麗なことから、野生状態でも容認されることが多い。しかし海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布拡大傾向にあり、草原の植物への影響も懸念されている。さらに耐陰性があることから、林床でも繁茂するので、在来植物への影響は大きい。生物多様性の保全上重要な地域だけでなく林縁や草原に接する環境には、持ち込まない。 | 種子はあまりつらくない。 | ⑥専門家: 草原27、⑦各県: 愛媛、⑧河川: 13.26.50、⑩海外: ISSG | 便覧、写真図鑑、有用、帰化植物、園芸事典、JF、IPSW |
| 64 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | ヒルガオ | 外来ノアサガオ類 | <i>Ipomoea</i> spp. (<i>Pharbitis</i> spp.) | 海岸や林縁 | IV | | | | | | | | | | | | | | アサガオ類は、熱帯アメリカや熱帯アジアに分布する。ノアサガオはヨーロッパ南部、アフリカ南部、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的となっている。 | ・アメリカアサガオ I. <i>hederacea</i> (<i>P. hederacea</i>) は江戸時代末期(1882年頃) 渡来。現在のは輸入穀物に混ざって入ったものと考えられる。北海道、本州、四国、九州、琉球。 ・マルバアサガオ I. <i>hederacea</i> var. <i>integriscula</i> は北アメリカ原産、1971年以前に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 ・マルバアサガオ I. <i>purpurea</i> (<i>P. purpurea</i>) は江戸時代に渡来、本州以南。 ・ノアサガオ I. <i>indical</i> は紀伊半島以南に分布するが、園芸品種が各地で逸出(外来系統のノアサガオはオオバアメリカアサガオ I. <i>learii</i> として区別する見解がある)。 | 十数m、つる性の一年草 | ・アメリカアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育する。土壌環境に対する適応性が大きく耐陰性もあり、海外では畑地雑草となっている。 ・マルバアサガオは畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育し、世界的な畑地雑草となっている。耐陰性が強いものも多く、各地で栽培されたものが逸出している。 ・ノアサガオは、畑地、樹園地、牧草地、荒地などに生育し、畑地雑草となっている。 ・オオバアメリカアサガオは海岸や人里近くの道端、林縁などに生える。 | イリモテアサガオ、オーシャンブルー、宿根アサガオ、クリスタルブルー、琉球アサガオなどと呼ばれるノアサガオの外来系統の園芸品種が盛んに栽培され、逸出している。 1975年に作出されたアサガオとマルバアサガオの交雑品種のヨウジロアサガオ <i>Ipomoea nil</i> x <i>I. purpurea</i> など、様々な園芸品種が流通、利用されている。 垂直面緑化(グリーンカーテン)の有望種とされる。 | つる植物なので他の植物を覆い尽くして生長し、種子で繁殖するもの、栄養繁殖するもの、強健で耐寒性があるもの等を含む、そのため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入させることのないよう、管理の放棄や苗の投棄を行わない配慮が必要である。 | ・アサガオ属 <i>Pharbitis</i> は、ヒルガオ属 <i>Ipomoea</i> に含める文献が多いので、ここではアサガオ類とした。 ・オオバアメリカアサガオはノアサガオの外来系統を区別したもので、宮崎はオオバアメリカアサガオ I. <i>learii</i> 。 ・ソラノアサガオ I. <i>tricolor</i> をセイウアサガオまたはアメリカアサガオと呼ぶことがあるので混同しないよう注意が必要。 ・栄養繁殖系栽培品種はいずれも自家不和合性で種子ではできないが、葉柄近くから発根して根付く。 | ⑦各県: 愛媛・宮崎、⑧河川: 阿利川12.29.26、マルバアサガオ13.24.24 | 世継 I、便覧、写真図鑑、JF、園芸事典、帰化植物、IPSW |
| 65 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①② | 旧要注意 | クマツツク | シテヘンゲ(ランタナ) | <i>Lantana camara</i> | 暖地の海岸 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ南部～熱帯アメリカ原産。 | 江戸時代末期(1865年)に園芸植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で逸出、帰化。 | 3m、半つる性の低木 | 市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。 | コパノランタナ <i>L. montevidensis</i> との交雑等により、草丈や花の色が多様な園芸品種や、棘がない種類や結実しない種類が数多く作出されている。暖帯域では路地、温帯では温室の鉢植えや夏の花壇に使われている。果実は黒熟し、少し甘味があるので、海外では食用や香辛料に利用する。ブラジルでは葉を茶の増量材にした。中国では薬用に用いる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも野生化している。園芸品種の中には結実しない種類もあるため、温暖な地域では、こうした種類を用いる。 | 土壌中に窒素を蓄積。自家受粉も高受粉も行い、淡紅色系統のものが果実を良くつける。果実は鳥によって運ばれる。繁殖は挿木または実生による。棘がある。 | ①要注意、②W100、③UCN、④村中・C、⑤FAO、⑥各県: 愛媛、⑦各県: 愛知・愛媛・小笠原・奄美、⑩海外: ISSG | 世継 I、便覧、熱帯花木、外来生物、有用、JF |
| 66 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | アワゴケ | イケノミズハコベ | <i>Callitriche stagnalis</i> | 湧水河川、水路 | IV | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに帰化。 | 1996年渡来、福島、栃木、群馬、千葉、神奈川、山梨に帰化。ミズハコベを駆逐しながら急速に分布を拡大している可能性がある。 | 水辺の小型の多年草 | 水田、用水路、小規模の河川のほか、水際の湿地では陸生型となって生育する。関東北部のクレンソウ栽培地も多い。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 湿地性の在来植物に悪影響。在来種のミズハコベと混同されている場合が多い。 | ⑤対策: H20<4、⑦各県: 栃木・群馬、⑧河川: 0.0.1 | 便覧、帰化植物、写真図鑑、GCW、角野 | |
| 67 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | フジツツキ | フサフジツツキ(ニシキフジツツキ、チチフジツツキ、ブッドレア) | <i>Buddleja davidii</i> | 河原 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | 中国西部原産。合衆国西部に分布。ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドで侵略的。 | 園芸植物として渡来するが、渡来年代不明。北海道、本州、九州で逸出、帰化。兵庫県六甲山では沢沿い、堰堤の堆積地、林縁、造成地などの明るく開けた場所に群生している。長野県長谷村の三峰川支流の黒川や戸台川河川敷で、広範囲で繁殖を続け、アシ原やヤナギを駆逐している。 | 2m、半常緑低木 | 自然林、河原、崩壊地、草原、攪乱地、市街地、水路、湿地に生育。排水の良い向陽地を好み、寒さに強い。路面間雑草の性質が強く、舗道の割れ目やコンクリートブロックの間でも生長。山地の崩壊地や道路法面を優占群落を形成し、分布を拡大している。 | 多数の園芸品種があり、日本でブッドレアとして観賞用に栽培される。切り花にもされる。中国では薬用にされる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、草原を森林化する等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 繁殖は種子によるが、挿木でもできる。洪水で流され易く、川岸が浸食しやすい。ニュージーランドでは林業被害を引き起こしている。 | ③村中・C、⑦各県: 兵庫、⑧河川: 0.6.6、⑩海外: ISSG | 便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、IPSW、大窪・岡(2005)、伊藤ら(2001)、 http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/sp/184/index.html |
| 68 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | 旧要注意 | キク | オオバタクサ(クモドキ) | <i>Ambrosia trifida</i> | 湿地や河原 | IV | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 1952年渡来、北海道～九州、琉球で帰化。 | 1～6m、一年草 | 畑地、牧草地、空地、堤防、鉄道線路沿い、河原など、やや湿り気のある場所に大きな群落を作る。 | 花粉対策用にタクサ茶が販売されている。種子や苗の流通、市販や栽培に関する情報は得られなかった。 | 埼玉ではヨシやスゲ類など湿性草原の植物を駆逐。愛知県でも低湿地の植物への影響が懸念。飼料穀物や豆類に混入して侵入。 | ①要注意、②W100: 日本、③村中・A、④FAO B、⑤対策: H20.4、H23.5、⑥専門家: 草原48、⑦各県: 埼玉・千葉・愛知・京都・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎、⑧河川: 4.17.86 | 世継 I、花粉、便覧、写真図鑑、外来生物 | |
| 69 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | 旧要注意 | キク | セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ) | <i>Solidago altissima</i> | 湿原・湿地 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 観賞用植物として明治時代(1897年頃)に渡来、大正末期から野生化。戦後、急速に分布拡大。北海道、本州、四国、九州、琉球、小笠原で帰化。 | 2.5m、多年草 | 路傍、空地、河川敷、土手、原野、休耕地に大群落を作る。造成によって増悪された環境が増えると考えられる。 | 現在は一般的に栽培される種類ではないが、流通はある。 | 湿原、草原、河川敷、奄美地域など、生物多様性の保全上重要な環境や地域、または農業上問題となる場所では、対策の対象となっている。戦前は、近縁種のカナダアキノキリンソウ <i>S. canadensis</i> と混同された。 | 花粉の飛散量は少なく、花粉症の影響は小さいとの説あり。湿原や草原に侵入して駆除の対象となっている。戦前は、近縁種のカナダアキノキリンソウ <i>S. canadensis</i> と混同された。 | ①要注意、②W100: 日本③村中・B、⑤対策: H20<4、⑦各県: 北海道・青森・栃木・埼玉・愛知・京都・鳥取・広島・滋賀・愛媛・宮崎・奄美、⑧河川: 71.110.111 | 雑草、花粉、便覧、写真図鑑、帰化植物、JF、園芸事典 |
| 70 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | 旧要注意 | キク | オオアワダチソウ | <i>Solidago gigantea</i> var. <i>leiophylla</i> | 湿原・湿地 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 明治中期(1880年頃)渡来、北海道～九州で逸出、帰化。 | 1.2m、多年草 | 原野、道端や、河川敷に発生。北海道ではセイタカアワダチソウより多い。 | 園芸植物として渡来。現在の本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 愛知県では今のところ自然生態系への影響は深刻ではない。 <i>Solidago gigantea</i> ssp. <i>serotina</i> 。北海道では、知床国立公園、ウナイ湖、礼文島等で駆除が行われている。 | ①要注意、②W100: 日本③村中・B、⑤対策: H20<4、⑦各県: 北海道・愛知、⑧河川: 28.42.47 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、Ylist | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|-----------|-------|--|---------|--------------|------|-------|----|----|----|---------|----|----|----|------|-----------|-------|----|------|--|---|------------------|--|--|---|---|--|---------------------------------|-----|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 生態系被害 | | | | 分布拡大・拡散 | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 競争 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | | | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | |
| 71 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | キク | 外来性タンポポ種群 <i>Taraxacum officinale</i> , <i>T. spp.</i> | 自然草原や高山 | I、II、IV | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産、世界中に帰化 | セイヨウタンポポ <i>T. officinale</i> は1940年に北海道に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原で帰化。 | 0.4m、多年草 | 市街地、道端、空地、畑地、牧草地、芝地、樹園地、川岸、山地、高山の駐車場まで生育する。 | セイヨウタンポポやカントウタンポポが流通している。野菜として利用される。 | 海外で侵略的な外来種とされ、国内では草原や高山等にも侵入し、在来のタンポポとの交雑が大きな問題とされている。こうした問題を引き起こす可能性がある場所には、持ち込まない。 | | ①要注意、②W100:日本③村中:A、④FAO:6、⑤対策:H20:14、⑥専門家:水原45・高山23・交雑42、⑦各県:北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・滋賀・愛媛、⑧河川:66,105,115、⑩海外:ISSG | 雑草、花粉、便糞、写真図鑑、帰化植物、外来生物、JF、園芸辞典 | |
| 72 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | オモダカ | ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア) <i>Sagittaria weatheriana</i> | 湿地や池沼 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産、世界各地で栽培 | 1975年頃に渡来。千葉、神奈川県、東京、京都、和歌山、岡山で帰化。 | 0.6m、抽水性の多年草 | 湖沼、ため池、水路、河川に生育。天然記念物の京都の深泥池で繁茂。雌雄異株で日本には雌株のみ | ジャイアント・サジタリアの名でアクアリウムで栽培。 | 国の天然記念物の深泥池で繁茂するなど、水辺に生育する希少種と競合し、駆逐すること等から、自然水域には持ち込まない。 | 2010年に <i>S. graminea</i> の学名から変更された。 | ①要注意、③村中:B、④FAO:9、⑤対策:H20:4、⑥専門家:水生19、⑦各県:愛知、⑧河川:0.1.1 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、角野 | |
| 73 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | トチカガミ | オオカナダモ(アナカリス) <i>Egeria densa</i> | 池沼 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 南アメリカ原産、温帯 | 大正時代に渡来、本州～九州、琉球で帰化。京都の深泥池で繁茂。 | 多年草、沈水植物 | 湖沼、河川に生育する。日当たりの良い、浅い、停滞水域を好む。 | 観賞用に販売、利用される。魚の餌、植物生理の実験材料に利用。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域には持ち込まない。 | 日本にあるのは雌株のみで、種子繁殖はしていない。 | ①要注意、②W100:日本③村中:A④FAO:9、⑤対策:H20:4、H23:1、⑥専門家:水生41、⑦各県:埼玉・愛知・兵庫・鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎、⑧河川:30,60,70、⑩海外:ISSG | 世雑Ⅲ、便覧、外来生物、JF | |
| 74 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | トチカガミ | コカナダモ <i>Eloдея nuttallii</i> | 池沼や溪流 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | アメリカ北東部原産、温帯 | 昭和の初めに入り、本州、四国で帰化。尾瀬沼で繁茂 | 多年草、沈水植物 | 湖沼、河川、池、溝、水路に生育する。日当たりの良い、流水～停滞水域、浅水を好む。 | 魚の餌、植物生理の実験材料に利用。観賞用の水草として利用されることがある。 | 河川で分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、自然水域には持ち込まない。 | 日本にあるのは雌株のみで、種子繁殖はしていない。 | ①要注意、②W100:日本③村中:A④FAO:9、⑤対策:H23:1、⑥専門家:水生40、⑦各県:埼玉・⑧各県:愛知、鳥取・広島・滋賀・愛媛・佐賀、⑧河川:25,55,62 | 世雑Ⅲ、雑草、便覧、JF、園芸辞典、外来生物、世水Ⅲ | |
| 75 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | トチカガミ | 外来セキショウモ(オオセキショウモ(ジャイアントハリスネリア)、セイヨウセキショウモに類似した外来種) <i>Vallisneria gigantea</i> , <i>Vallisneria spp.</i> | 池沼や溪流 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | オオセキショウモ 栃木県佐野市、栃木・群馬県境の才川、滋賀県草津市、熊本県白水村に定着。セイヨウセキショウモに酷似した外来種:千葉県松戸市、愛知・岐阜県境の木曾三川下流域、岐阜県大垣市、三重県鈴鹿市、大阪府淀川水系、佐賀県佐賀市、鹿児島県東串良町での定着が確認されている。 | 多年生、常緑の沈水植物 | 湖沼、河川など日当たりの良い水域 | オオセキショウモ:アクアリウムプランツとして販売されている。セイヨウセキショウモに酷似した外来種:アクアリウムプランツとしてセイヨウセキショウモの呼称で販売されているが、セイヨウセキショウモとは異なる分類群である(早稲倉ほか、未発表)。 | 水辺に生育する希少種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、自然水域には、持ち込まない。 | 定着場所では両種とも一面の優占群落を形成し、侵略的な状況を呈している。長良川では少なくとも5km以上にわたって大繁茂し、冬季には大量の切れ葉が川岸に漂着する。千葉県松戸市坂川と佐賀県佐賀市での聞き取りによれば、「繁茂して侵略的との認識がなされている。常緑であるため、落葉性の在来種(セキショウモやコウガイモ)よりも繁殖力が高いと思われる。両分類群ともに国内での有性繁殖は確認されていない。この項の文章は藤井ほか(未発表)による。在来種はセキショウモ <i>V. nsatans</i> とコウガイモ <i>V. denseserrulata</i> 、セイヨウセキショウモ <i>V. spiralis</i> とハリスネリア・ナナ <i>V. nana</i> はISSGに掲載。 | ⑩海外:ISSG、⑪その他:藤井委員 | 水草Ⅲ、藤井・牧、未発表、早稲倉ほか、未発表、角野 | | |
| 76 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | ミズアオイ | ホテイアオイ(ウォーターヒヤシンス) <i>Eichhornia crassipes</i> | 池沼や湿地 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 熱帯アメリカ原産 | 明治年間(一説では江戸時代)に渡来。本州、四国、九州、琉球に分布。 | 0.8m、浮遊性の多年草 | 富栄養化の進んだ湖沼、ため池、河川、水路などの水面。 | 観賞用として渡来。ビオトープや水質浄化にも利用。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本の河川でも分布を拡大しており、水生生物への影響が懸念される。各地で問題のある外来植物とされ、駆除の対象となっている。茎葉の断片で繁殖することから、基本的には自然水域へ持ち込まないだけでなく、利用する場合には逸出しにくいよう適切に管理する。 | 種子ができない場所も多い。 | ①要注意、②W100:IUCN、日本③村中:A、④FAO:12、⑤対策:H20:6、H23:4、⑥専門家:水生38、⑦各県:千葉・愛知・兵庫・広島・滋賀・愛媛・佐賀・宮崎・奄美、⑧河川:22,34,51、⑩海外:ISSG | 雑草、便覧、帰化植物、外来生物、JF、園芸辞典 | |
| 77 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | アヤメ | キショウブ <i>Iris pseudacorus</i> | 池沼や湿地 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパからアジア原産、世界各地の水湿地で観賞用に栽培される。 | 1897(明治30)年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出帰化。 | 1.2m、多年草 | 湖沼、ため池、河川、水路、水田湿った畑地、林縁など周辺に植えられることが多い。様々な園芸品種がある。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適するとされる。 | 園芸植物として渡来。民家や公園に植えられる。花が綺麗なため水辺に植えられることが多い。様々な園芸品種がある。水湿地を好むが、やや乾燥にも強く、池畔に適するとされる。 | 花が美しいので水辺に植えられることが多いが、海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。近縁の絶滅危惧種のカキツバタ等の遺伝的攪乱や、これらを含む水辺や草原の在来植物との競合、駆逐が危惧されている。こうした影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。 | ①要注意、②W100:日本、③村中:B、④FAO:10、⑤対策:H23:2、⑥専門家:水生16・草原38、⑦各県:北海道・青森・埼玉・愛知・広島・佐賀、⑧河川:54,88,98、⑩海外:ISSG | 世雑Ⅲ、帰化植物、外来生物、園芸植物、JF | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示す。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|-----------|--------|------------------------------------|---|------------------|-------|-------|----|----|---------|----|----|------|-----------|----|-------|------|--|--------|--------|---|--|------------|---|---|---|---|--|-------------------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | | 永続 | 人体 | | 経済産業 | | | | | | | | | | | | |
| 78 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | | イグサ | コゴメイ | <i>Juncus</i> sp. | イグサなどが生育する河川敷や湿地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | ユーラシア産の <i>J. inflexus</i> に似るが別種。 | 1990年遼東。本州の一部で帰化。各地の河川敷に急速に分布を拡大。 | 1.5m、多年草 | 沿海地、河川敷、湿地に生える。 | 本種の利用状況に関しては不明であるが、イグサ属の植物は種小名が不明なものを含めて、複数種が流通、利用されている。近縁種のイグサは、畳表の材料にするために栽培されるほか、薬用にも利用する。 | 湿地に生育する在来種のイグサが消失するなど、水辺に生育する在来種と競合し、駆逐するおそれがあること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 近年、各地の水湿地で在来イグサが消失し、本種に置き換わっている。原因は不明だが、競合(繁殖干渉か)などの問題が懸念される。在来種のイグサ <i>J. effusus</i> var. <i>decipiens</i> は茎の髄が連続しているため区別できる。 | ⑧河川:0.0.6、⑩その他:藤井委員 | 便覧、帰化植物、藤井委員、JF |
| 79 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | 旧要注意 | ツクサ | ノハカタカラクサ(トキワツクサ、トラデスカンティア・フルミネンシス) | <i>Tradescantia fluminensis</i> | 二次林林床 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 南アメリカ原産、アジア、太平洋諸島に分布、ヨーロッパ南部、オーストラリア、北アメリカ南部で侵略的。 | 昭和初年に渡来。本州、四国、九州で逸出帰化。 | 多年草 | 石垣、崖地、路傍、林床などやや湿った日陰に生える。 | 園芸品種を含めて、観葉植物として利用。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも分布を拡大している。耐陰性があるため、雑木林や極稀林の林床や水辺への侵入が、確認または危惧されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ①要注意、⑥専門家: 雑木23・専相21、⑦各県: 千葉・愛知・広島・愛媛・宮崎、⑧河川:14.37.51、⑩海外:ISSG | 便覧、帰化植物、外来生物、有用、JF、園芸事典、IPSW | |
| 80 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | イネ | オオハマガヤ(アメリカハマニンニク、アメリカカイゴンソウ) | <i>Ammophila breviligulata</i> | 海岸砂浜 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産。 | 1955年頃から日本各地の飛砂防止に補植。1976年に静岡で野生化が確認。青森、秋田、山形、宮城、新潟、石川、千葉、鳥取に分布。 | 1m、多年草 | 沿岸地域に生育する。 | 北米では止処みに利用されている。北日本と日本海側を中心に、飛砂防止に補植。 | 近縁種が海外で侵略的となり、本種も根や株で分布を拡大し、生態系を改変するおそれがある。日本の海岸の生態系に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。 | 近縁種のビーチグラス <i>A. arenaria</i> は侵略的な植物にあげられている。海岸植物への影響が懸念。種子による繁殖は行わず、地下茎により栄養繁殖。 | ⑦各県: 千葉、⑧河川:0.2.2 | 便覧、帰化植物、ISSG、GW、USDA |
| 81 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | 旧要注意 | イネ | シナダレスズメガヤ(ワイピングラブグラス、セイタカカゼクサ) | <i>Eragrostis curvula</i> | 河原、海岸砂浜 | IV | | | | | | | | | | | | | | | アフリカ南部原産、温帯～熱帯 | 1959年に四国農業試験場に導入後、各地に導入。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 1.2m、多年草 | 牧草地、路傍、荒地、河原等に生育。日当たりの良い、砂質土壌を好む。 | 栽培用に品種改良され、世界的にはやせ地の飼料生産に利用されるが草質が良くないため、日本では牧草よりも砂防用に導入され、高速道路や宅地造成地の土のめ用に利用された。近年は生態系への影響を心配され、あまり利用されなくなった。 | 河原や砂丘に侵入して大株となり、在来植物と競合し、駆逐する。砂の堆積を促進することで、生態系の物理的な基盤を変化させる。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 愛知県ではススキのような大型の植物まで駆逐。河原に生育するカワフランギク(絶滅危惧Ⅱ類(VU))やカワランギク(準絶滅危惧(NT))への影響が危惧される。 | ①要注意、②W100:日本③村中・A、④FAO:8、⑤対策:H20<4、⑥専門家:河原46、⑦各県:埼玉・愛媛・佐賀・奄美、⑧河川:61.104.107、⑨三省:環・農・林・国都・国道 | 世雑Ⅲ、便覧、外来生物 |
| 82 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①④③ | | | イネ | チコスズメノヒエ | <i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i> | 湿地や池沼 | IV、V | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ南部原産。 | 1970年代に福岡筑後地方で確認。本州、四国、九州、琉球の一部。 | 多年草 | 湿地、水路、水田、湖沼、河川、ため池に生育。キシュウスズメノヒエと分布が重なるが、より水深の深いところに生育する。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | キシュウスズメノヒエの変種。防除困難な水田雑草。 | ③FAO:C、⑤対策:H20<4、H23.2、⑥専門家:水生21、⑧河川:7.9.23 | 雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅲ、角野 | |
| 83 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | カヤツリグサ | シュロガヤツリ(カラカサヤツリ) | <i>Cyperus alternifolius</i> | 暖地の池沼や湿地 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | マダガスカル原産、世界の熱帯に広く帰化 | 1937年以前に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原で帰化 | 1~2m、多年草 | 池、河川の岸辺、湿地に生える。古くから栽培されていたものが暖かい地方で逸出していたが、寒さにはかなり強く、最近では関東南部でも越冬し、野生化するようになった。 | パピルスに類似した美しい形をしているため、古くから温室で観賞用に栽培される。切り花にも利用される。マダガスカルではむしろ水たまりを編むのに利用される。小鉢栽培に適した園芸品種シュロガヤツリ(グランキリス) <i>C. alternifolius</i> 'Grancilic'も、流通、栽培される。水温は20~25℃にすれば旺盛に生育する。越冬温度は5℃くらい、とくに乾燥させなければ池に入れなくても良い。 | 小笠原では河床で株となり群落を形成。在来の湿地補生(シダなど)を駆逐し、流水路を狭め、水生生物(魚類、甲殻類、水棲昆虫、クモ、サナギ類)にも影響を与えている。自然水域には、持ち込まない。 | Ylistでは本学名は広義とし、 <i>C. alternifolius</i> ssp. <i>flabelliformis</i> を標準名としている。別学名 <i>C. alternifolius</i> var. <i>obtusangulus</i> <i>C. involutus</i> var. <i>C. alternifolius</i> var. <i>flabelliformis</i> 。増殖は株分けが普通であるが、実生もでき、挿木も可能である。 | ⑥専門家:水生8、⑦各県:小笠原、⑧河川:9.17.22 | 便覧、帰化植物、写真図鑑、有用、Ylist、園芸事典、角野 |
| 84 | 分布拡大期～まん延期 | 重点対策外来種 | ①③ | | 旧要注意 | カヤツリグサ | メリケンガヤツリ | <i>Cyperus eragrostis</i> | 湿地、河川敷 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 熱帯アメリカ原産、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアなど温帯～熱帯。 | 1959年に渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原。 | 1.0m、多年草 | 河川、畑、溝、湿地などに生育。日当たりが良く、土壌の湿った所を好む。湛水条件下での生育は良くない。土壌の種類は選ばない。水辺に急速に分布拡大している。水辺の裸地を好むが、強固な根茎を持っていて永続性が高く、植生遷移を急速に進めるおそれがある。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 保護対象の湿地への侵入の可能性もある。水湿地の微小植物にとっては大きな脅威となりうる。愛知県では自然度の高い場所に侵入することは少なく、在来植物への影響は限定的との記載。 | ①要注意、⑦各県:愛知、⑧河川:17.45.52 | 世雑Ⅲ、勝山委員、藤井委員、写真図鑑 | |
| 85 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | サンショウモ | オオサンショウモ | <i>Salvinia molesta</i> | 暖地の池沼 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産、オーストラリア、東南アジア、中央アメリカ等に広く帰化。 | 1950年ごろ遼東。大阪で帰化。沖縄では1970年中期に渡来。 | 浮遊性の水草 | 2006年、恩納村の農業用水ため池を覆い尽くしている状態が確認。温暖地の池沼や水路に生育。水温が高くと短期化で異常繁殖を繰り返す。 | 沖縄で、一部の愛好家により栽培。現在は観賞用に販売、利用されている。 | 海外で侵略的な外来種とされ、国内でも繁茂が確認されている。近縁種のサンショウモ <i>S. natans</i> (絶滅危惧Ⅱ類(VU))との競合、駆逐や、遺伝的攪乱が危惧される。水により胞子が散布されること等から、自然水域には持ち込まない。 | 別学名 <i>S. auriculata</i> 。熱帯では水田雑草となる。養魚場の雑草にもなる。近縁種のサンショウモ <i>S. natans</i> は絶滅危惧Ⅱ類(VU)。 | ①要注意、②W100:LUCN、④FAO:10、⑦各県:愛媛、⑩海外:ISSG | 便覧、写真図鑑、外来生物、世水Ⅰ、JF、世雑Ⅲ、角野 |
| 86 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | モクマオウ | トクサバモクマオウ(トキワギョリュウ) | <i>Casuarina equisetifolia</i> | | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | オーストラリア原産、アフリカ南部、北アメリカ南部、カリブ海で侵略的。 | 琉球には明治初期、小笠原には1879(明治12)年に導入され、野生化 | 20m、常緑高木 | 日当たりの良い砂地を好む。種子の生産量、発芽率が高い上に、放線菌と共生して痩せ地でも良く育つ。耐塩性や耐乾性がある。 | 砂防林、防風林、肥料木、街路樹、公園樹として植栽される。材は薪炭用に、樹皮のタンニンが薬用に、海外では染料に利用されている。日本では、地上戦で焦土となった沖縄の緑化植物として積極的に取り入れられた。緑化植物として早期緑化(崩壊地やり面等の緑化)の観点から非常に優れたことから、利用されている。 | 海外で侵略的とされ、小笠原諸島や奄美地域で問題とされている。生物多様性の保全上重要なこうした地域での利用は、可能な限り控える等の配慮が必要である。 | 落ち葉が林床に蓄積し、アレロパシー作用もある。奄美地域では、アジア産の農業地であるサンゴ砂にはびこり、野鳥の営巣地に破壊されたとされる。 | ⑤対策:H20<4、⑥専門家:海洋島29、⑦各県:小笠原・奄美、⑩海外:ISSG | 便覧、写真図鑑、IPSW、有用、林野庁 |
| 87 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①② | | | クワ | パンノキ | <i>Artocarpus altiiis</i> | シイ・カンシ林 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | ニューギニアからメラネシア原産。世界各地で栽培。台湾では侵略的。 | 石垣島の一部の自然林内に多数の実生が確認されている。おそらく栽培品から鳥散布で分布域を拡大したものである。 | 30m以上、常緑高木 | 世界各地の熱帯地域で栽培される。 | 栽培品種には種子がある二倍体と、種子のない三倍体がある。どちらも海外では食用にされる。観賞用にも栽培される。日本でも、市販、流通され、温室等で栽培される。 | 台湾では侵略的な外来種とされ、日本でも石垣島では野生化が確認され、西表島への影響も懸念されている。生物多様性の保全上重要な地域に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。 | 別学名 <i>A. Incisus</i> 、 <i>A. communis</i> 。石垣島や西表島のシイ・カンシ林には定着する可能性が極めて高く、定着してしまえば植生に多大な悪影響を与え、生物多様性の保全上重要な地域に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。 | ①その他:横田委員 | Ylist、有用、JF、園芸事典、日本造園学会 |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | |
|-----|----------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|----------------------------------|------------------------------|--------------|---------|-------|----|-----|----|-------|----|----|----|------|------|----|------|-----------|----|---|---|----------------|--|---|---|---|--|---------------------------------------|-------|--|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 定着可能性 | | | | 生態系被害 | | | | 重要地域 | | | | 特に問題となる被害 | | | | | | | | | | | 逸出・拡散 | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 重要地域 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着 | | | | | | | | | | 混入 | |
| 88 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | イラクサ | コゴメミズ(コメバコケミズ、ヒレア・ミクロフィラ) | <i>Pilea microphylla</i> | 陰湿な岩場 | II、IV | | | ◎ | - | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | (○) | ○ | ○ | 南アメリカ原産、ヨーロッパ、アメリカ、北アメリカ、ハワイ等の太平洋諸島、台湾等。 | 戦後、沖縄と鹿児島に渡来。1991年に東京、1998年に神奈川県で確認。本州と九州の一部、琉球で帰化。 | 0.2m、多汁性の一年草 | 低地の敷石、石垣の間、湿った岩やコンクリートの隙間に生える。沖縄では通年みられる。 | ビレア・ミクロフィラの名前で園芸用に流通、販売されている。 | 海外で環境雑草などとされ、日本でも南西諸島の水湿地で繁茂し、石灰岩露頭の陰湿環境に生育する微小植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 増殖は挿し木、種子によるが、挿し木で容易に発根するので、通常は挿し木が運ばれる。節節性の種では、株分けで容易に殖やせる。 | ①その他: 藤井委員 | 便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸事典、GCW | | |
| 89 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | スベリヒユ | ケツメクサ(ヒメマツバボタン、ケツメグサ) | <i>Portulaca pilosa</i> | 海岸の隆起サンゴ礁や岩礁 | II、IV | | | ◎ | - | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | - | - | 熱帯アメリカ原産、東南アジアなどに帰化。 | 1939年までに渡来、1954年に熊本で採集、本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島に分布。 | 0.3m、多肉質の一年草 | 乾燥した日当たりのよい道端、敷石の間、畑、砂地に生育。沖縄県では集落や耕作地に広く帰化しているだけでなく、海岸の隆起サンゴ礁や岩礁にも生える。 | 観賞用に栽培されるマツバボタンに比べて花が小さい。一般的には販売や栽培は行われていない。 | 海岸の岩礁は、固有種オキナワマツバボタンや今年7月に横田委員らが記載したアマミマツバボタンの生育環境と大きく異なるため、これらの種にとっては競合種となる。繁殖力が強く、水挿しで発根する。別学名 <i>Portulaca australis</i> 。 | ①その他: 横田委員 | 便覧、写真図鑑、横田委員、帰化植物、Ylist | | | |
| 90 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | ベンケイソウ | セイロンベンケイ(トウロウソウ、セイロンベンケイソウ、ハカラム) | <i>Bryophyllum pinnatum</i> | 海岸岩場や石灰岩地 | II、IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | マダガスカルやアフリカなどの熱帯に広く分布。 | 渡来年代は不明だが、沖縄にはかなり古い時代に渡来。宮崎、鹿児島、琉球、小笠原で逸出帰化。 | 1.2m、多年草、多肉植物 | 海浜地や山地の裸地や路傍、沖縄では人里近くの岩場～石灰岩地域の山頂まで侵入し繁茂。小笠原では岩場で群落形成、荒原植生を駆逐 | 観賞用に栽培される。薬用にも利用される。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島で繁茂して在来種と競合し、駆逐している。1枚の葉からでも繁殖できる植物であるため、温暖な地域では特に、自然環境に持ち込まない。 | ISSGでは <i>Kalanchoe pinnata</i> 、その他の別学名 <i>B. calycinum</i> 。葉を地上に置くだけで、葉脈の末端から不定芽を出して繁殖する。 | ⑦各県: 小笠原、⑩海外: ISSG | 便覧、帰化植物、写真図鑑、園芸、Ylist、有用、JF、園芸事典 | | |
| 91 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | マメ | ソウシジュ(タイワンアカシア) | <i>Acacia confusa</i> | | II、IV | | | (◎) | x | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ◎ | - | フィリピン原産、アジアや太平洋地域で栽培され逸出。ハワイや北アメリカ諸島等で侵略的となっている。 | 渡来年代不明、広島、琉球、小笠原諸島で野生化。 | 15m、常緑高木 | 温暖で湿潤な気候を好み、荒地や攪乱地に生育する。亜熱帯、熱帯では年中開花する。 | 九州南端以南で、荒地の造林や、耕地防風林を兼ねた緑肥木として導入。台湾では街路樹、造林用に植栽が多い。海外では薬用や食用にされ、材木も利用される。 | 海外で侵略的とされ、南西諸島や小笠原諸島で野生化している。生物多様性の保全上重要なこうした地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。 | ⑩海外: ISSG | 便覧、有用、樹木、熱帯花木、JF、園芸事典、琉球弧 | | | |
| 92 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | マメ | ギンネム(ギンゴウカン、タマザキセンナ) | <i>Leucaena leucocephala</i> | | II、IV | | | ◎ | x | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ◎ | - | 中央・南アメリカ～太平洋諸島原産。 | 小笠原には江戸時代末期に植樹の記録があり、明治時代初期以降に本格的に造林された。沖縄には明治時代末期以降にスリランカから導入された。 | 10m、常緑小高木 | 亜熱帯から熱帯の日当たりの良い道端や原野、林縁に生育。やせ地でも育つが、土の浅いところは樹高1～2mで止まる。小笠原諸島や沖縄では、植栽地から周辺の空地や道路沿いの攪乱地等に侵入し、放棄された畑や宅地等に急速に広がった。 | 緑化、緑肥、飼料、砂防、薪炭材、バルブ用材として利用。分布域と形態によりハイ型またはペルー型と呼ばれる低木型と、サルバルド型と呼ばれる高木型に分けられる。生長の早い中高木になる林業品種が育成されている。 | 海外で侵略的とされ、小笠原諸島や奄美地域で在来種との競合、駆逐が危惧されている。生物多様性の保全上重要なこうした地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。 | 小笠原諸島でギンネムが侵入した林は二次遷移が進まず、種の多様性が低くなった。父島、母島では返還時程の勢力はないが、新たな道路整備、農耕地放棄などで一部復活している。 | ①要注意、②W100: IUCN、③村中: B、④FAO: 11、⑤対策: H20<4、⑥専門家: 海洋島34、⑦各県: 小笠原・奄美、⑧三省: 国都・国連、⑩海外: ISSG | 便覧、有用、樹木、農林水産省、外来生物、園芸事典、JF | | |
| 93 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①② | | | ツリフネソウ | アフリカハウセンカ | <i>Impatiens walleriana</i> | 林床 | II、IV | | | ◎ | - | - | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ○ | - | 東アフリカ、モザンビーク原産、熱帯地域の島嶼に分布。 | 沖縄へは復帰後導入され、1980年頃から野生化が散見されるようになった。現在では広い範囲で雑草化しつつある。 | 0.7m、多年草 | 自然林、植林地、河原、荒地に生育。直射日光を避ける方が生育が良いが、最近の園芸品種は強光も耐える。20～25℃もあれば挿し芽で良く根付くので、繁殖はしやすい。 | 1964年にオランダで一代交配種がつくられ世界各地に広まった。日本での本格的な栽培は1970年代に入ってから。花色も豊富に改良され、様々な園芸品種が鉢植えや花壇に植えられる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも奄美地域で繁茂している場所がある。耐陰性があるので温暖な地域では林内に入り込む可能性もあることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 有用では <i>I. sultani</i> 。種子が熟すと、果皮が裂開して飛び散る。 | ⑦各県: 奄美、⑩海外: ISSG | 有用、園芸事典、写真図鑑、JF、Ylist | | |
| 94 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | 旧要注意 | フトモモ | テリハバシロウ(キバシロウ、キバシロウ、シマフトモモ) | <i>Psidium cattleianum</i> | 森林 | II、IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ○ | - | ブラジル原産、世界各地で栽培され、オーストラリア、合衆国南東部、インド洋諸島、ハワイ等で侵略的となっている。 | 風味が優れた品種であるキミノバシロウ <i>lucidum</i> が、1909(明治42)年に輸入され、小笠原で栽培されて野生化した。キミノバシロウの沖縄への渡来年代は不明だが、1940年代後半には栽培があったと推測される。母島のテリハバシロウは、昭和初期から栽培されている。 | 2.5m、常緑の小低木 | 農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、川岸、低木林、市街地、湿地に生育する。耐陰性がある。日本では父島の畑地や屋敷跡等に野生化している。 | 果実を生または加工して食用にするために栽培される。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも小笠原諸島では野生化している。島により種子が散布されること等から、小笠原諸島の生物多様性の保全上重要な地域へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ①要注意、IUCN、⑥専門家: 海洋島22、⑦各県: 小笠原、⑩海外: ISSG | 便覧、写真図鑑、Ylist、有用、外来生物、IPSW、JF | | | |
| 95 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | ヒルガオ | モミジハルガオ(タイワンアサガオ、モミジハルガオ) | <i>Ipomoea cairica</i> | | II、IV | | | ◎ | ○ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ○ | - | 熱帯アメリカ原産、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ等に分布。 | 1933年以前に渡来。栃木、熊本、宮崎、鹿児島、琉球、小笠原諸島(聖島)に帰化。奄美大島、徳之島、沖縄島では既にかなり広がっている。沖縄島北部の国有林にも定着し始めた。 | 数m、つる性の多年草 | 海岸砂丘、断崖、林縁、川岸に生育。つるが良く伸びて、性質強健のため、広い地域に帰化している。 | 園芸品種があり、花卉として栽培される。熱帯では飢饉時に食用にする。 | 海外で侵略的な外来種とされ、つる性の強健な植物であることから、温暖な地域では在来植物との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 奄美地域では、ソコベニルガオ <i>I. gracilis</i> など、鹿児島県RDBの近縁種が複数生育する。アメリカハマグルマと同様に非常に侵略的。塊根を持つ。周年開花性である。 | ⑦各県: 奄美、⑩海外: ISSG、⑪その他: 藤井委員、横田委員 | 便覧、写真図鑑、横田委員、Ylist、草本III、園芸事典、ISPW、JF | | |
| 96 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①② | | | クマツヅラ | ヒメワダレソウ(ヒメワダレ) | <i>Phylla canescens</i> | 河原や草原 | I、II、IV | | | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | (○) | ◎ | - | 南アメリカ(ペルー)原産。 | 昭和初年(1926年)に渡来。静岡、香川、小笠原、沖縄に帰化。 | 0.3m、小低木 | 牧草地、草地、水路、氾濫原、灌漑地域の低地に生育。非耐寒性。粗い土壌で乾燥気味に栽培する。 | 園芸植物として渡来。本種とともに、在来種のイワダレソウ <i>Phylla nodiflora</i> (<i>L. nodiflora</i>) またはその交雑品種 (<i>L. nodiflora</i> × <i>L. canescens</i>) が、クラビアの名前で、法面、畦畔、公園等の緑化に利用。 | 日本では影響は報告されていないが、海外で侵略的となっていることから、生物多様性の保全上重要な地域に特に海浜や河原等に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 別学名 <i>Lippia canescens</i> , <i>Lippia repens</i> 。1979年頃導入されたヒメワダレ (<i>P. incis</i>) (池原、1989) や、琉球列島で栽培されるヒメワダレソウ <i>P. nodiflora</i> cv. <i>Rosa</i> (初島・天野、1994) も本種と思われる。クラビアは種子をつけないため、植栽した場所以外には広がらないとされている。オーストラリア等の海外で、環境雑草等とされている。植物体の断片で繁殖するので、増殖は株分け、挿し芽で容易である。種子でも繁殖する。 | ⑦各県: 奄美、⑪その他: 藤井委員 | 便覧、園芸事典、池原(1989)、(初島・天野、1994)、GCW | | |
| 97 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | リュウゼツラン | アオリリュウゼツラン(リュウゼツラン) | <i>Agave americana</i> | 海岸岩場 | II、IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ○ | - | 合衆国西部～メキシコ原産、ヨーロッパ、アフリカ南部、オーストラリア、太平洋諸島に分布。ヨーロッパの南部と地中海諸島、アフリカ南部、大西洋諸島で侵略的。 | 1879(明治12)年に輸入。静岡、香川、小笠原、沖縄に帰化。 | 2.5m、他肉性の常緑多年草 | 小笠原では岩場で群落形成、荒原植生を駆逐。耐寒性が強く、関東以西では露地植えが可能である。 | 初めは繊維原料植物として導入されたが、後に導入されたサイザルアサ <i>A. sisalana</i> に比べて繊維質が弱いため栽培が中止された。近年は、様々な斑入り園芸品種が観賞用に栽培される。メキシコでは発酵酒の原料となる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも小笠原諸島では在来種を駆逐している。生物多様性の保全上重要な地域では、自然環境中へ拡散しないように利用する。 | 単にリュウゼツランというときは、葉に斑が入った栽培品種フクリンリュウゼツラン <i>Marginata</i> をさす。種子は風で散布される。植物体の断片で繁殖する。 | ⑦各県: 小笠原、⑩海外: ISSG | 便覧、観葉、園芸事典、JF、IPSW | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)
 【国外由来の外来種】

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | ※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 |
|-------------|-----------|-------------|--------------------|----|------------|--------|--|---|-------------------|-------|--------|-----------|-------|----|----|----|----|---------|----|----|------|----|------|-----------|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|
| | | | 対策優先度の要件※ | | 特定外来種/旧要注意 | | | | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 生態系被害 | | | | | 分布拡大・拡散 | | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | |
| | | | 生物 | 導入 | | | | | | | | | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | 経済産業 | 利用 | | | | | | | | | | | | |
| 98 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | イネ | モンツキガヤ(アイダガヤ、ナンゴクヒメアブラソスキ) | <i>Bothriochloa bladhii</i> | 海岸草原 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | オーストラリア産の植物で原記載されたが、熱帯アジアからオーストラリアに広く分布する。 | 2005年に沖縄県竹富町、2000年に東京都小笠原村で確認。小笠原の父島と兄島で分布を拡大。 | 0.6~1.0mの多年草 | 路傍、海浜等、直射日光が豊富に当たる立地で生育。水はけのよい土壌を好み、酸性、乾燥、貧栄養な土壌に生育する。 | 海外では、被覆植物として利用される。暖地では牧草に利用されることもあるが品質は高くない。北アメリカでは交雑品種もある。日本でのサッカラムの利用に関する情報は得られなかった。 | 海外では、被覆植物として利用される。暖地では牧草に利用されることもあるが品質は高くない。北アメリカでは交雑品種もある。日本でのサッカラムの利用に関する情報は得られなかった。 | 別学名 <i>B. glabra</i> , <i>B. glabra</i> ssp. <i>haerkei</i> , <i>B. glabra</i> var. <i>perfectior</i> , <i>B. intermedia</i> , <i>B. intermedia</i> var. <i>punctata</i> , <i>B. haerkei</i> , <i>Andropogon intermedia</i> , <i>Amphiphiis intermedia</i> . | ①その他: 林野庁 | | 邑田・米倉(2012)、Ylist、生物多様性センター http://www.biodic.go.jp/center/hyouhon/HP_top.html 、小笠原植物誌 http://www.oga-sawara-syokubutusi.com/index.htm 、USDA、PIER |
| 99 | 小笠原・南西諸島 | 重点対策外来種 | ①② | | | イネ | ヨシススキ(サッカラム、パープルビーブルグリーター) | <i>Saccharum arundinaceum</i> | | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | インド~東南アジア原産、熱帯~温帯アジアに分布する。 | 1935年以前に渡来。琉球で逸出帰化。 | 2~5m、多年草 | 近縁種のワセオバナ <i>S. spontaneum</i> は、日当たりの良い所を好み、土壌の種類を選ばず、畑地、樹園地、路傍、荒地に生える。 | 飼料植物や防風堤として渡来した。サッカラム、パープルビーブルグリーター「Purple People Greeter」という品種が流通、販売されている。 | 大型で強固な株を形成する植物であることから、在来種の生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。外産種のススキに混入したものを持ち込まない注にも必要である。 | 別学名 <i>Erianthus arundinaceus</i> 、サトウキビ <i>S. officinarum</i> の近縁種。海外から輸入されるススキに混入している可能性がある。 バイオ燃料製造を目的に、既に九州本土以上では種を結実しない品種である雑種系エリアンサスが混入されていると、現在、完全に種子をつけない不結性の雑種系エリアンサスの品種開発が進められている。 | ①その他: 藤井委員 | Ylist、便覧、沖縄野分、世継 III、USDA、写真図鑑 | |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 100 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | タデ | カライタドリ | <i>Fallopia forbesii</i> | イタドリやオオイタドリの生育地周辺 | I、IV | | | | | | | | | | | | | | | 朝鮮、中国原産 | 八甲田山の後藤伍長銅像のある銅像茶屋からみちのく深沢温泉までの車道を拡幅した法面緑化工事に種子吹き付けで群生地が発生した。 | 1.5m、多年草 | 別の車道沿いにも発生しているため、分布域が広がって来ると推測出来る。 | 日本では、法面緑化工事に利用。 | 海外で侵略的な外来種とされている日本のイタドリと同様に、本種も日本で侵略的となる可能性が高いと考えられる。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込みを行うべきではない。 | 交雑による遺伝的攪乱が懸念。青森県では国立公園内で蔓延することは望ましくないとしている。青森県では学名が <i>F. lorbesii</i> となっているが誤り。別学名 <i>Polygonum reynoutria</i> var. <i>elliptica</i> , <i>Reynoutria forbesii</i> , <i>Reynoutria japonica</i> 。海外では日本のイタドリ <i>Fallopia japonica</i> が侵略的となっている。 | ⑦各県: 青森 | Ylist | |
| 101 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | ケシ | ハカマオニゲシ(ポタンゲシ) | <i>Papaver bracteatum</i> | | V | | | | | | | | | | | | | | | | イラン原産。 | 千葉県では平成以前に侵入し、生育量はごく少ない。千葉県以外でも、誤って栽培されている可能性はある。 | 1.5m、多年草 | 近縁種のアオニゲシ <i>P. orientale</i> は一般的に栽培されているのと同様に混在している可能性がある。 | 本種の栽培は麻薬取締法で規制されているが、近縁種のアオニゲシまたはアオニゲシとの交雑で作られた園芸品種との区別が困難なため、誤って流通し、観賞用に栽培されたり、逸出することがある。 | 本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。不正栽培または自生しているケシを発見した場合は、各地方厚生(支)局 麻薬取締部(支所)、都道府県農業主管課、保健所、警察署へ連絡する。 | 麻薬取締法の対象種。園芸書典では、アオニゲシ <i>P. orientale</i> の別名とされ、中間形があるため区別が困難とされている。 | ⑦各県: 千葉 | 便覧、園芸書典、(西田委員) |
| 102 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | ツリフネソウ | アカボシツリフネ(アカボシツリフネソウ、ケーブツリフネ、ケーブツリフネソウ) | <i>Impatiens capensis</i> | 湿地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産。ヨーロッパでは、古くから逸出、帰化が知られている。 | 1992年渡来。千葉県野田市利根運河で大群落。 | 0.4~2m、一年草 | 湿生植物へに影響が懸念。フランス、イギリスなど、ヨーロッパでは古くから逸出、帰化。 | 本種の利用に関する情報は得られなかったが、花が美しいので栽培される可能性がある。 | 在来種のツリフネ <i>I. noli-tangere</i> によく似ているため、誤同定されている可能性がある。わが国には、ニリンツリフネ <i>I. biflora</i> の学名の記録があるが、この学名は本種のシノニムとされており、検討を要する。 | ⑦各県: 千葉 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、GCW | |
| 103 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | ワタゲルハナグマ、ワタゲルハナグマ(アークセカ・カレンジュラ) | <i>Arctotheca calendula</i> , <i>A. prostrata</i> | 海岸砂浜 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 南アフリカ原産。地中海沿岸に帰化。オーストラリアでは環境雑草とされる。 | ワタゲルハナグマは1992年渡来し、千葉、神奈川、新潟、宮崎で帰化。ワタゲルハナグマは1966年に三重県で確認、関東~九州、四国で帰化。 | 0.3m、1~多年草 | 砂丘や砂浜、草原、森林に侵入する。日本では市街地の路傍、荒地、埋立地でみられる。畦畔にも植えられるが、畑地に侵入すれば雑草化するとの注意が必要。 | アークセカ・カレンジュラの名でグリーンランドカープランツとして利用されているのは、ワタゲルハナグマである。 | 海外で侵略的な外来種とされており、海岸の砂浜や草原で旬間室により急速に広がることから、コソバ等の周辺では利用を控えるか、花粉をつけにくい品種を利用する等、花粉の散布を防止する。 | ⑦各県: 広島、⑧その他: 岡山委員 | 便覧、写真図鑑、帰化植物、岡山委員、JF、GCW、IPSW、IPCW、 http://www.cal-ipc.org/tp/management/plant_profiles/Arctotheca_calendula.php | |
| 104 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | 栽培キク属 | <i>Chrysanthemum (Dendranthema) cv.</i> | 絶滅危惧種を含むキク属の生育地周辺 | I | | | | | | | | | | | | | | | | キク属(狭義)は約50種類あり、東アジアに多い。代表的な観賞用のイエキク(菊、キク) <i>C. × morifolium</i> は中国原産とされ、チョウセンキク <i>C. zawadskii</i> ssp. <i>latilobum</i> とシマカンキク <i>C. indicum</i> の交雑により育成されたといわれる。 | キク属(狭義)は全国に分布するが、外来種としてはキクタニキク(アワコガネキク)とリュウノウキクに国内帰化の記録がある。 | 多年草 | 自生種は種類によって、海岸、島嶼、山地に生育する。イエキクは、比較的耐寒性があり、関東以西では野外越冬する。 | イエキクは、日本の伝統的園芸植物のひとつとして多くの園芸品種が作出され、切り花、鉢物用として広く生産、栽培される。切り花全体の生産額では1/3以上を占め、花卉類の中では賞利生産される量が最も多い。イエキクの一部は料理用として、食用や料理の飾りに用いられる。観賞用の草花類として、キクタニキク(アワコガネキク)、イワインテン、シオギク、サツマノギク、ノジキク、アシズリノギク、ナカガワノギク、コハマギク、シマカンキク(アブラギク)、ハマカンギク、リュウノウギク、イソギク、イワギク(ホソバチョウセンノギク、モリイワギク)、チョウセンノギクなどが流通、栽培される。 | 絶滅危惧種を含むキク属の遺伝的攪乱を引き起こすことから、絶滅危惧種で交雑が確認されているオオイワインテンやナカガワノギクをはじめ、野生キク属の生育場所の周辺では利用を控えるか、花粉をつけにくい品種を利用する等、花粉の散布を防止する。 | ⑥専門家: 交雑10 | 花粉、有用、園芸書典、いかり(2007)、中田(1997) | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示す。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | |
|-----|------------|-------------|-----------|-----------|------------|----------|----------------------------------|--|-------------------------------------|---------|-------|----|----|---------|----|----|------|-----------|-------|----|----|------|--|--------|--------|---|--|-------------|---|---|---|--|---|---------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意 | | | | | | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 競争 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | | | | 永続 | 人体 | 経済産業 | | | | | | | | | | | | |
| 105 | 定着初期/分布限定 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | キバナコウリンタンポポ(ノハラタンポポ、キバナノコリンタンポポ) | <i>Hieracium caespitosum</i> | 寒冷地や亜高山帯の自然草原 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。北アメリカなどに帰化。 | 1955年に確認され、北海道、岩手、福島、兵庫で帰化。北海道では各地に広がっている。 | 0.5m、多年草 | 草地、路傍、休耕地に生育する。 | JFコードに掲載されているキバナコウリンタンポポが本種かどうか不明である。 | 近畿種のコウリンタンポポと同様に、風により種子が散布され、高地の草地に侵入し、繁殖している。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 芝生などの種子に混入して拡大。根際からしばしば匍匐茎を出す。別学名YListは <i>Phosella caespitosa</i> 、その他に <i>H. pratense</i> 、 <i>P. floribunda</i> | ⑦各県:北海道、⑧河川:1,2,3、⑩その他 | 便宜、写真図鑑、YList |
| 106 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ミカヅキゼニゴケ | ミカヅキゼニゴケ | <i>Lunularia cruciata</i> | | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 地中海沿岸原産。北アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ、東アジアにも帰化。 | 1929(昭和4)年に宮城県仙台市で見出された。本州、九州。初めは大都市だけに見られていたが、街道沿いに広がり、全国の農村部に広がっている。 | 多年生の苔類 | 市街地の道路脇や人家周辺の湿った土や石垣上に群生する。山地ではみられない。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | ①その他:日本蕨苔類学会 | 便宜、日本蕨苔類学会、写真図鑑、コケ309頁、有用、Hattori(1944) Bot. Mag. Tokyo 58: 1-7、GCW | |
| 107 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ウキゴケ | ウロコハタケゴケ | <i>Riccia lamellosa</i> | | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 2000年に埼玉県で確認。近年では関東地方の平地ではふつうに発見されるようになった。 | 苔類 | 庭や畑。 | 本種の利用に関する情報は得られなかったが、近縁の在来種のウキゴケ(カズノゴケ) <i>R. fluitans</i> や、その変化した種であろうと考えられるリシア・ルヘナーナ <i>R. rhenana</i> は、観賞用の水草として利用される。 | | ①その他:日本蕨苔類学会 | コケ316頁、USDA、古木達郎(2000)蕨苔類研究7:314-316、園芸事典、水草1、日本蕨苔類学会 | |
| 108 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ウキゴケ | サビイロハタケゴケ | <i>Riccia nigrella</i> | | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 2005年に初めて報告されたが、1990年代にも採集されている。 | 苔類 | 人為的な影響が強い立地に生育し、関東地方の公園や社寺の境内で急速に広がっている。 | 本種の利用に関する情報は得られなかったが、近縁の在来種のウキゴケ(カズノゴケ) <i>R. fluitans</i> や、その境内で急速に広がっているリシア・ルヘナーナ <i>R. rhenana</i> は、観賞用の水草として利用される。 | | ①その他:日本蕨苔類学会 | USDA、園芸事典、水草1、日本蕨苔類学会、河津英子、古木達郎(2005)蕨苔類研究9:6-11 | |
| 109 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | イワヒバ | コンテリクラマゴケ(レインボーファン) | <i>Selaginella uncinata</i> | 温暖地の林床 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 中国原産。合衆国に帰化。フロリダ州で雑草化。 | 園芸植物としてヨーロッパ経由で1968年頃に渡来。関東~九州、四国、琉球で逸出。 | 0.6m、常緑の多年草 | 温室等で栽培されてきたが、近年温暖地以西で、逸出、野生化している。人家近くの垣根の下等に生育する。明るい日陰を好む。耐寒性はそれほどない。 | ヨーロッパ等で観賞用に栽培される。薬草としても利用される。 | 耐陰性があり、極相林への侵入が危惧されている。特に温暖な地域で生物多様性の保全上重要な環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ⑥専門家:極相6、⑦各県:佐賀、⑧河川:2,6,7 | 便宜、写真図鑑、シダ、JF、園芸事典、JF、GCW、USDA | |
| 110 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | タデ | シャクチリソバ(シュコンソバ、ヒマラヤソバ) | <i>Fagopyrum dibotrys</i> | 河川敷 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 中国南部、中国西部原産。 | 昭和初期に中国から導入。1960年代から野生化、北海道、本州、四国、九州。 | 1.2m、多年草 | 林縁や川沿いなどの半陰地。関西の河川敷で急速に繁茂。 | 種子は食用にされ、若芽や若葉は野菜として食べられる。日本では薬用植物として中国から導入され、近年も薬用として栽培されるが、作物としては栽培されていない。 | 種子と根茎で繁殖し、半陰地でも生育でき、河川を中心に分布を拡大して生育地を拡大し、他の植物を駆逐する。別学名 <i>F. cymosum</i> 、 <i>Polygonum cymosum</i> 。 | ③村中:C、⑧河川:17,35,43 | 便宜、帰化植物、蕨苔委員、写真図鑑、Ylist、有用 | |
| 111 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | タデ | ヒメツルソバ(カンイタドリ) | <i>Persicaria capitata</i> | 海岸岩場 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 中国南部~ヒマラヤ原産。熱帯~温帯で栽培。 | 明治中期に渡来し、1960年代以降、野生化。本州(関東以西)、四国、九州、琉球。 | 長さ0.5m、多年草 | 市街地や民家周辺の庭先や石垣、コンクリートの隙間に生育する。耐寒性はやや弱い。高温や乾燥に強い。雑草化する。伊豆半島など石垣や溶岩の間にはびこっている。自然の岩場でどこまで進出できるか不明である。 | 観賞用に渡来した。現在も流通し、鉢物として販売されたり、ロックガーデン等で栽培される。 | 河川で分布を拡大しており、自然の岩場に侵入して雑草化する可能性があること等から、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ⑦各県:奄美、⑧河川:0.5,13 | 便宜、写真図鑑、蕨苔委員、JF、園芸事典、Ylist | |
| 112 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | タデ | ヒメスイバ | <i>Rumex acetosella</i> | 海岸砂浜、山地草原 | IV、V | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。ヨーロッパ、アジア、アメリカ、南北アメリカ、オセアニア。温帯~寒帯を中心に分布し、熱帯~亜熱帯の高地にも広がる | 明治初期に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 0.5m、多年草 | 芝地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。ときに亜高山帯まで侵入する。日当たりの良い湿地~半湿地を好む。pHの低い所に適応する。日陰地では生育が悪い。河川で増加しており、砂浜への侵入が危惧されている。 | 海外では、鉱業地域の緑化や食用にされる。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | ③村中:C、⑤対策:H20<4、⑥専門家:砂浜24、⑧河川:43,82,86、⑩海外:ISSG | 世継II、便宜、写真図鑑、雑草、Ylist、管、花粉、Ylist | |
| 113 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | タデ | ナガバギンギン(チジミスイバ) | <i>Rumex crispus</i> | ノダイオウなどの在来のギンギン類の生育地周辺 | I | | | | | | | | | | | | | | | | ユーラシア原産。北アメリカ、南アメリカ、太平洋諸島など、温帯~熱帯に分布。オーストラリアで侵略的。 | 1891年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 1.5m、多年草 | 牧草地、樹園地、畑地、路傍、荒地、草原、低木林、市街地などに生育。低地から高地まで生える。日当たりのよい湿ったところを好む。 | 外国では、薬用や花序がドライフラワーに利用される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | ③村中C:⑥、⑧河川:39,77,90、⑩海外:ISSG | 世継II、便宜、写真図鑑、雑草、Ylist、園芸事典、IPSW | |
| 114 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | タデ | エゾノギンギン(ヒロバギンギン) | <i>Rumex obtusifolius</i> var. <i>agrestis</i> | 亜高山帯の自然草原や湿地、ノダイオウなどの在来のギンギン類の生育地周辺 | I、II、IV | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。温帯 | 明治中期頃に渡来。北海道、本州、四国、九州。 | 1.3m、多年草 | 牧草地、樹園地、芝地、畑地、路傍、川岸、荒地、林地に生育。耐寒性が強いので、亜高山帯の自然公園などにも侵入。 | 海外では薬用に利用される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | ①要注意、③村中:C、④FAO:6、⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原43、交雑11*、⑦各県:青森、愛知、京都、⑧河川:61,105,108、⑩海外:ISSG、⑪その他:蕨苔委員 | 便宜、写真図鑑、蕨苔委員、外来生物 | |
| 115 | 分布拡大期~まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ナデシコ | ムシトリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ) | <i>Silene armeria</i> | 河原 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。各国で観賞用に栽培され、野生化。 | 江戸時代末期に観賞用植物として渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 0.7m、一年草 | 河川敷、市街地、荒地、道端に生育。病気、害虫もなく丈夫である。日当たりと排水の良い肥沃な土壌を好む。 | 観賞用植物として花壇などで栽培。玉咲きの園芸種などもある。 | 河川で分布を拡大しており、河原に生育する植物や景観への影響が懸念される。河川を通じて分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込まない。 | ⑥専門家:河原17、⑧河川:50,97,104 | 便宜、写真図鑑、有用、園芸事典、JF、帰化植物、蕨苔委員 | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | | |
|-----|------------|-------------|-----------|-----------|-------------|------|----------------------|--|---------------|------|-------|----|----|----|-------|----|----|----|------|-----------|-------|--------|--------|----|-------|---|--|--------------|--|--|---|---|---|---|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意種 | | | | | | 定着可能性 | | | | 生態系被害 | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競争 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | | | | | | | | | | | | | 永続 | | | |
| 116 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ナデシコ | マンテマ(マンテマ) | <i>Silene gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i> | 海岸砂地、河原、湖岸の砂地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。アフリカ、西アジア、オセアニア、南北アメリカ、太平洋諸島等、温帯～熱帯。オーストラリア等では雑草化。 | 江戸時代に園芸植物として渡来。本州、四国、九州、屋久島。 | 0.5m、一年草 | 海浜の砂地や疎林、埋立地、路傍の草地、河川敷、畑地、荒地、市街地に生育。海岸や湖岸の砂丘植生において侵略的。 | 流通、市販される。 | 河川で分布を拡大しており、種子が風や動物により散布され、海浜の砂地に侵入すること等から、海岸や湖岸の砂丘植生への影響が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 狭葉のマンテマ <i>S. gallica</i> var. <i>quinquevulnera</i> とシロバナマンテマ <i>S. gallica</i> var. <i>gallica</i> を含む。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。 | ⑧河川: 30,49,62 | 便覧、帰化植物、藤井委員、JF、GCW、世雑Ⅱ |
| 117 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | アカザ | ホコガタアカザ | <i>Atriplex prostrata</i> | 塩湿地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。南北アメリカ、オーストラリアやニュージーランドで雑草化。 | 1940年渡来。北海道～九州の一部に帰化。 | 0.8m、一年草 | 海岸の裸地や海岸埋立地に群生。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 砂浜での回答は外来ハマアカザ類。別学名 <i>A. hastata</i> 。 | ⑥専門家: C砂浜5・塩渚7、⑧河川: 8,14,24 | 便覧、写真図鑑、Ylist、帰化植物、世雑Ⅱ、GCW | |
| 118 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | メギ | ヒラギナンテン | <i>Berberis japonica</i> | 都市近郊の森林林床 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 中国～ヒマラヤ原産。イギリスやオーストラリアで雑草化している。 | 1681～1688年に庭園木として渡来。本州の一部で逸出。 | 3m、常緑低木 | 実生、挿木などで繁殖。半日陰地で良く育ち、土質を選ばない。都市近郊の二次林に逸出している。 | 本属では日本で最も広く植栽されている。庭園や公園に普通に植栽。 | このような環境へ侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 別学名は <i>Mahonia japonica</i> 。近縁種のセイヨウヒラギナンテン <i>M. aquifolium</i> はヨーロッパで侵略的な植物とされている。鳥が種子を散布することから、いくつかの県で影響が危惧されている。 | ⑥専門家: 雑木11、⑧河川: 3,9,15 | 便覧、有用、木本Ⅰ、樹木、園芸事典、JF、GCW、IPSW、日本造園学会、服部(1996) |
| 119 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ケシ | アツミゲシ | <i>Papaver somniferum</i> ssp. <i>setigerum</i> | | V | | | | | | | | | | | | | | | | 北アフリカ原産で世界の各地に帰化。 | 1964年頃に渡来。関東以南～九州、四国で逸出。 | 0.8m、越年草 | 線路や道路に沿った空地に散発的に生える。 | 花が綺麗なため栽培されることがある。 | 本種の栽培は麻薬取締法で規制されている。不正栽培または自生しているケシを発見した場合は、各地方厚生(支)局 麻薬取締部(支所)、都道府県薬務主管課、保健所、警察署へ連絡する。 | ⑤対策: H20<4、⑦各県: 千葉・広島・愛媛、⑧河川: 0,1,3 | 世雑Ⅱ(母種)、便覧、写真図鑑、帰化植物、西田委員、Ylist | |
| 120 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | アブラナ | ハルザキヤマガラシ(セイヨウヤマガラシ) | <i>Barbarea vulgaris</i> | 亜高山帯、河川敷 | Ⅱ、Ⅳ | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカなどに広く分布し、原産地は不明。 | 明治時代末年に渡来、1960年頃に野生化。北海道、本州、四国、九州に分布。 | 0.9m、越年草～多年草 | 川岸、用水路端、畦畔、牧草地、畑地、水田、荒地、道端のほか、山地の林道沿いにもみられる。冷涼で日当たりがよく、湿った肥沃地を好む。標高1800m以上の亜高山帯に生育している事例もある。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 愛知県では、現在のところ自然生態系に大きな影響を与えるほどの量は生育していない。標高が高い地域にも侵入しているため、自然性の高い環境への影響が懸念される。 | ①要注意、②W100: 日本、③村中: B、6、⑤対策: H20<4、H23<2、⑥専門家: 河原30、⑦各県: 青森、⑧河川: 18,39,44 | 世雑Ⅱ、外来生物、便覧、帰化植物、写真図鑑 | |
| 121 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | アブラナ | セイヨウカラシナ(カラシナ) | <i>Brassica juncea</i> | 河原 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 西アジア原産。温帯を中心に分布し、熱帯の一部まで広がる。 | 奈良時代から平安時代初期頃に中国から渡来したらしいが、戦後分布を広げているのはヨーロッパ、北アメリカから入ったものと考えられている。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 1.5m、一年草 | 河川敷、堤防、畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。日当たりのよい温暖地を好み、肥沃地ほど生育が良い。関西地方の河川敷などに大群落がある。 | 奈良時代から平安時代初期から栽培される。野菜として栽培されるカラシナの原種で、様々な品種が育成されている。種子からはカラシ油がとれ、良質の蜜源植物である。中国では薬用にされる。 | 河川で分布を拡大しており、大繁茂することがあるため、河原や草原に生育する植物との競合、駆逐が懸念される。河川を通じて分布を拡大するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 群馬県では太い根が堤防に深く食い込み、堤防の強度低下を引き起こす。アブラナ <i>B. rapa</i> とクロカラシナ <i>B. nigra</i> のを合わせた複2倍体、多量に摂取すると中毒の原因になる物質を含む、アレロパシー作用がある。広島では特産野菜との交雑を防ぐために駆除。 | ③村中: C、⑤対策: H23<1、⑥専門家: 河原37・草原28、⑦各県: 埼玉・愛媛・群馬、⑧河川: 44,76,80 | 世雑Ⅱ、便覧、写真図鑑、有用、園芸事典、JF |
| 122 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | アブラナ | オニハマダイコン | <i>Cakile edentula</i> | 海岸砂浜 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ東岸中北部原産。オーストラリア等で雑草化。 | 1982年渡来。北海道、本州の一部で帰化。 | 高さ0.5mの～二年草 | 海岸砂丘に生える。 | 海外では、多肉質の茎葉を食用にする。 | 青森県では、在来種と競合している様子は見られないとされている。絶滅危惧種のイノシシのような砂丘地帯に生える。京都、利尻島などで駆除。裸地砂浜の地表を利用する海浜性昆虫等への植被の影響が懸念。 | ⑥専門家: 砂浜7、⑦各県: 青森・千葉、⑧河川: 7,14,37,72,74 | 便覧、帰化植物、浅井(1993)、GCW、藤井委員 | |
| 123 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | バラ | ピラカンサ類 | <i>Pyracantha</i> spp. | 河原の固有種の生育地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ東部からアジアにかけて6種が自生。トキワサンザシ <i>P. coccinea</i> は南東ヨーロッパ～小アジアに分布。タチバナモドキ <i>P. angustifolia</i> は中国原産。ニュージーランドで帰化。アフリカ南部、オーストラリア、ハワイで侵略的。ヒマラヤトキワサンザシ <i>P. crenulata</i> はヒマラヤ原産。ニュージーランドで帰化。アフリカ南部やオーストラリアで侵略的。 | トキワサンザシとタチバナモドキは明治時代に渡来し、本州と九州の一部で逸出。ヒマラヤトキワサンザシは昭和初期に渡来し、本州の一部で逸出。 | 2～6m、常緑低木 | 草原、荒地、岩の多い尾根、川岸に生育。耐寒性、耐暑性があり、日当たりさえ良ければ土壌を選ばない。一度定着すれば、耐陰性もある。萌芽により急速に広がる。日本の気候条件下で良く育つ。 | 花だけでなく果実も美しいので、生垣、庭園樹、鉢物用樹として栽培される。種間雑種から育成された多くの園芸品種がある。雑種の稔性は高い。 | 河川で増加傾向にあり、丈夫な性質で、鳥により種子が散布されることから、河原の植物への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所では、利用を控える等の配慮が必要である。 | ⑧河川ではトキワサンザシとタチバナモドキ、その他ヒマラヤトキワサンザシも逸出。実生や挿し木で増やす。刺がある。 | ⑥専門家: 河原7、⑧河川: 7,14,37,72,74 | 便覧、樹木、帰化植物、有用、園芸事典、IPSW |
| 124 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | マメ | エニシダ(エニスダ) | <i>Cytisus scoparius</i> | 河川敷、海岸 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。アフリカ南部、アジア、オーストラリア、北アメリカ、ハワイなどに分布。ニュージーランド、合衆国西部で侵略的。 | 園芸植物として江戸時代に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出帰化。 | 3m、常緑低木 | 道路の法面や宅地造成による新開地などに生える。海外では、草地、荒地、氾濫原、海岸の低木林、硬葉樹林に生育する。 | 様々な園芸品種が、観賞用に栽培されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。 | 海外で侵略的な外来種とされ、種子が車、水、鳥によって散布され、急速に分布を拡大すること等から、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 影響は、イタチハギとほぼ同等と思われる。緑化植物として導入されたことから、道路に沿って広がることから、種子が車両に付着して散布されると考えられる。種子は水や鳥により散布される。種子の寿命は長い。 | ⑩海外: ISSG | 便覧、帰化植物、環境省、勝山委員、JF、有用、IPSW |
| 125 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | マメ | アレチヌスビトハギ | <i>Desmodium paniculatum</i> | 河原、里草地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ東部原産。 | 1940年に大阪で確認。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 1m、多年草 | 荒地、道端、市街地、空地、攪乱地に広がる。関東以西に多い。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 一度侵入されると、頑丈な根茎のため、駆除が困難。別学名 <i>Hedysarum paniculatum</i> 。付着しやすい果実で、種子の分散能力が高い。河川でも増加傾向にある。 | ⑤対策: H23<1、⑦各県: 京都・広島、⑧河川: 21,49,57 | 便覧、写真図鑑、勝山委員、帰化植物 | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示す。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|-----|------------|-------------|-----------|-----------|-----------|--------|--|--|--------------|-------|-------|----|----|---------|----|----|------|-----------|----|-------|-----|------|--|--|--|---|--|--|---|--|---|--|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | | 永続 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | |
| 126 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | カタバミ | オオキバナカタバミ(キイロハナカタバミ) | <i>Oxalis pes-caprae</i> | 落葉樹の林床 | IV | | ◎ | - | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (◎) | ○ | - | 南アフリカ原産、ニュージーランド、アメリカ合衆国、アジアに分布。ヨーロッパ南部、オーストラリア、合衆国西部で侵略的。 | 1890年代に入り、1961年に帰化が確認。関東～琉球で逸出増大。 | 0.2m、多年草 | 森林、草原、川岸、海岸、畑地、庭、牧草地、樹園地、荒地などに生育。日当たりが良い、肥沃地を好む。鱗莖で繁殖。地中海沿岸の海岸地域で非常に多くみられる。冬に繁茂し、耐寒性がある。 | 観賞用に栽培される。 | 海外で侵略的な外来種とされ、本州太平洋側の雪の降らない地域で明るい落葉広葉樹林に侵入するおそれがあるため、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。 | じわじわと広がっている。一度入り込むと駆除が難しい。家畜に有害。 | ⑩海外:ISSG | 世雑Ⅱ、便覧、写真図鑑、勝山委員、IPSW、園芸事典 |
| 127 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | トウダイグサ | ナンキンハゼ | <i>Triadica sebifera</i> | 照葉樹林 | IV | | ◎ | × | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | - | 中国大陸の中南部の暖帯から亜熱帯原産。台湾にも広く野生化。アジア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。 | 園芸植物として江戸時代に渡来。関東～琉球で逸出増大。 | 15m、落葉(熱帯では常緑)高木 | 自然林、林地、草原、攪乱地、湿地に生育する。土壌を選ばないが、排水の良い肥沃土壌で生長がきわめて早く、陽光を好む。関東以南の暖地に適する。様々な環境への耐性がある。 | 庭木、公園樹、街路樹として植栽。盆栽にも利用。種子の油脂は有毒だが、ろうそく、せっけん、薬用等に利用。 | 海外で侵略的な外来種とされており、鳥や水により種子が散布され、土壌環境にも影響する。日本でも河川で分布を拡大しており、草原や雑木林等への影響が懸念されている。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所や自然水域の周辺では、利用を控える等の配慮が必要である。 | 繁殖は実生で行う。別学名 <i>Sapium sebiferum</i> 。急速に分解する葉はタンニンを生産し、土壌中の窒素やリンも増加する。奈良公園春日山原始林で問題。シカが食べないため、今後増加する可能性が高い。 | ③村中: C、⑥専門家: 草原23・専木10、⑦各県: 兵庫、⑧河川: 23.50.64、⑩海外:ISSG | 便覧、樹木、有用、Ylist、園芸事典、JF、園芸(2009)、MAESAKOら(2007)、服部 |
| 128 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ウコギ | カミヤツデ(ツウノウ(通草)、ツウダツボク(通説木)) | <i>Tetrapanax papyrifer</i> | 河川敷や林縁 | IV | | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | (○) | ○ | - | 中国南部、台湾原産。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国で雑草化。 | 1935年以前に渡来、関東～九州、四国、琉球で逸出、帰化。 | 5m、常緑低木 | 湿潤な土壌を好む。河川敷などで繁茂。関東地方では寒さで傷んで落葉低木となる。 | 日本では暖地に観賞用に栽培され、幹の髄は通草紙として造花の材料にされた。薬用にも利用される。 | 鳥により種子が散布され、河川敷等で繁茂。小型の在来種を被陰したり、景観的にも問題になっている。こうした問題を引き起こす恐れのある場所には、持ち込まない。 | 神奈川で増殖し駆除。地下に伸ばした根から新苗を作る。増殖は実生、挿木、株分けによる。生長は早い。別学名 <i>T. papyriferum</i> 、 <i>T. papyrifera</i> 、 <i>T. papyrifera</i> | ⑦各県: 愛媛2.2.4、⑧河川: 2.2.4 | 便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、Ylist、GW | |
| 129 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | セリ | ドクニンジン | <i>Conium maculatum</i> | | IV、V | | ◎ | × | - | ◎ | ○ | ◎ | ○ | - | ◎ | ◎ | ○ | - | ヨーロッパ原産、南北アメリカ、オーストラリア、アジアに分布。 | 1959年渡来、北海道、本州の一部で帰化。 | 2m、一年草 | 畑地、牧草地、路傍、荒地などに生育。 | 海外では、古くから薬用植物として利用されたが、現在は使用されない。古代ギリシアの処刑の毒として利用された。本種が市販されているとの情報は得られなかった。 | 薬用等に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。 | 有毒植物で、家畜にも影響。野に生育しているものを、山菜のシヤク <i>Anthriscus sylvestris</i> 等と間違えて食べないよう注意する。 | ①要注意、④FAO: 7、⑦各県: 千葉、⑧河川: 0.0.2 | 世雑Ⅱ、便覧、牧草、有用、(黒川委員) |
| 130 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | アカネ | オオフタバムグラ | <i>Diodia teres</i> | 海岸砂浜、河川敷 | II、IV | | ◎ | × | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | - | - | 北アメリカ原産。アジア、オーストラリア、南アメリカなどに帰化。 | 1927年に渡来、本州、四国、九州で帰化。 | 0.5m、一年草 | 砂地がかつた道端、河川敷、海岸に多く、芝生、時に林縁に自然植生の一員のように生育。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 鳥取砂丘で防除の対象となった。三重県明和町の大淀海岸でも駆除が行われた。 | ①要注意、③村中: B、⑤対策: H20.4、⑥専門家: 河原28、⑦各県: 愛知、⑧河川: 20.37.42 | 便覧、写真図鑑、外来生物 | | |
| 131 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ヒルガオ | アメリカネナシカズラ | <i>Cuscuta pentagona</i> | 海浜植物の生育地 | IV | | | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (◎) | - | ◎ | 北アメリカ原産、アジア、ヨーロッパ。 | 1970年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球に帰化。 | 一年草、つる性の寄生植物 | 畑地、樹園地、牧草地、道端、荒地、河原、海浜、栽培植物 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 愛知県では希少種のハマナシカズラが生育するハマゴウ群落に侵入している。海浜の植物に影響がある場所では駆除が必要。 | ①要注意、7⑤対策: H20.4⑦各県: 愛知・京都・広島・愛媛⑧河川: 48.89.90 | 世雑Ⅰ、便覧、外来生物 | |
| 132 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ヒルガオ | ホシアサガオ | <i>Ipomoea triloba</i> | | IV、V | | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | ◎ | - | 熱帯アメリカ原産、南北アメリカ、アジア、オーストラリアなど。温帯～熱帯に分布し、特に熱帯～亜熱帯に多い。 | 1945年以降に渡来、本州、四国、九州、琉球、小笠原に分布 | 一年草、つる性植物 | 畑地、樹園地、路傍、荒地などに生育する。日陰に対する耐性もある。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 分布の中心は九州や東海で、大豆作で大きな被害が生じている。農耕地から非農耕地への拡散も著しい。作物への混入による品質低下も著しい。 | ③村中: C、⑧河川: 8.33.46 | 世雑Ⅰ、雑管、便覧、黒川委員、写真図鑑 | | |
| 133 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | クマツヅラ | アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキハアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクパーベナ)、ヒメクマツヅラ(ハマクマツヅラ)) | <i>Verbena</i> spp.(<i>V. brasiliensis</i> , <i>V. incompta</i> , <i>V. bonariensis</i> , <i>V. litoralis</i>) | 河川敷の湿地や草原 | IV | | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (○) | ○ | ◎ | 南北アメリカ原産。熱帯～温帯。 | 1930年頃渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 2m、多年草 | 市街地の道端、荒地、河川敷、草原、湿地、裸地、礫地に生える。 | ヤナギハナガサ(サンジャクパーベナ)は観賞用に栽培される。 | 近年増えているのはダキハアレチハナガサだが、アレチハナガサ等として記載されていることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。奄美地域では林道沿いで増加。 | ③村中: C、⑦各県: 広島・愛知・富山・宮崎・徳島、⑧河川: 7ルチハナガサ26.67.74、ヤナギハナガサ23.52.75⑩海外:ISSG | 便覧、写真図鑑、帰化植物、世雑Ⅰ | |
| 134 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | ナス | チヨウセンアサガオ属 | <i>Datura</i> spp.(<i>Brugmansia</i> spp.) | | V | | ○ | × | - | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | 熱帯アメリカ産のものが多い。 | 日本には8種が帰化。北海道～九州、琉球に帰化。 | 一年草～低木 | 畑地、樹園地、牧草地、芝地、道端、荒地、海岸等に生育。 | おもに薬用植物として利用される一年草をチヨウセンアサガオ節、園芸植物として利用される多年草をキダチチヨウセンアサガオ節またはキダチチヨウセンアサガオ属 <i>Brugmansia</i> に分ける見解もある。 | 薬用等に栽培する場合には、逸出したものが人や動物に誤って摂取されることのないよう、適切に管理する必要がある。 | 猛毒の神経毒を全草に含まれるため、誤食による人体への影響が問題。少量の混入でも飼料全体を破壊せざるを得なくなる。ゴボウ(根)、オクラ(つぼみ)、モロヘイヤやアサタバ(葉)、ゴマ(種子)と誤って食べないよう注意する。愛知県では、ヨウシュチヨウセンアサガオは被害が問題になるほど生育しておらず、増加もしていないとの記述。 | ①要注意、④FAO: 11、⑦各県: 愛知、⑧河川: 3オウシュチヨウセンアサガオ: 3.7.10、チヨウセンアサガオ 0.1.2 | 世雑Ⅰ、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、牧草、黒川委員、厚生労働省HP、外来生物、園芸事典、JF、Ylist |
| 135 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | ゴマノハグサ | ウキアゼナ(ハコバ、ロトンデフオリア、カラカワクサ) | <i>Bacopa rotundifolia</i> | 池沼や湿地 | IV | | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ○ | ○ | - | 北アメリカ原産、東アジアに分布。 | 1954年に岡山県で確認後、北海道、本州、四国、九州の一部で帰化。西南暖地のイグサ田の雑草となっている。 | 長さ0.6m、浮遊性の一年草 | 池沼、河川、水路、水田などの水湿地に生育する。特に水田(休耕地)で旺盛に繁殖する。日当たりの良いところを好み、土壌の種類を選ばない。種子繁殖する。 | 観賞用に販売、利用される。屋外の水鉢栽培に適する。水槽では強光下で水中栽培できる。 | 種子で繁殖し、絶滅危惧種の水草を駆逐し、水田雑草となることから、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 群馬県ではトリゲモ類やミスズツバなどの絶滅危惧種との競合、駆逐の危険性が高い。アメリカの水田雑草である。 | ⑦各県: 群馬、⑧河川: 1.2.5 | 世雑Ⅰ、雑管、便覧、写真図鑑、水草Ⅲ、角野 |
| 136 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | キク | ネバリノギク | <i>Aster novae-angliae</i> | 半自然草地 | IV | | ◎ | ○ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 北アメリカ原産 | 大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。 | 1.5m、多年草 | 山村などで野生化している。 | 近年はあまり栽培されない。アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。 | 北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。 | 北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路路面を中心に急激に広がった。 | ①要注意、②W100: 日本、③村中: C、⑧河川: 2.2.4 | 便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員 |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示す。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|-----|------------|-------------|-----------|-----------|------------|----|---|--|---------------|-------|-------|----|----|----|-------|----|----|----|---------|----|------|----|------|-----------|--|--|------------|---|---|---|--|---|---------------------------------|-------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意 | | | | | | 定着可能性 | | | | 生態系被害 | | | | 分布拡大・拡散 | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | | | | | | | | | 逸出・拡散 |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | 経済産業 | 利用 | | | | | | | | | | | | |
| 137 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | ユウゼンギク | <i>Aster novi-belgii</i> | 半自然草地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 大正時代に園芸植物として渡来。北海道～九州で逸出。 | 0.7m、多年草 | 山野に生える。 | アスター属は、種間交雑などが行われ、多くの園芸品種が作出された。 | 北海道などで急速に分布を拡大し、草原への侵入が危惧されることから、こうしたおそれのある場所には、持ち込まない。 | 北海道のランクA3本道に定着しており、生態系等への影響が報告または懸念されている。北海道で道路法面を中心に急激に広がった。 | ⑧河川:2.6.11、⑩その他:藤井委員 | 便覧、写真図鑑、園芸事典、勝山委員 | |
| 138 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | アメリカセンダングサ | <i>Bidens frondosa</i> | 湿地 | IV、V | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産、ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布。 | 1920年頃に渡来、北海道、本州、四国、九州、琉球で帰化。 | 1.5m、一年草 | 湿った草地、水田、水路、休耕地、牧草地、樹園地、路傍、荒地などに生育。一般に水辺や湿地に好んで生育。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | 種子の寿命は16年に及ぶこともある。水田雑草として、イネや水辺の希少種と競合する。 | ①要注意、③村中:C、⑤対策:H20<4、H23<1、⑦各県:北海道・青森・埼玉・愛知・京都・広島・愛媛・徳島、⑧河川:7.7.11,17.12 | 世雑I、便覧、帰化植物、写真図鑑、外来生物 | |
| 139 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | アメリカオニアザミ | <i>Cirsium vulgare</i> | 自然草原 | IV | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産。北アメリカ、アフリカ南部、オーストラリア。 | 1960年代渡来、北海道、本州、四国、琉球で帰化。 | 1.5m、一～二年草 | 原野や河川敷に生える。肥沃で湿ったところを好む。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | シカによる食害を受けにくく、駆除も困難で増加が危惧。国立公園の北海道利尻島など自然度の高い環境にも定着。住宅地等でもみられ、鋭い棘があることから駆除されている例もある。 | ①要注意、④FAO:6、⑤対策:H20<4、H23<1、⑥専門家:草原26、⑦各県:北海道・愛知、⑧河川:5.13.19、⑩海外:ISSG | 世雑I、雑管、便覧、写真図鑑 | |
| 140 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | ケナンヒメムカシヨモギ(ケナムカシヨモギ) | <i>Gonyza parva</i> | 海浜 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産。 | 1926年に牧野富太郎によって新変種として記載された。北海道、本州、四国、九州、琉球。西日本に多い。 | 1.5m、越年草 | 道端、空き地などの乾いた陽地に生える。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | 海浜環境で群落を形成する場合、コマツヨイグサと同様に砂の安定化により植生遷移を進めてしまふおそれがある。ヒメムカシヨモギに似ている。別学名 <i>Gonyza canadensis</i> var. <i>pusilla</i> 、 <i>Erigeron canadensis</i> var. <i>levis</i> 、 <i>Erigeron pusillus</i> | ⑧河川:11.21.20、⑩その他:藤井委員 | 便覧、帰化植物、写真図鑑、藤井委員、Ylist | |
| 141 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | ハルシャギク | <i>Coreopsis tinctoria</i> | 湿地、河原 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ西部原産。 | 明治初期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原で逸出帰化。 | 1.2m、一年草 | 河川敷の草地、路傍、空地に生える。 | ハルシャギクは園芸植物として渡来。コロオプシスの通称名で様々な園芸品種が流通、利用されている。特定外来生物に指定されたオオキンケイギクの代わりに利用が増えている可能性がある。 | 河原の在来植物との競合、駆逐が懸念されている。近縁種のオオキンケイギクは特定外来生物に指定されており、他の近縁種も同様の影響が懸念される。こうした影響を及ぼす場所には、持ち込まない。 | ③村中:C、⑤対策:H23<2、⑥専門家:河原9、⑦各県:埼玉、⑧河川:24.39.52 | 便覧、帰化植物、写真図鑑 | | |
| 142 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | ヒメジョオン | <i>Erigeron annuus</i> | 山地や亜高山帯の草原 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産、世界各地に帰化 | 江戸時代末期に渡来、明治初年には広く帰化。北海道～九州で帰化。 | 1.5m、一年草 | 畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育。土壌の種類を選ばない。低地から高山地帯まで生える。 | 若芽は食用にできる。海外では薬用利用もある。国内でも流通がある。 | | 農耕地の雑草になるとともに、国立公園の亜高山帯のような自然性の高い環境にも侵入する。 | ①要注意、②W100:日本③村中:A、④FAO:6、⑤対策:H20<5、H23<1、⑥専門家:草原51、⑦各県:青森・埼玉・愛知・京都・滋賀・愛媛、⑧河川:7.8.11,19.121 | 雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物、雑I、JF、有用 | |
| 143 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | ペラペラヨメナ(ペラペラヒメジョオン、メキシコヒナギク、エリゲロン・カルピンスキアヌス、源平小菊、ゲンペイコギク) | <i>Erigeron karvinskianus</i> | 海岸や川岸の岩場 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 中央アメリカ原産、アフリカ、ニュージーランド、ハワイ、ヨーロッパ | 1949年渡来、本州、四国、九州、琉球で帰化 | 0.4m、多年草 | 農耕地、自然林、植林地、河岸、攪乱地、市街地面、湿地に生育。日本では、石垣の隙間や川沿いの崖などに生える。箱根や伊豆では、川岸などの自然の岩場にも侵入している。 | 花卉として栽培される。源平小菊、ゲンペイコギク、エリゲロン・カルピンスキアヌスの名前で流通している。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも自然の岩場に侵入して在来植物への影響が懸念されている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | メキシコヒナギクは琉球でつけられた名前。別学名 <i>Vittadinia triloba</i> 。 | ④FAO:6、⑦各県:広島、⑩海外:ISSG | 便覧、帰化植物、写真図鑑、勝山委員、Ylist、JF、IPSW | |
| 144 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | マルバフジバカマ(ユーハトリウム・チヨコレート) | <i>Eupatorium rugosum</i> | 二次林やスギ林の林床 | IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産。 | 1896年に渡来。1916年に逸出し、北海道、本州、四国、九州で帰化。関東周辺に多い。 | 1m、多年草 | 市街地、路傍の石垣の間、日陰、特にスギ林の下に多く生える。 | 強靱な自然公園の植栽品から逸出しと推定されている。ユーハトリウム・チヨコレート等の名前で流通している。 | 耐寒性や耐陰性があり、樹林内へも侵入することから、林床に生育する在来植物への影響が懸念される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 箱根では樹林内に侵入している。 | ⑩その他:勝山委員 | 便覧、写真図鑑、勝山委員、Ylist、園芸事典 | |
| 145 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | コウリントンポポ(エフデタンポポ) | <i>Hieracium aurantiacum</i> | 寒冷地や亜高山帯の自然草原 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産、西アジア、北米にかけて広く分布。 | 明治中期に渡来、戦後帰化した。北海道～九州で逸出帰化。マット状に群生する。北海道にはサハリンから入った。 | 0.5m、多年草 | 原産地では高山に生える。山地の草地、畑地、牧草地、芝地、路傍、荒地などに生育。乾いたところも多く、土壌pHの低い所にも生育する。雪や霜に耐えられる。酸性の強い肥沃地では、他の雑草との競争力が弱い傾向にある。 | 園芸植物として渡来。花壇やロックガーデンに植えられる。 | 海外で侵略的な外来種とされ、風により種子が散布され、貴重な生態系である高山帯でも生育できる。そのため、こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 大雪山国立公園では山麓、林道に侵入。特別保護地区への侵入が懸念される。北米の一部では強靱雑草になっている。 | ⑦各県:北海道、⑧河川:5.6.6、⑩海外:ISSG | 世雑I、便覧、帰化植物、環境省、園芸事典、有用、JF | |
| 146 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | フランスギク | <i>Leucanthemum vulgare</i> | 亜高山帯 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産、アジア、南北アメリカ等、温帯に多く、一部は熱帯にも広がり、世界的にみられる。 | 江戸時代末期に渡来。北海道、本州、四国、九州で逸出帰化。特に北海道に多い。 | 0.8m、多年草 | 畑地、牧草地、路傍、空地に野生化する。近年は高山にまで侵入しつつある。 | 園芸植物として渡来、庭園で栽培。 | 海外では畑地の雑草となっている。日本では高山地域にまで侵入しているため、各地の国立公園等で駆除の対象となっている。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 別学名 <i>Chrysanthemum leucanthemum</i> 。マーガレット(モクシユンギク) <i>Argyranthemum frutescens</i> と混同されている場合あり。種子と地下茎で繁殖する。野生種子等に混入もある。種子の生産量は多く、寿命が39年に及ぶとの報告がある。各地の国立公園で駆除が行われている。 | ③村中:B、⑤対策:H20<6、H23<1、⑥専門家:草原33、⑦各県:北海道、⑧河川:20.53.67 | 便覧、写真図鑑、JF、有用、世雑I | |
| 147 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | アラゲハンゴンソウ(キヌガサギク、ルドベキア・ヒルタ、グロリオサ・デージー) | <i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i> | 湿原、自然草原 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | | 北アメリカ原産 | 1930年頃に渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球で逸出帰化。 | 0.9m、二年草 | 造成地、法面、牧場等に生育。全国の山岳道沿いにみられ、北海道の原生花園やアポイ岳の麓にも生育。 | 園芸植物として渡来、グロリオサ・デージー・Gloriosa Daisy'をはじめ、様々な園芸品種が利用されている。 | 山岳道沿いに分布を拡大し、幹路湿原等の生物多様性の保全上重要な地域で駆除の対象になり、草原の在来植物との競合、駆逐が危惧される。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | オオハンゴンソウの近縁種、アポイ岳の麓で採集、報告された。奥郡など各地の重要地域で対策が行われている。牧草種子または家畜飼料に混入して分布を拡大したとされる。 | ⑤対策:H20<4、⑥専門家:草原27、⑧河川:1.0.6 | 便覧、写真図鑑、JF、有用、園芸事典 | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更があった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|-----|------------|-------------|-----------|-----------|--------|---|--|---------------|-------|-------|----|-------|----|----|---------|----|----|----|------|-----------|-------|------|------------------------------------|---|---|--|---|--|---|--|------------------------------------|----------------------------------|----------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | | | 人体 | 経済産業 | 利用 | | | | | | | | | | 付着 |
| 158 | 分布拡大期～まん延期 | その他の総合対策外来種 | | | カヤツリグサ | アメリカヤガミスゲ | <i>Carex scoparia</i> | 湿地 | IV | | | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | - | - | 北アメリカ原産 | 1986年に香川県丸亀市で採集。北海道(石狩川下流の湿地、勇払原野等)、本州の一部、香川で確認。 | 0.6m、多年草 | 湿地や湿った草地に生える。 | 本種の利用に関する情報は得られなかった。 | - | | ①)その他:勝山委員 | 帰化植物、便覧、勝山委員 | | |
| 159 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | タデ | ツルドクダミ(カシュウ、何首烏) | <i>Fallopia multiflora</i> | | II、IV | | | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | 台湾原産、合衆国、ハンガリー | 江戸時代(享保5(1720)年)に長崎を経由して江戸で栽培。北海道、本州、四国、九州で逸出。 | 木質つる性の多年草 | 市街地周辺の路傍や生け垣などに生える。 | 乾燥した塊根は何首烏(かしゅう)と呼ばれ、漢方薬として用いる。 | 台湾での圧倒的に旺盛な生育状況から、南西諸島に侵入した場合、生態系に多大な悪影響を与えることが危惧される。生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込まない。 | 別学名 <i>Polygonum multiflorum</i> 、 <i>Pleuropterus multiflorus</i> 。 | ①)その他:横田委員 | 便覧、帰化植物、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典、Ylist、GW | | |
| 160 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | ヤマゴボウ | ジュズサンゴ | <i>Rivina humilis</i> | 林床 | II、IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | (○) | ○ | - | 北アメリカ南部から中央、南アメリカに分布。 | 明治時代後期に移入植物に混入して小笠原の父島に侵入。沖縄へは復帰後観賞用に導入、岡山、宮崎に分布 | 1m、常緑の多年草 | 小笠原では湿り気のあるやや暗い林内で純群落を形成。沖縄では庭園を中心に雑草化。 | 観賞用に流通し、栽培される。果期が長いので、温室内で鉢物とするか地植えにする。南米のコロンビアでは染料を採取するために栽培される。 | 結実までの生長期が短い上に、果期が長く、鳥により散布されるため分布を拡大しやすい。小笠原では、在来の下層雑生、林床の草本、シダ類を駆逐し、樹木の実生発芽も抑制されている。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 10~12℃で越冬、株元に落ちた果実は自然に良く発芽し、4~5月で結実する。鳥により種子が散布される。実生または挿し木でふやす。春に種子をまくと秋から冬に結実するので、一年草としても扱われる。 | ⑦)各県:小笠原 | 便覧、帰化植物、観葉、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、GW | | |
| 161 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | ツルムラサキ | ツルムラサキ | <i>Basella rubra</i> | | II、IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ◎ | - | 東南アジア原産ともされるが明らかではない。熱帯地域で広く栽培される。 | 明治時代、食用植物として渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球、小笠原諸島、沖縄県の特に大東諸島、宮古島で蔓延している。 | 長さ4m、つる性の多年草(日本では一年草) | 人家の近くで見られる。高温多湿を好む。発芽適温は25℃。十分日の当たる。排水の良いところでは土質をあまり選ばない。性質は強健、病気や害虫にはほとんどなく栽培は容易とされる。 | 日本では、観賞用に鉢植えや垣根に利用される。海外では広く野菜として利用されており、日本でも健康野菜としても販売される。製紙用の糊、染料、薬用にも利用。 | 熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込まない。 | 花が白色、葉がやや狭長になる系統 <i>B. alba</i> (<i>B. alba</i> "Rubra") や、葉が大きく基部が心形になる系統 <i>B. cordifolia</i> が別種とされることもあるが、種を分けるような違いはない。 | ①)その他:横田委員 | 便覧、帰化植物、観葉、写真図鑑、有用、園芸事典、JF | | |
| 162 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | ムクロジ | コフウセンカズラ | <i>Cardiospermum halicacabum</i> var. <i>microcarpum</i> | | II、IV | | | ◎ | x | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | (○) | ○ | - | 汎熱帯原産。基本種のフウセンカズラ <i>C. halicacabum</i> は北アメリカ南部原産 | 渡来年代不明だが1961年に記載がある。神奈川、鹿児島、琉球で逸出帰化。 | つる性の一年草 | 沖縄県(特に大東諸島、宮古諸島)では、かなり蔓延している。基本種のフウセンカズラは日当たりと排水の良い場所から土質は特に選ばない。 | 基本種のフウセンカズラは海外で環境雑草等とされている。日本でも大東諸島、宮古諸島で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 果実が径1.5cmたらずの変種として基本種のフウセンカズラからは区別されている。フウセンカズラは海外では環境雑草等とされている。性質は強く、栽培が容易、病気、害虫はほとんどいない。 | ①)その他:横田委員 | 便覧、写真図鑑、JF、有用事典、園芸事典、横田委員、GW | | |
| 163 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | アオイ | フヨウ | <i>Hibiscus mutabilis</i> | サキシマフヨウの生育地周辺 | I | | | ◎ | ◎ | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | ○ | - | 中国中部原産。 | 古くから栽培され、本州(関東以西)、四国南部、九州南部、琉球、小笠原諸島で逸出。 | 4m、落葉低木 | 日当たりの良いところを好み、海岸に近い谷沿いの林縁に生育する。 | 観賞用に流通、栽培されており、庭木、公園樹、街路樹、鉢植え等に利用される。 | 日本固有種のサキシマフヨウとの交雑が確認されていることから、サキシマフヨウの自生地周辺には、持ち込まない。 | 増殖は挿し木または実生で、八重咲品種はもっぱら挿し木による。近縁種のサキシマフヨウ <i>H. makinoi</i> は日本固有種で、九州(福江島、飯島、種子島以南)、沖縄に生育し、鹿児島県RD種で分布重要種とされる。サキシマフヨウは屋久島、種子島などの自生地で、フヨウとの間に雑性のある種間雑種ができるため、浸透交雑個体群が形成される。 | ⑦)各県:奄美 | 便覧、木本II、JF、園芸事典、樹の花4 | |
| 164 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | トケイソウ | クサトケイソウ(バッシンフローラ、フォエティダ、ワイルドパッションフルーツ) | <i>Passiflora foetida</i> | | II、IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | 南アメリカ原産。熱帯～亜熱帯に帰化。 | 渡来年代不明。千葉、琉球(沖縄島、大東島)、小笠原(硫黄島)で逸出。特に大東諸島、宮古諸島で蔓延。 | 一年草、つる植物 | 路傍や河原等の攪乱地に生育。湿った場所を好む。 | 果実を食用としたり、薬用にするために栽培される。アフリカやマレーシア地域では地被植物としても利用される。日本でも流通、販売されている。 | 熱帯地域が原産で、日本でも大東諸島、宮古島等で蔓延していることから、生物多様性の保全上重要な温暖な地域へは、持ち込まない。 | 腺毛の量や、和名の由来である臭気程度に変異が多い。 | ⑩)海外:ISSG、⑪)その他:横田委員 | 便覧、写真図鑑、横田委員、有用、園芸事典 |
| 165 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | フトモモ | フトモモ | <i>Syzygium jambos</i> | 山地の溪流沿い | IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | - | - | ○ | - | イラン、インド～インド洋諸島原産。アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、太平洋諸島に分布。温暖域にも分布を広げつつある。 | 1935年以前に渡来。琉球(屋久島、種子島)以南で野生化。 | 10m、常緑高木 | 自然林、植林地、河川敷、海岸の低木林に生育。日本では、低地～山地の溪流沿いの水辺に生える。 | 沖縄には果樹として古い時代に導入されたが、食味が淡白であることからあまり普及しなかった。現在では、観葉植物として流通、栽培される。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも琉球の山地の溪流沿いにも侵入している。こうした場所は、生物多様性の保全上重要な地域の中での、希少種等も生育する環境である。こうした環境に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 増殖は通常は実生によるが、挿し木によるものもある。 | ⑩)海外:ISSG | 便覧、写真図鑑、有用、琉球産、熱帯花木、IPSW、JF、園芸事典 | |
| 166 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | クマツヅラ | ナガボソウ属 | <i>Stachytarpheta</i> spp. | | IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (◎) | ○ | - | ・チリメンナガボソウ <i>S. dichotomaha</i> 1967年渡来、琉球で帰化。 ・インドナガボソウ(ミズイロナガボソウ) <i>S. indica</i> は1967年に琉球に帰化。 ・フトボナガボソウ <i>S. jamaicensis</i> は戦後、琉球と小笠原に帰化。 ・ナガボソウ(ホナガソウ) <i>S. urticifolia</i> は1938年以前に琉球、小笠原に帰化。 | 1~2.5m、多年草 | 路傍、荒地、畑地、牧草地、放牧地、森林、林縁、撹乱地等に生育。乾いた所から多少湿った所まで土壌適応性が大きい。 | 国内では、種小名が不明ものが流通している。フトボナガボソウは、ジャワ等で若芽を食用に、中国等では薬用に利用される。 | 海外で侵略的な外来種とされ、国内でも生物多様性の保全上重要な小笠原諸島や南西諸島で、問題となりつつある。このような地域には、持ち込まない。 | 対策の対象、海洋島、奄美はナガボソウ(ホナガソウ)。小笠原はチリメンナガボソウとフトボナガボソウ。和名と学名は便宜に基づいて、有用では、ホナガソウ <i>S. jamaicensis</i> (<i>S. indica</i>)、世継 I ではナガボソウ <i>S. cayennensis</i> (<i>S. australis</i> 、 <i>S. dichotomaha</i>)。種子繁殖が容易で、生育が早く、群生するため、放置すると雑草害が大きい。 | ⑤)対策:H20<4、⑥)専門家:海洋島23、⑦)各県:小笠原・奄美、⑧)その他:藤井委員 | 世継 I、写真図鑑、便覧、有用、Ylist、JF、IPSW | | |
| 167 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | キツノマゴ | ヤナギハルイソウ(ムラサキイセハナビ、ルエリア・フリリアナ、リュエリア、メキシコベチニア) | <i>Ruellia brittoniana</i> | 湿地や河原 | IV | | | ◎ | x | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | ○ | - | メキシコ原産、合衆国のフロリダ州やハワイで侵略的。 | 1974年頃、アメリカ軍により非意図的に沖縄本島に持ち込まれた。沖縄、九州、四国の南部で雑草化。 | 1.0m、多年草 | 河原や空地等の礫地や道路の舗装の隙間に生育する。湛水状態でも育つなど適応性幅が広い。日当たりの良い場所で周年開花する。 | 観賞用の栽培が増え、様々な花色の園芸品種が流通、栽培される。 | 海外で侵略的になっている地域があり、日本でも南西諸島の水湿地で繁茂している。環境への適応性も大きいことから、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域には、持ち込まない。 | 南西諸島の水湿地で繁茂。別学名 <i>R. tweediana</i> 、 <i>R. caerulea</i> 、 <i>R. simplex</i> <i>R. malacosperma</i> 。果実は10~20個の扁平な種子を有する。 | ⑦)各県:奄美 | 便覧、写真図鑑、藤井委員、JF、園芸図鑑、GW、USDA | |
| 168 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | キク | カッコウアザミ、ムラサキカッコウアザミ(オオカッコウアザミ)、アゲラタム(総称名) | <i>Ageratum conyzoides</i> 、 <i>A. houstonianum</i> | | IV | | | ◎ | x | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (◎) | ○ | - | カッコウアザミは南アメリカ原産。高半島の熱帯から暖帯に広く分布。ムラサキカッコウアザミは熱帯アメリカ原産。 | カッコウアザミは、明治初期に渡来し、本州～九州、琉球、小笠原で帰化。ムラサキカッコウアザミは1887年頃に渡来し、本州(関東以西)、四国、九州、小笠原で帰化。 | 0.6m、一年草 | カッコウアザミは古くから花壇や切り花用に栽培される。薬草として利用される。ムラサキカッコウアザミはより花が大きく香りが良いため様々な園芸品種が観賞用に栽培される。アゲラタムの名前で流通、販売されている。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島で野生化している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域には、持ち込まない。 | 奄美はムラサキカッコウアザミ。ISSG、専門家、対策はカッコウアザミ。冠毛の基部に先が針状の刺があり、動物の毛、人の着物などで果実が散布される。 | ⑤)対策:H20<4、⑥)専門家:海洋島18、⑦)各県:奄美、⑩)海外:ISSG | 世継 I、便覧、写真図鑑、有用、JF、園芸事典、帰化植物 | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

資料2-2

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|-----------------------------|------------|-------------|-----------|-----------|-------------|------|---------------------------|--|--------------|-------|-------|----|----|----|----|------|-----------|----|-------|------|----|-------------------------------------|---|---|---|---|---|--|--|--|--|---|---|--|-------------------------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来種/旧要注意種 | | | | | | 生態系被害 | | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 競争 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | | 気候 | 永続 | 人体 | 経済産業 | 利用 | 付着 | 混入 | | | | | | | | | | | | |
| 169 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | キク | タチアワユキセンダングサ(オオバナセンダングサ) | <i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i> | | IV | | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | 熱帯アメリカ原産、世界の暖帯～熱帯に広く分布。 | 江戸時代(弘化年間(1844～48年))に渡来。本州～九州、琉球、小笠原で帰化。 | 1m、一年草 | 道端、畑地、空地等いたるところに生育。 | 近年、健康食品等として宮古ビデンス・ピロサが栽培、販売されている。その他にビデンスの名前で様々な園芸品種が流通、栽培されている。 | 本種を含む <i>B. pilosa</i> は、世界的にも侵略的になっている種類である。その中でも本種は、南西諸島や小笠原諸島といった生物多様性の保全上重要な地域で繁茂している。このような場所には、持ち込まない。 | 南西諸島で繁茂しているのはオオバナセンダングサ <i>B. pilosa</i> var. <i>radiata</i> 。その他に、コセンダングサ <i>B. pilosa</i> var. <i>pilosa</i> 、シロバナセンダングサ <i>B. pilosa</i> var. <i>minor</i> がある。④FAOと⑤対策はコセンダングサ、⑥専門家ではアユウキセンダングサ、⑦広島はシロバナセンダングサとコセンダングサ、⑧河川はシロバナセンダングサとコセンダングサ、⑨ISSGとPIERでは <i>B. pilosa</i> 。 | ①要注意、②W100:日本、③村中:B、④FAO:6、⑤対策:H23:1、⑥専門:海洋島21、⑦各県:愛知・竜岡、⑧河川:15.40.52、48.71.83⑨海外:ISSG | 雑管、便覧、写真図鑑、外来生物、勝山委員、有用、園芸事典、JF、琉球弧 |
| 170 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | 旧要注意 | キク | ヒマワリヒヨドリ | <i>Chromolaena odorata</i> | | IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (◎) | - | ○ | 熱帯アメリカ原産、アジア、オーストラリア、太平洋諸島、マスカリン諸島に分布。 | 1980年に石垣島で確認、沖縄島にも分布。 | 7m、低木の草本 | 畑地、樹園地、牧草地、道端、林縁、低木林、荒地、川岸などに生育。土壌の種類を選ばず、日当たりの良い所を好む。 | 海外では観賞用に栽培される。インドでは魚を獲るための毒物に利用する。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。 | 海外の熱帯地域を中心に侵略的な外来植物となっており、日本でも南西諸島や小笠原諸島では大きな脅威になる可能性がある。生物多様性の保全上重要な地域には、持ち込まない。 | 南西諸島や小笠原では、大きな脅威になる可能性がある。別学名 <i>Eupatorium odoratum</i> で、セコドリバナ属に分類されることもある。 | ①要注意、②W100:LU:CN、⑩海外:ISSG | 外来生物、藤井委員、写真図鑑、IPSW、世世I | | | | |
| 171 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | | キク | タワダギク | <i>Pluchea odorata</i> | | IV | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | - | - | 北アメリカ～南アメリカ北部原産。ハワイでは深刻な雑草となっている。 | 沖縄では戦後帰化したのち、広範囲に広がり、貴重植物群落にまで侵入している。沖縄周辺の島でも見られるようになった。1968年に和名が名づけられた。奄美地域への侵入も危惧される。 | 3m、低木の草本 | 当初、沖縄本島中部の日当たりの良い原野を中心に散在、現在では沖縄本島全域とその周辺の島でも見られるようになった。 | 海外では、ハーブティーとして利用される。日本での本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | セイラギギ属 | ⑦各県:奄美 | 便覧、写真図鑑、GAWW | | | | |
| 172 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | | イネ | シマズメノヒエ(ダリガラス) | <i>Paspalum dilatatum</i> | 里草地 | IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | ◎ | ◎ | 南アメリカ原産。北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニア、太平洋諸島。 | 1915年小笠原で確認。本州、四国、九州、琉球、小笠原諸島。 | 1.5m、多年草 | 畑地、牧草地、芝生地、路傍、溝、荒地、鉄道、川岸、土手に生育。湿った肥沃地を好む。耐水性、耐暑性があり、酸性土壌に適応する。 | 暖地型牧草で、乾草および放牧用に適する。日本で育成された品種もある。本州では第二次大戦後に緑化用に使われ、急速に増加した。 | 奄美諸島や小笠原の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所での利用には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | 種子と根茎で繁殖。アレロパシー作用がある。種子は風、雨、動物、人間による。九州では果樹園や道端の雑草として問題になっている。 | ③村中:C、⑦各県:広島・宮崎・奄美、⑧河川:19.42.64、⑩海外:ISSG | 飼料、便覧、写真図鑑、世世III、帰化植物 | | | | |
| 173 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | | イネ | タチズメノヒエ(ベイズーグラス) | <i>Paspalum urvillei</i> | | IV、V | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | ◎ | ◎ | 南アメリカ原産。北アメリカ、アジア、オーストラリア、アジアなどに分布。 | 1958年福岡で確認。本州(関東以西)、四国、九州、琉球。 | 1.5m、多年草 | 畑地、芝地、路傍、荒地、海岸埋立地、果樹園に生育。日当たりの良い湿った土壌を好む。発芽適温は30～35℃。 | 本種の利用状況に関する情報は得られなかった。 | | 鹿児島、沖縄のサトウキビ畑の強毒雑草となっている。種子と根茎で繁殖。種子の形成量が多く、水、動物、人間により伝播。種子は休眠性を持つ。アレロパシー作用もある。株は冬枯れしないので、大株になると伐去が難しくなる。繁殖力が極めて強い。宮崎県では近年、植葉村などの奥地にも広がっている。 | ③村中:C、⑦各県:広島・宮崎・奄美、⑧河川:19.42.64、⑩海外:ISSG | 世世III、雑管、便覧、写真図鑑、帰化植物 | | | | | |
| 174 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | | イネ | ムラサキタカオススキ | <i>Saccharum formosanum</i> var. <i>pollinioides</i> | | IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | - | - | 台湾原産 | 復帰後(1972年)に帰化。1976年に沖縄本島名護市二見の道路法面で採集された。発見された当時は数株だけの小群落であったが、沖縄本島中部以北に普通にみられるようになった。 | 1.5m、多年草 | 日当たりの良い原野にみられる。北部山地では林道を介して侵入を広げつつあり、自然植生への影響が懸念される。 | 台湾では、時に栽培される。国内での本種の利用に関する情報は得られなかった。 | | 別学名 <i>Erianthus formosanus</i> var. <i>pollinioides</i> 。奄美地域への影響も危惧されている。 | ⑦各県:奄美 | 便覧、写真図鑑、Ylist、目録、園芸事典 | | | | |
| 175 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | | ヤシ | トウ厲の一種(カラムス) | <i>Calamus</i> sp. | 自然林 | IV | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | ○ | - | - | トウ厲は約375種がインドからマレーシア熱帯地域に分布。台湾には3種が自生。 | 石垣島で補栽培が広がっており、今後分布域を拡大する可能性が高い。 | つる性 | 腐植質の多い土壌を好む。多湿を好み、とくに幹の細い種類は湿地に自生するため乾燥に弱い。 | 日本ではカラムスの名前で観葉植物に利用されている。全体に刺が多く鉢栽培には不適。タイフントウ(シマトウ、水藤、スイトウ、スイトウズル) <i>C. formosanus</i> 、ロタントウ <i>C. rotang</i> (<i>C. roxburgii</i>)等が販売、栽培される。 | 西表島や石垣島の自然林に定着し、在来植物との競合、駆逐が危惧される。棘があることから、人的な被害も予想される。駆逐は困難になると予測される。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 未定のため、トウ厲かどうか断定できない。西表島や石垣島の自然林に定着すると、棘による人的な被害も予想される。 | ①その他:横田委員 | 有用、横田委員、Ylist、JF、園芸事典 | | | | |
| 176 | 小笠原・南西諸島 | その他の総合対策外来種 | | | | ショウガ | ハナシユクシャ(シユクシャ、バタフライシユクシャ) | <i>Hedychium coronarium</i> | | II、IV | ◎ | × | - | - | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ○ | - | インド～マレーシア原産。オーストラリア、南アメリカ、アゾレス諸島、マスカリン諸島、太平洋諸島に分布。アフリカ南部、ハワイ諸島で侵略的。 | 園芸植物として江戸時代に渡来。沖縄への渡来年は不明。山口、宮崎、琉球、小笠原で帰化。 | 2m、多年草 | 湿性林、湿地、川岸など、やや湿度のある場所を好む。自生地では林内に生育する。熱帯では周年、日本では夏から初秋にかけて開花する。 | 切り花や観賞用に広く栽培される。根茎や花の精油を薬用や香水に利用する。根茎のデンプンを用いる。多くの種類雑種が作られている。 | 奄美地域では、国の天然記念物、国立公園特別保護地区である湯湾岳の頂上に植えられて問題とされている。海外でも侵略的な外来種とされ、林内でも生育できるため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | めつたに結実しないため、主に根茎による栄養繁殖で増える。 | ⑦各県:奄美、⑩海外:ISSG | 写真図鑑、便覧、有用、JF、園芸事典、IPSW | | | | |
| 適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 177 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | | マタタビ | キウイフルーツ(シナサルナン) | <i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i> | 森林 | IV | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | - | ◎ | - | 中国原産で、ニュージーランドで改良されて品種が渡来。 | 北海道、本州、四国の一部で逸出。 | 8m、つる性の落葉木 | 幼木時代には寒害を受けやすいが、樹齢が進めば休眠中の耐寒性は相当に強くなる。遅霜、風害には弱い。土壌条件は乾燥、過湿にも弱い。カンキツ類の栽培適地にほぼ一致する。 | 1969年に実生苗と導入苗から初結実をみて、近年栽培面積が増加している。様々な品種がある。 | 河川で増加傾向にあり、鳥により種子が散布されることから、雑木林への影響が危惧されている。こうした環境へ侵入するおそれのある場所での栽培を中止する場合には、つるが周囲に伸びたり、種子が運ばれることのないよう、適切な管理が望まれる。 | 耕作放棄地等からつるが伸びだして周囲の植生を圧迫する可能性がある。種子をつけ始めると急速に分布拡大の危険性がある。雌雄異株なので、結実には両性の株が必要。別学名 <i>Actinidia deliciosa</i> 、オニサルナン(広義) <i>Actinidia chinensis</i> | ⑥専門家:雑木7、⑦各県:埼玉・愛媛、⑧河川:0.5.10 | 便覧、木本I、有用、JF、Ylist、園芸事典 | | | | |
| 178 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | | バラ | ピワ(ヒワ) | <i>Eriobotrya japonica</i> | 石灰岩質の岩崖地 | IV | ◎ | × | - | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | - | - | ◎ | - | 中国四川省・湖北省原産。北アメリカ、太平洋諸島、レユニオン島に分布。 | 奈良時代からあり、本州(関東以西)、四国、九州で野生化。 | 10m、常緑高木 | 日本では、暖地の石灰岩地に生える。海外では、農耕地、自然林、植林地、河岸、荒地、攪乱地に生育する。 | 様々な品種が食用に栽培される。葉用にも利用される。海外でも食用や観賞用に栽培される。 | ピワが生育する石灰岩地は、特有な植物群落が生ずる貴重な環境である。そのため、そうした場所に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。 | 太平洋諸島やレユニオンでは侵略的な外来種となっている。 | ⑥専門家:岩場13、⑩海外:ISSG | 便覧、木本I | | | | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更があった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

資料2-2

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | 特定外来種/旧要注意 | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|------------|----|---|--|--------------------------|------|-------|----|----|-------|----|----|---------|----|----|------|-----------|------|-------|-----|------|--------|--|---|--|---|---|---|---|---|----------------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | | | 定着可能性 | | | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 持続 | | 人体 | 経済産業 | | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | |
| 179 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | 旧要注意 | マメ | ハリエンジュ(ニセアカシア) | <i>Robinia pseudoacacia</i> | 河原、海岸林、リング園の周辺 | Ⅱ、Ⅳ | | | ◎ | × | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | - | 北アメリカ合衆国、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、南アメリカに分布。 明治8年の渡来。北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 25m、落葉高木 | 市街地や海岸から低山地までの荒地、土手、野原などにしばしば群生する。 | 河川を中心に分布を拡大しており、北海道9県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。種子が風や水で拡散されていると考えられている。こうした拡散のおそれに対応するため、養蜂業においては最重要蜜源植物のひとつ。アカシア蜂蜜は国産蜂蜜では最も高価で取引されている。特に長野県、秋田県等のアカシア蜂蜜主産県では、開花状況によって年度変動はあるものの、8割から9割がアカシア蜂蜜であり、代替となる種は現在のところ存在しない。 | H24に改正された養蜂振興法第六条では、「蜜源植物を補栽、除去、又は伐採しようとする者は、その目的に反しない限りにおいて、蜜源植物の増大を旨としてこれを行わなければならない。」とされ、国・地方公共団体に蜜源植物の保護・増殖に対する必要な施策を講ずることが求められている。 | ①要注意、②W100:日本、③村中:A、④FAO:10、⑤対策:H20<4、H23<4、⑥専門家:河原50、⑦各県:北海道・青森・埼玉・兵庫・愛知・鳥取・愛媛・佐賀、⑧河川:56.89.97、⑨三省:環・農・林・国都・国道 | 便覧、帰化植物、雑草、牧草、農林水産省 |
| 180 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | | マメ | 外来クサフジ類(ピロードクサフジ(ヘアーベッチ、シラゲクサフジ)、ナヨクサフジ(スームズベッチ)) | <i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> , <i>V. villosa</i> ssp. <i>varia</i> | 河川敷や山地草原 | Ⅳ | | | ◎ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | - | (○) | ◎ | - | ピロードクサフジは1941年に野生化が確認、北海道、本州、四国、九州、琉球。ナヨクサフジは1943年に野生化が確認、本州、四国、九州、琉球。 | 茎の長さ1.5m、つる性の一年草 | 道端、畑地、牧草地、樹園地、荒地、河川敷、草地などに生育。山地まで生え、熱帯では高地にみられる。 | 河原で繁茂することから、カワラモギ、マダヒギ等の河原植物と競合し、駆逐するおそれがある。群馬県では、県の絶滅危惧種A類のレンリソウ自生地に繁茂している。河川に侵入して種子が拡散される場所は、持ち込まない。 | FAOと群馬県はナヨクサフジ。特定の系統の牛では生害例がある。在来のクサフジ等、似た種類が多い。種子は、風、雨、動物により分散。アレロパシー作用がある。 | ④FAO:6、⑥専門家:河原32、⑦各県:群馬県、⑧河川:9.16.27.4.4.2 | 世雑Ⅱ、便覧、帰化植物、牧草、群馬県RDB | | |
| 181 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | | イネ | コスカグサ(レッドトップ)、クロコスカグサ | <i>Agrostis gigantea</i> , <i>Agrostis nigra</i> | 河川敷、絶滅危惧種のヌカボウの生育地周辺 | Ⅰ、Ⅳ | | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | ヨーロッパ原産、北アメリカ、アジア、オセアニア、南北アメリカ等、温帯～亜寒帯。合衆国やカナダで侵略的とされる。 | 1.0m、多年草 | 畑地、牧草地、樹園地、路傍、草原、湿地、水辺などに生育。日当たりの良い所を好む。耐寒性が強く、強酸性土壌に生え、耐旱性もある。湿潤であれば土壌の種類を選ばないが、一般に粘質土壌～壤土に多く、やせた土地にも適応する。 | 河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。青森県や栃木県では自然草原に侵入し、問題となっている。国立公園や草原に特有な希少種等が生ずる自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防ぐために、結実前に刈り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せず適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | 種子、地下茎および匍匐茎で繁殖する。1穂当たりの生存種子数は約1,000個、休眠期間が短く、湿潤な土壌表面で容易に発芽する。土壌中の種子の寿命は5年以上。アレロパシー作用を持つ。世界的に温帯～亜寒帯地域にみられる畑地雑草で、コムギ、オムギ、エンゾク、牧草類、果樹類の減収や品質低下をもたらす。日本でもコムギ、パレインシ、テンサイ畑の雑草とされる。在来種が再生するような環境では、コスカグサを緑化につかうべきではないとされる(ISSG)。コスカグサの別学名 <i>Agrostis alba</i> 。コスカグサとクロコスカグサの間には中間型もあり、同種として扱う見解もあるため、両種を含む。 | ③村中:B、⑦各県:青森・栃木・奄美、⑧河川:52.87.93、⑨三省:環・農・林・国都・国道、⑩海外:ISSG | 便覧、イネ、世雑Ⅲ、雑草、花粉、農林水産省・林野庁、Ylist、GOW、帰化植物、イネ、藤井委員 | |
| 182 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | 旧要注意 | イネ | カモガヤ(オーチャードグラス) | <i>Dactylis glomerata</i> | 山地草原 | Ⅱ、Ⅳ | | | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 地中海～西アジア原産、ヨーロッパ、北アメリカから導入、北海道、本州、四国、九州、琉球 | 1.5m、多年草 | 畑地、樹園地、路傍、荒地、土手、草地、河川敷、林縁、湿地、沿岸域等に生育。日当たりの良い温暖地で、肥沃な所を好む | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査で法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せず適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | (独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布)家畜改良センター法510①三として、増殖を行っている。 トウモロコシ、モロコシ、コムギ、果樹の雑草。 | ①要注意、②W100:日本③村中:A、④FAO:10、⑥専門家:草原42、⑦各県:青森・埼玉・愛知・兵庫・奄美、⑧河川:57.104.105、⑨三省:環・農・林・国都・国道 | 便覧、帰化植物、写真図鑑、世雑Ⅲ、雑草、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省・林野庁 | |
| 183 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | 旧要注意 | イネ | オニウンノゲサ(トールフェスク、ケントッキー31フェスク) | <i>Festuca arundinacea</i> | 里草地、河川堤防などの半自然草地、亜高山帯の草地 | Ⅱ、Ⅳ | | | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | (○) | ◎ | - | ヨーロッパ、北アメリカ、西アジア原産、亜寒帯～暖帯 | 2.0m、多年草 | 牧草地、市街地、運動場、庭、路傍、荒地、河原、林縁等に生育。日当たりの良い、肥沃で水分の豊富な所を好む。 | 子モシーやオーチャードグラスと比較すると栄養価は劣るが、環境実証に強い飼料用(主に放牧用)や緑化用として全国で利用されている。特に、寒地型の永年生の牧草としては、関東以西の温暖地で利用可能な種が非常に少なく、代替品種はない。世界的に利用されている牧草の一種。牧草として利用する際は、種子が結実する前に収穫するため、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。多くの種苗会社から販売されており、公共機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。「生態環境対応型トールフェスク」として、農研機構及び雪印種苗が共同開発した「MST-1(無花粉トールフェスク)」や生産性の低い「ボンサイ3000(緑性トールフェスク)」という品種が開発されているが、種子の価格が高いことや生産性が低いことから、緑化用としての利用に限定されており、代替は非常に困難。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。奄美地域では、要注意外来生物に選定される等でも利用されなくなった。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川で分布を拡大し、三省調査で法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、北海道や本州の亜高山帯にある国立公園の自然草原へ侵入し、草原に特有な希少種等への影響が問題となっている。このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せず適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | (独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布)家畜改良センター法510①三として、増殖を行っている。オーストラリア、ニュージーランド、合衆国の一部地域で侵略的となっている。 | ①要注意、②W100:日本③村中:A、④FAO:8、⑥専門家:草原43、⑦各県:青森・栃木・埼玉・愛知・広島・佐賀・奄美、⑧河川:61.99.112、⑨三省:環・農・林・国都 | 世雑Ⅲ、花粉、外来生物、IPSW、農林水産省・林野庁 |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

資料2-2

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | |
|-----|------------|---------|-----------|-----------|-----------|----|-------------------------------|---|-------------------|---------|-------|----|----|----|---------|------|-----------|-------|----|----|----|--------|--------|--|---|--------------------------|---|--|--|---|--|--|-----------------------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 生態系被害 | | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 定着可能性 | 競合 | 交雑 | 改変 | 分布拡大・拡散 | | | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | | | | | | | | | | 経済産業 | 利用 | 付着混入 |
| 184 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | 旧要注意 | イネ | ドクミギ属(イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス等) | <i>Lolium</i> spp. | 河原や自然草原、ボウムギは海岸砂地 | IV | | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ原産、温帯～暖帯 | 明治時代に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 1.0m、一年草～多年草 | 畑地、樹園地、路傍、空地、荒地に生育。日当たりの良い、温暖な肥沃地を好む。 | 飼料用(主に採草用)として全国で利用されており、関東以西の単年生牧草としては、(おそらく)最も利用されている草種。北海道・沖縄を除く地域では、基幹となる草種。牧草として利用する際は、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。多くの種苗会社から販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。比較的耐湿性を有することから水田裏作での栽培に適していることや、さらに生産性・栄養価・嗜好性等非常に優れており、代替となる種はない。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。 | 河川での分布拡大のほか、三省調査でも法面緑化地周辺で逸出が確認されている。特に、河川敷への侵入が問題となっている。国立公園や、特になり希少種等が生育している河川敷周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | (独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布 家畜改良センター法 § 10①三)として、増殖を行っている。ネスミムギ(イタリアンライグラス) <i>L. multiflorum</i> 、やホソムギ(ペレニアルライグラス) <i>L. perenne</i> 、これらの雑種であるハイブリッドライグラス <i>L. x hybridum</i> 等が利用されている。家畜に食べられて糞に混入して運ばれることが多い。アレロパシー作用がある。ボウムギ <i>L. rigidum</i> は海岸砂地に群生する。①藤井委員 | ①要注意、③村中・B、④FAO: 8、⑤対策: H23.2、⑥専門家: 河原37、⑦各県: 青森・栃木・埼玉・愛知・兵庫・広島・奄美、⑧河川: ホムキ42.66.82、ネスミムギ56.100.108、ホソムギ8.19.22、イタリヤネスミムギ0.0.3、ホムキ3.6.5⑨三省: 環・農・国道、⑩藤井委員 | 世雑Ⅲ、雑穀、花粉、粗飼料、農林水産省・林野庁、藤井委員、写真図鑑 |
| 185 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | 旧要注意 | イネ | オオアワガエリ(チモシー) | <i>Phleum pratense</i> | 亜高山帯や山地の草原 | II、IV | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ～シベリア原産、温帯 | 明治初期に入り、全国に分布 | 1.0m、多年草 | 畑地、樹園地、路傍、荒地に生育。冷涼で多湿の気候を好み、肥沃な日当たりの良いところに多い。 | 飼料用(主に採草用)としてオーチャードと並び最も広く利用(沖縄を除くほぼ全国)されており、北海道～東北地方では基幹となる草種で、北海道で利用される牧草のうち最も面積が広い。世界的に利用されている牧草種のひとつ。牧草として利用する際は、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。多くの種苗会社から種子が販売されており、公的機関及び民間種苗会社での品種開発も行われている。多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。生産性・永続性・栄養価等の観点から、代替となる草種はない。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、利用されている。 | 自然草原への侵入が問題となっている。国立公園や、特になり希少種等が生育している自然草原の周辺では可能な限り利用を控えるか、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | (独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布 家畜改良センター法 § 10①三)として、増殖を行っている。ミヤマアワガエリとの交配可能。①要注意、③村中・B、④FAO: 9、⑤対策: H20.4、⑥専門家: 草原38、⑦各県: 愛知、⑧河川: 24.39.34、⑨三省: 国道 | 世雑Ⅲ、農林水産省・林野庁 | | |
| 186 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | | イネ | モウソウチクなどの竹類 | <i>Phyllostachys edulis</i> , <i>Phyllostachys</i> spp. | 二次林、自然林 | II、IV、V | | | | | | | | | | | | | | モウソウチクは中国原産。マダケ <i>P. reticulata</i> やは中国原産もあつたが日本原産らしい。ハチク <i>P. nigra</i> var. <i>henonis</i> は中国原産説と日本原産説がある。 | モウソウチクは江戸時代に渡来。北海道南部から九州で栽培、逸出。マダケは本州、四国、九州、沖縄で栽培。ハチクは北海道中部以南から沖縄で栽培。 | 約20m、木本 | 植林地、里山の二次林や自然林にも侵入し、林床の環境も変えてしまう。 | 筍としての食用、竹材、物を包むのに皮が利用される。 | 既にある竹林については、放棄することなく適切に利用、管理されることが望ましい。適切な管理が持続できない場所へは、新たに持ち込まない。 | ③村中・B、④FAO: 7、⑤対策: H23.1、⑥専門家: 雑木47、⑦各県: 埼玉・愛知・広島 | 便覧、樹の花5 | | |
| 187 | 分布拡大期～まん延期 | 産業管理外来種 | | | | イネ | ナギナタガヤ(ネスミノソウ) | <i>Vulpia myuros</i> | 海岸砂地、草原 | IV | | | | | | | | | | | | | | ヨーロッパ～西アジア原産。世界的に温帯～暖帯に分布。オーストラリアでは侵略的。 | 明治初年に入り、北海道、本州、四国、九州、琉球。 | 0.6m、一年草 | 畑地、牧草地、庭、路傍、荒地などに生育。日当たりの良い砂質土壌を好む。海辺の砂地、乾いた草地に多い。 | 密な群落を作つて他の雑草を抑えるため、近年は果樹園や道端の雑草防除剤の一つとして、改良品種を含むナギナタガヤが、流通、販売され、栽培されている。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも河川等で分布を拡大している。大量に利用されるようになると、生物多様性の保全上重要な地域にも侵入するおそれがある。果樹園等で利用する際には、利用しない種子を放置せずに適切に処分する。 | これまでナギナタガヤはそれほど大きな問題にはなっていないが、大量に種子が撒かれることにより、周辺への影響が心配される。温帯域の畑地、牧草地の雑草となっている。 | ③村中・B、⑦各県: 奄美、⑧河川: 52.91.98 | 世雑Ⅲ、勝山委員、便覧、写真図鑑、IPSW | |
| 188 | 小笠原・南西諸島 | 産業管理外来種 | | | | イネ | ギネアキビ(ギニアグラス、ギネアキビ、イヌキビ) | <i>Panicum maximum</i> | | II、IV | | | | | | | | | | | | | | 熱帯の東アフリカ原産。18世紀から20世紀初頭までに熱帯アジアから太平洋・豪州に導入された。現在は、アフリカ、南ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカの熱帯、亜熱帯の各地に広く分布。南アメリカの熱帯地域と太平洋地域のガラパゴス諸島やハワイ諸島で侵略的となっている。 | 1971年渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球(奄美大島、沖縄島)で帰化。 | 2m、多年草(短年性の品種もある) | 本来は熱帯アフリカの肥沃な土壌で自生し、最適降雨条件は1,000~1,300mmとされているが、各地に導入されるのに伴い、遺伝的に変異し、多くの生態型がある。耐旱性、耐湿性、耐塩性、耐暑性の高い様々な品種が含まれる。路傍、荒地、畑地、牧草地、草地、岩石地、川岸、攪乱地に生育。日当たりの良い湿った所を好み、乾いた土壌にも適応する。 | 暖地型(永年性)牧草として、関東～沖縄地方で飼料利用されている草種。センチュウ抵抗性があることから、緑肥としてもハウス等での利用が行われている。牧草として利用する際は、種子が飛散して繁殖する可能性は通常はない。生産性や栄養価が高いことから、飼料的価値は非常に高く、多くの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。品種開発も公的機関及び民間種苗で行われている。特に沖縄地方で利用可能な草種は限定されるため、代替は困難。 | 海外で侵略的な外来生物とされ、奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島は固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所で利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | ISSGでは <i>Urochloa maxima</i> 。その他別学名多数あり。(独)家畜改良センターの業務(飼料作物の増殖に必要な種苗の生産・配布 家畜改良センター法 § 10①三)として、増殖を行っている。種子と根茎により繁殖する。種子の伝播は風、雨、動物、人間による。種子の生産量は9000個以上/株で、休眠性を持つ。 | ⑦各県: 奄美、⑧河川: 0.2.1、⑩海外: ISSG、⑪その他: 藤井委員 | 便覧、写真図鑑、農林水産省、牧草、帰化植物、世雑Ⅲ、IPSW | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報)(案) <植物>

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網掛けのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

資料2-2

【国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会議版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | 原産地・分布 | 日本での分布 | 形態 | 生育環境等 | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | |
|-----|----------|---------|-----------|-----------|----|---------------------------------|-----------------------------|--------------|-------|-------|----|----|-------|----|----|---------|----|----|----|------|-----------|-------|---|---|----------------------------|--|---|--|--|--|-------------------------------------|--------------------------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | | | | | | 定着可能性 | | | 生態系被害 | | | 分布拡大・拡散 | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | | | 経済産業 | | | | | | | | | | 利用 |
| 189 | 小笠原・南西諸島 | 産業管理外来種 | | | イネ | アメリカスズメノエ(パヒアグラス、オニスズメノヒエ) | <i>Paspalum notatum</i> | | II、IV | | | ◎ | - | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | (◎) | ◎ | - | 南アメリカ原産、北アメリカ、アフリカ、南アジア、オーストラリアに分布。 | 1969年渡来。本州(関東以西)、四国、九州、琉球。 | 0.8m、多年草 | 畑地、樹園地、牧草地、水田、路傍に生育。日当たり良い湿ったところに生育。土壌の種類を選ばない。耐干性がある。 | 飼料用(主に放牧用)として利用されている暖地型の永年性牧草で、関東以西で利用されている。九州地域での利用が盛ん。生産性の高い永年性の牧草としては、耐暑性をもちかつ越冬可能(琉球地域を除く地域)な種は、他にシマズメノヒエ(ダリスグラス)が知られている程度であり、代替種はない。国内で開発された品種もあり、種子も流通している。いくつかの県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。緑化植物として早期緑化(崩壊地やのり面等の緑化)の観点から非常に優れていることから、広く利用されている。 | 奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島の固有種や希少種の生息・生育地の周辺などでは可能な限り利用を控えるか、このような場所での利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。牧草利用の際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈を適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | 種子と根茎で繁殖する。種子形成量が多く、風、雨、動物、人間で伝播する。アレロパシー作用がある。熱帯～亜熱帯で牧草地から逃げ出して雑草となっている。雑草害はイネ、野菜、芝草、柑橘類、材木に発現する。海外では危険性の高い植物との評価がある。ブラジルでは深刻な雑草、キューバでは重要な雑草、アルゼンチンやハワイでは一般的な雑草等となっている。 | ③村中：C、⑦各県：広島・奄美、⑧河川：13.41.58、⑨三省：国道 | 世雑Ⅲ、便覧、帰化植物、農林水産省・林野庁、GAWWV、GCW、PIER |
| 190 | 小笠原・南西諸島 | 産業管理外来種 | | | イネ | ナビアグラス(ネビアグラス、エレファントグラス、ペルーグラス) | <i>Pennisetum purpureum</i> | | II、IV | | ◎ | ○ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | (◎) | ◎ | - | 熱帯アフリカ原産、南北アメリカ、オーストラリア、東南アジア等、世界の熱帯～亜熱帯で栽培され、暖帯の一部にまで分布。アフリカ南部、合衆国南東部、カラバゴス諸島で侵略的とされる。 | 昭和初期に奄美大島に導入され、1955～1965年にかけて九州、沖縄で広く栽培された。千葉県、東京都、鹿児島(奄美諸島)、琉球で帰化。関東以北では、高さ2～4mまでに生育できるが、出穂することはない、冬も越せない。 | 2～5m、多年草 | 畑地、水田、水路、畦畔、溝、路傍、森林、草地、荒地、川岸、海岸の砂浜等、幅広い環境に生育する。年間降水量1,000mm以上、日当たりの良い所、湿った土壌を好み、土壌の種類を選ばない。耐旱性が強く、耐冠水性や耐霜性はやや劣る。 | 暖地型(永年性)牧草として九州～沖縄地方の無霜地帯で利用があり、世界的に利用されている。主に青刈り、サイレージとして利用されるが、放牧利用されることもある。栄養価及び生産性が高いため、飼料的価値が高く、鹿児島県(奄美)及び沖縄県の奨励品種に登録されており、生産が奨励されている。九州～沖縄地方で利用可能な草種は限定されるため、代替は困難。育種はおもにアフリカ、アメリカ等で行われている。種内の形態的変異が大きい。近縁のトウジンビエ(<i>P. typhoides</i>)の雑種は、不稔であるが生育がよく、飼料に適している。土壌侵食防止や防風のために植え付け、稗で履根をふいたり、囲いをつくったりする。 | 海外で侵略的となっている地域があり、奄美諸島の生態系等に影響を及ぼすことが危惧される。奄美諸島は固有種や希少種が多い地域であることから、このような場所での利用する場合には、種子の逸出を防止する配慮が必要である。結実前に刈り取りを行い、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の非意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 | 奄美地域には鹿児島県RDB準危険のシマチカラシバ <i>P. sordidum</i> が生育。種子と根茎により繁殖する。種子形成量が少なく、ほとんど不稔であるため、主に根茎による繁殖が行われる。繁殖は3～4根節ずつ切った茎を挿すか、株分けによる。茎の断片は1節あると再生し、伝播の重要な手段となる。熱帯～亜熱帯の牧草地から逸出して雑草化している。イネ病害虫の奇主となることも知られている。 | ⑦各県：奄美、⑩その他：藤井委員 | 写真図鑑、農林水産省、便覧、世雑Ⅲ、有用、粗飼料、IPSW | |

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <植物>

資料2-2

網かけセルはパブリックコメント後に変更のあった項目。具体的な追加・修正箇所は太字・下線で示した。一行全体が網かけのものは、新規追加またはカテゴリが移動したことを示す。(新規追加は全ての文字が太字・下線)

【国内由来の外来種、国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

※緊急対策外来種・重点対策外来種のみ

H26年度第2回リスト作成会識版

| No. | 定着段階 | カテゴリ | 対策優先度の要件※ | | | 科名 | 和名(別名、流通名) | 学名 | 特に問題となる地域や環境 | 選定理由 | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | 分布 | 形態 | 生育環境など | 利用状況 | 利用上の留意事項 | 備考 | 抽出根拠 | 文献等 | | | |
|-------------------------------|----------|-------------|-----------|-----------|-----------|--------|--------------------------|---------------------------|------------------------------|---------|-------|----|-------|----|----|----|---------|----|----|----|------|-----------|----|-------|--|---|--|---|---|---|--|---|--|------------------------------|------------------------------------|
| | | | 被害の深刻度 | 実効性・実行可能性 | 特定外来/旧要注意 | | | | | | 定着可能性 | | 生態系被害 | | | | 分布拡大・拡散 | | | | 重要地域 | 特に問題となる被害 | | 逸出・拡散 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 生物 | 導入 | 競合 | 交雑 | 改変 | 散布 | 繁殖 | 気候 | 永続 | 人体 | | 経済産業 | 利用 | 付着混入 | | | | | | | | | | | |
| 定着を予防する外来種(定着予防外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 侵入予防外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 191 | 国内由来の外来種 | 侵入予防外来種 | | | | イワツタ | 変異種のイチイツタ(キラ海藻) | <i>Caulerpa taxifolia</i> | | IV | ○ | ○ | ◎ | - | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | - | ◎ | - | - | イチイツタは南西諸島に分布しているが、世界的に問題となっているのは地中海の変異型で、変異型の日本での定着は確認されていない。 | 熱帯～亜熱帯海域に分布するものは20℃以下では生存できないが、地中海に生育するものは10℃以下でも死滅しない。 | 本種の流通、販売は確認されなかったが、水族館で展示されていたこともあり、観賞用の海藻として熱帯魚店などで販売される可能性がある。 | 海外で侵略的な外来種とされ、日本でも利用されている可能性がある。栽培に用いた水を含め、自然海域に持ち込まない。 | 緑藻植物門 | ②W100:IUCN・日本、⑦各県:佐賀、⑩海外:ISSG、⑪その他:岩崎委員 | H16第1回G会合植物資料、海洋産業研究会(2003) | | | | |
| 総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 緊急対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 192 | 国内由来の外来種 | 緊急対策外来種 | ①②③ | ⑤ | | トウダイグサ | 小笠原諸島・奄美諸島などのアカギ | <i>Bischofia javanica</i> | 小笠原諸島や奄美諸島 | II、IV | | | | | | ◎ | × | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | 琉球(沖縄諸島、八重山列島) | 25m、半常緑性高木 | 森林に広くみられるが、野生化どうか不明な所も多い。 | 庭木、街路・防風樹。市販品が流通、販売されている。 | 温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 | 首里金城の大アカギは文化財保護法で天然記念物に指定。 | ②W100:日本、③村中:A、⑤対策:H20<4、⑥専門家:海洋島、⑦各県:小笠原、⑩海外:ISSG | 木本I、樹木、JF | | | |
| 重点対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 193 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | マツ | 小笠原諸島などのリュウキュウマツ(オキナワマツ) | <i>Pinus luchuensis</i> | 小笠原諸島 | II、IV | | | | | | ◎ | × | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ◎ | - | 吐噶喇列島以南の琉球 | 25m、常緑高木 | 暖地の森林に生える。 | 庭木、防風・防潮樹に利用される。市販品が流通、販売されている。 | 温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、小笠原諸島など自然分布域でない場所では可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 | 母島・父島の松枯れの原因のマツノダラカミキリがグリーンアノールに被害されて、再繁殖。落葉層による他種の発芽抑制。 | ⑤対策:H20<4、⑥専門家:海洋島25、⑦各県:小笠原 | 木本I、樹木、JF |
| 194 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | クワ | 小笠原諸島などのガジュマル | <i>Ficus microcarpa</i> | 小笠原諸島の父島 | II、IV | | | | | | ◎ | × | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ◎ | - | 屋久島以南・琉球、台湾・中国大陸南部・東南アジア・インド・ニューギニア・オーストラリア | 20m、常緑高木 | 海岸近くに生える。 | 南西諸島では防風、防潮用のほか木陰樹としても植えられる。市販品が流通、販売されており、観賞植物としても利用される。 | 温暖な地域では分布拡大の可能性が高いので、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 | 果実は食べられる。ISSGの表題は <i>Ficus microcarpa</i> | ⑥専門家:海洋島6、⑦各県:小笠原、⑩海外:ISSG | 木本I、JF、観葉植物 |
| 195 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | クワ | 小笠原諸島などのシマグワ | <i>Morus australis</i> | 小笠原諸島のオガサワラグワの生育地 | I、II、IV | | | | | | ◎ | ◎ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | - | - | ◎ | - | 九州南部、南西諸島から中国大陸、インド東部 | 10m、落葉高木 | 低山地の林内に生える。 | 養蚕用に栽培される。市販品が流通、販売されている。 | クワ属の在来種の生育場所の周辺では、可能な限り利用を控えるか、花粉の散布を防止する配慮が必要である。 | シマグワ <i>M.austaralis</i> とヤマグワ <i>M.bombicis</i> を分ける見解と、ヤマグワ(シマグワ) <i>M.austaralis</i> として同種とする見解がある。 | ⑥専門家:海洋島24・文種24、⑦各県:小笠原 | 木本I、有用、園芸事典、樹木、JF |
| 196 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | ケシ | 白山などの高山帯のコマクサ | <i>Dicentra peregrina</i> | 白山、北海道の樽前山・羊蹄山・前天塩岳、白山、日光白根山 | I、II、IV | | | | | | ◎ | ◎ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | - | - | ◎ | - | 北海道・本州中北部、千島・カムチャツカ・樺太・シベリア東部 | 0.1m、多年草 | 高山の砂礫地に点々と生える。 | 市販品が流通、販売されている。 | 産地が異なるものや不明なものは、遺伝的攪乱を引き起こすので持ち込まない。高山帯は、自然公園法等により植物の植栽が規制されている。 | 自然公園法の指定植物。 | ⑥専門家:高山22、⑪その他:白山で駆除 | 草本II、JF |
| 197 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | トウダイグサ | 屋久島などのアブラギリ(ドクエ) | <i>Vernicia cordata</i> | 屋久島 | I、II、IV | | | | | | ◎ | ◎ | - | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | - | ◎ | - | 本州(中部地方以西)、四国、中国、九州、朝鮮半島、中国、台湾。 | 15m、落葉高木 | 山地に生えるほか、栽培される。強健で生長は比較的早く、湿潤な土壌、日当たりを好む。剪定、移植に耐える。 | 種子からとる桐油は有毒だが、乾性油としてすぐれ、印刷用インクやペンキ、油紙などに利用。昔は和傘に塗った。樹皮のタンニンには染色や皮なめしに利用。材は下駄や器具に利用。 | 強健で生長は比較的早く、シカの食害を受けにくいことから急激に増加し、在来種との競合、駆逐が危惧される。生物多様性の保全上重要な地域へは、持ち込まない。 | 別学名 <i>Aleurites cordata</i> 。中国の広東省と福建省が原産で日本には約300年前に渡来したとされたが、中国には自生しないことから、現在では日本が原産と考えられている。種子が原因の食中毒の事例がある。増殖は実生による。 | ⑪その他:日本生態学会 | 便覧、千葉県植物誌、Ylist、目録、樹花4、木本I、有用、園芸事典 |
| 198 | 国内由来の外来種 | 重点対策外来種 | ①②③ | | | オオバコ | 高山帯のオオバコ | <i>Plantago asiatica</i> | ハウサンオオバコが生ずる白山や立山 | I、II、IV | | | | | | ◎ | ◎ | - | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | - | ◎ | ◎ | 千島・樺太、北海道・琉球、朝鮮、中国 | 0.5m、多年草 | 日当たりの良い道端や荒地に普通 | 市販品が流通、販売されている。葉に斑が入る園芸品種が栽培される。 | 高山植物であるハウサンオオバコとの交雑が確認され、遺伝的攪乱が危惧されている。こうした問題は野生品の非意図的な持ち込みによると思われるが、栽培品についてもこうした問題を引き起こさないよう、オオバコ属の希少種の生育場所の周辺には持ち込まない。 | | ⑤対策:H20:14 | 草本III、雑管、花粉、JF、園芸事典 | |
| その他の総合対策外来種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 199 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | | | | タデ | 山地のギンギン | <i>Rumex japonicus</i> | 北海道、早池峰、立山など、希少種のギンギン属の生育場所 | I、II、IV | | | | | | ◎ | ◎ | - | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | 日本本土、朝鮮・中国・千島・樺太 | 1.0m、多年草 | 原野や道端の湿地に多い | 市販品が流通、販売されている。薬用や染色に利用される。 | ギンギン属の植物は雑種を作りやすく、希少種の遺伝的攪乱が懸念される。ギンギン属の生育場所の周辺には持ち込まないか、花粉の散布を防止するよう配慮する。 | 日本では最近報告はないが、シュウ酸を含むので中毒を起こす。 | ⑤対策:H20<4 | 草本II、雑管、花粉、牧草、JF、園芸事典、世継II | |
| 200 | 国内由来の外来種 | その他の総合対策外来種 | | | | ヤシ | 九州北部以北の森林内などのシュロ類 | <i>Trachycarpus</i> spp. | 温暖な地域の森林 | I、IV | | | | | | ◎ | ◎ | - | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | - | - | ◎ | - | シュロ <i>T.fortunei</i> は南九州の原産で中国にも分布、トウシュロ <i>T.wagnerianus</i> は中国原産。本州以南に分布。 | 7m、常緑高木 | 市街地を中心に野生状態のものが見られる。 | 市販品が流通、販売されている。 | 二次林にも自然林にも侵入するので、特に温暖な地域では、可能な限り利用を控えるか、種子の逸出を防止する配慮が必要である。 | シュロとトウシュロの識別はやや困難。ISSGはシュロ <i>T.fortunei</i> | ⑥専門家:雑木38・極相25、⑦各県:埼玉、⑩海外:ISSG | 便覧、木本II、JF | |

<種の抽出に利用した既存の文献等>

作業量の限界から、全体で数百種類程度となるよう、かつできるだけ異なる観点から抽出を行った。

①特定外来生物(12種)と要注意外来生物(84種)

②IUCNのワースト100のうち植物27種(在来種を除く全種が既に①に含まれている)。http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN

日本の侵略的外来種ワースト100のうち植物26種(既に全種が①に含まれている)。日本生態学会(2002)外来種ハンドブック。 地人書館。

③村中ら(2005)掲載の108種(※河川重視の評価)。

村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷲谷いづみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討。 保全生態学研究10: 19–33.

④FAO方式による雑草性リスク評価の結果。6点以上の特に注意すべき外来植物（＊は今後導入される可能性のある外来植物）

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会(2008)外来生物のリスク管理と有効利用。 養賢堂。

⑤地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種(数字は対策事例数)

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書。

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書。

⑥専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた)種(数字は回答者数)

ハビタットの種類:海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養砂礫地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価　http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lecture/invasiveness2010.pdf

⑦都道府県などで特に侵略的または優先的に対策すべきとされる種

北海道ブルーリスト2010, http://bluelist.hokkaido-ies.go.jp/

カテゴリーA2:本道の生態系等へ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種17種(カテゴリーA1はなし、A3は106種が掲載)

青森県(2006)青森県外来種対策学術調査報告書―青森県外来種リスト―. http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/files/2008-0607-1553-a.pdf

カテゴリーA(侵略的定着外来種):本県に定着している外来種のうち、生物多様性への影響が報告されている又は懸念される種のうち、代表的な選定種30種

栃木県、長谷川順一(2008)栃木県の自然の変貌, 自然の保全はこれによいのか(自刊)。

近年増加が顕著な帰化植物

群馬県、石川真一・清水義彦・大森威宏・増田和明・柴宮朋和(2009)外来植物の脅威―群馬県における分布・生態・諸影響と防除方法―。上毛新聞社事業局出版部。

県内で生育が確認され、生態系等への被害が想定される「県内危険外来種」11種

埼玉県環境防災部みどり自然課(2005)埼玉県内において在来の植生に悪影響を及ぼすおそれのある侵入的外来植物について。改訂・埼玉県レッドデータブック2005植物編299–306pp.

危険度5　極めて危険・すでに在来植生に侵入し、在来種と競合して在来種を駆逐しているもの。コカナダモ、オオフサモなど17種

・すでに在来の種と交雑し、雑種に繁殖力があるもの。セイヨウタンポポなど

危険度4　非常に危険・すでに在来植生に侵入し、近い将来、在来種を駆逐する危険の高いもの。オニマタビなど25種

・すでに在来種との交雑が確認されているが、現時点では雑種に繁殖力がないもの

侵入した植生のタイプ:河川敷、池沼・湿地、落葉樹林、林縁、路傍等

千葉県外来種対策(植物)検討委員会(2010)千葉県の外来種(植物)の現状等に関する報告書。　http://www.bdcchiba.jp/alien/bdc-alien/alienplantsreport2009.pdf

「影響度」および「緊急度」、「容易性」がともにAランクの23種

愛知県環境部自然環境課(2012)愛知県の移入動植物ブルーデータブックaiti2012(STOP!移入種　守ろう！あいちの生態系～愛知県移入種対策ハンドブック～付属資料抜刷)

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/handbook/pdf/10_shiryou3-plants.pdf

環境影響が大きい、あるいは今後大きくなることが予想される植物78種

愛知県、上記のうち「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(以下「条例」という。)において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種13種

http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/gairai/jorei.html

滋賀県で注意すべき外来生物、10種　http://www.lbm.go.jp/emuseum/zukan/gairai/shiga.html

ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例、**指定外来種**　http://www.pref.shiga.lg.jp/d/shizenkankyo/kyoseijourei.html#kisyo_gairai

京都府外来生物情報、京都府外来生物リスト

被害甚大種(京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に策が必要な外来種)5種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/list/spermatophyta.html

被害危惧種(京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来種)のうち特に被害が大きいと認められる種37種　http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html

兵庫県(2010)生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物への対応、兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

　2警戒種(生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される32種)

鳥取県生物学会(2007)鳥取県の外来性動植物のリスト(2007)。山陰自然史研究3:37–45.

本県への影響大とされる10種

岡山県、外来食虫植物の除去(岡山県自然保護センター) http://opnacc.eco.coocan.jp/chosa-kenkyu/gairai-shokuchu-shokubutsu.html

広島県、吉野由紀夫・太刀掛優・関太郎(2007)広島県における外来植物の現状とその問題点。比婆科学224:1–18.

ランクA:広島県の自然生態系に重大な影響をおよぼすおそれのある種64種

愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく侵略的外来生物の公表について　http://www.pref.ehime.jp/h15800/gairaiseibutu/index.html、侵略的外来生物40種

佐賀県環境の保全と創造に関する条例、移入規制種18種、http://www.pref.saga.lg.jp/web/kurashi/_1262/_33058/_33943/jourekiseishu.html

宮崎県版レッドデータブック改訂検討委員会(2011)改訂・宮崎県版レド―データブック宮崎県の保護上重要な野生生物。宮崎県環境森林部自然環境課。植物のブラックリスト11種類

小笠原諸島、延島冬生(2010)小笠原諸島に侵入している外来植物の現状。植調44(1)5–13。侵略的外来樹木9種、侵略的外来草本8種

奄美、環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所(2010)平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出規制植物種検討調査業務報告書。

⑧多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種(表の数字は3回の調査での確認河川数で、下記に該当する種は太字で示した)
河川水辺の国勢調査1・2・3巡目調査結果一括検討(河川版)(生物調査編)/平成20年3月　国土交通省河川局河川環境課　http://www3.river.go.jp/gaiyou.ntm

a.多くの河川で確認されている

　1巡目から3巡目までのいずれかで、出現率(出現河川数／対象河川数)が50%を超えるもの(史前帰化植物を除く)。

b.確認される河川数が急激に増えている

　1巡目から3巡目までに確認河川が4倍以上、または2巡目から3巡目までに確認河川数が2倍以上になった種

(各回の対象河川数の違いは出現率として補正して算出、1巡目や2巡目の出現河川数が0の種類も含む、3巡目の確認河川数が10以上を対象)

　1巡目: H2～H7に78河川で実施、2巡目: H8～H12に119河川で実施、3巡目: H13～H17に121河川で実施

⑨緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種(括弧内は調査実施主体の略)

環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局(2006)平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書。

なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向(案)の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、(外国産)在来緑化植物とされている。

⑩海外の評価

ISSG掲載の在来種以外: Lists of Invasive Alien Species (IAS), http://www.issg.org/database/reference/Index.asp

⑪その他

検討委員からの情報提供

【主な参考文献と略称】

Bossard, C. C., J. M. Randall and M. C. Hochovsky. 2000. Invasive Plants California’s Wildlands. University of California, Berkeley. 360pp.(IPCW)

Global Compendium of Weeds、<http://www.hear.org/gcw/index.html>(GCW)

橋本栞郎(1996)ブラジル産薬用植物事典. アポック社。(ブラジル)

林弥栄(1985)山溪カラー名鑑日本の樹木. 山と溪谷社。(樹木)

Holm, L. G., J. V. Pancho, J. P. Herberger, and D. L. Plucknett (1991) A Geographical Atlas of World Weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida.(GAWW)

堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇(1989)世界有用植物辞典. 平凡社。(有用)

星野卓二・正木智美・西本眞理子(2011)日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社。(カヤツリグサ)

岩槻邦男(1992)日本の野生植物シダ. 平凡社。(シダ)

岩月善之助(2001)日本の野生植物コケ. 平凡社。(コケ)

JFコード(日本花き取り引きコード)センター <http://www.jfcode.jp/TOP.aspx>(JF)

角野康郎(2014)ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版。(角野)

草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎(1994)雑草管理ハンドブック. 朝倉書店。(雑管)

邑田仁・米倉浩司(2012)日本維管束植物目録. 北隆館。(目録)

長田武正(1989)増補日本イネ科植物図鑑. 平凡社。(イネ)

大野照好・片野田逸朗(1999)琉球弧・野山の花. 南方新書。(琉球弧)

尾崎章・河瀬晃四郎・山中雅也(1991)山溪カラー名鑑観葉植物. 山と溪谷社。(観葉)

Institute of Pacific Islands Forestry, Pacific Island Ecosystems at Risk (PIER) Plant threats to Pacific ecosystems. <http://www.hear.org/pier/index.html> (PIER)

斎藤洋三・井出武・村山眞司(2006)新版・花粉症の科学. 化学同人。(花粉)

坂崎信之(1998)日本で育つ 熱帯花木植栽事典. アポック社。(熱帯花木)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類. 平凡社。(草本Ⅰ)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類. 平凡社。(草本Ⅱ)

佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫(1982)日本の野生植物草本Ⅱ 合弁花類. 平凡社。(草本Ⅲ)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅰ. 平凡社。(木本Ⅰ)

佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫(1989)日本の野生植物木本Ⅱ. 平凡社。(木本Ⅱ)

清水建美(2003)日本の帰化植物. 平凡社。(帰化植物)

清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七(2005)牧草・毒草・雑草図鑑. 全国農村教育協会。(牧草)

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001)日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会。(写真図鑑)

自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社。(外来生物)

鈴木基夫・横井政人(1998)山溪カラー名鑑園芸植物. 山と溪谷社。(園芸)

太刀掛優・中村慎吾(2007)改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会。(便覧)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花、離弁花①. 山と溪谷社。(樹の花3)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花、離弁花②. 山と溪谷社。(樹の花4)

高橋秀男・勝山輝男(2000)山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花、合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社。(樹の花5)

高野信雄(1989)粗飼料・草地ハンドブック. 養賢堂。(粗飼料)

竹松哲夫・一前宣正(1987)世界の雑草Ⅰ—合弁花類—. 全国農村教育協会。(世雑Ⅰ)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草Ⅱ—離弁花類—. 全国農村教育協会。(世雑Ⅱ)

竹松哲夫・一前宣正(1993)世界の雑草Ⅱ—離弁花類—. 全国農村教育協会。(世雑Ⅱ)

塚本洋太郎(1994)園芸植物大事典全3巻. 小学館。

豊田武司(2003)小笠原植物図譜(増補改訂版). アポック社。(小笠原)

植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹(2010)日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会。(写真図鑑)

United States Department of Agriculture, Natural Resources Conservation Service, plants Database. <http://plants.usda.gov/java/> (USDA)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅰ. ハロウ出版社。(水草Ⅰ)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅱ. ハロウ出版社。(水草Ⅱ)

山崎美津夫・山田洋(1994)世界の水草Ⅲ. ハロウ出版社。(水草Ⅲ)

米倉浩司・梶田忠(2003-)BG Plants 和名-学名インデックスJ(YList)http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html

Weber, E. 2003. Invasive Plant Species of the World、A Reference Guide to Environmental Weeds、CABI Publishing.(IPSW)